参考資料

[1] 伊賀市の概要

(1) 位置、地勢

2004（平成 16）年 11 月に上野市、伊賀町、島ヶ原村、阿山町、大山田村、青山町の１市３町２村の合併により誕生した本市は、三重県の北西部に位置し、京都府（南山城村）・奈良県（奈良市、山添村）・滋賀県（甲賀市）に接している。広域的には、大阪から 60㎞圏内、名古屋から 80㎞圏内と、近畿圏、中部圏の２大都市圏のほぼ中間に位置し、それぞれ約１時間 30 分の距離である。

交通面においては、京都・奈良と伊勢を結ぶ大和街道・伊賀街道・初瀬街道を有しており、古来より交通の要衝として、特に江戸時代には城下町や宿場町として栄えてきた。現在では、近畿圏、中部圏の２大都市圏を結ぶ名阪国道が市域を横断し、公共交通機関も伊賀鉄道、近鉄大阪線、JR 関西本線・草津線が敷設されている。また、中心市街地の玄関口となる上野市駅前から名古屋への直通高速バスが運行しているほか、市内を中心に路線バス、さらには中心市街地を循環するバスなどが運行している。

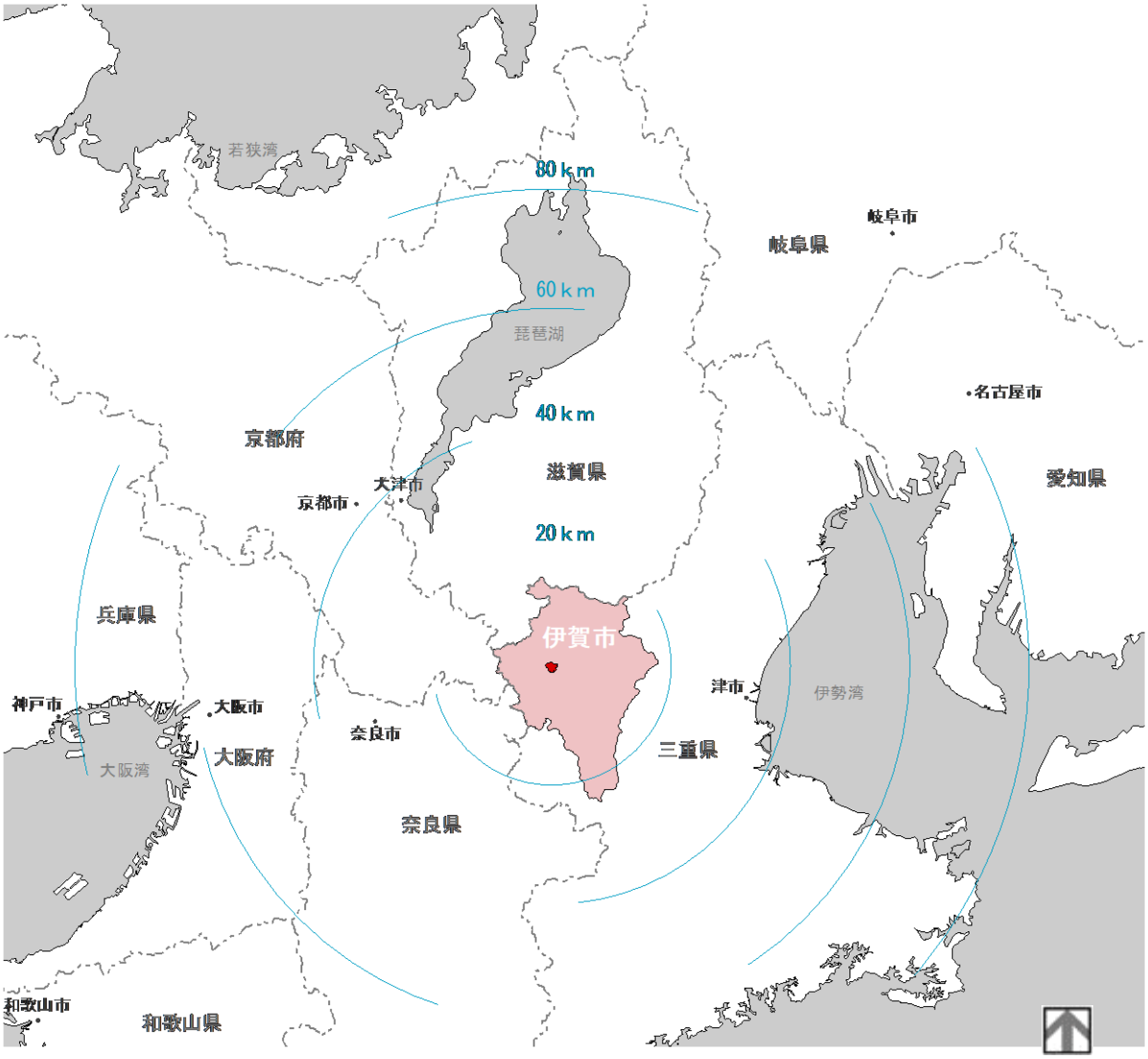
地形は北東部を鈴鹿山系、南西部を大和高原、南東部を布引山系に囲まれており、市北部は標高 700m程度の山地、市東西部及び南部は丘陵地となっているため、市域の地形は盆地状で形成されている。気候は内陸型気候の特徴を示し、夏は高温で蒸し暑く冬は低温で底冷えが厳しい。晴天時の放射冷却で朝夕は肌寒くなり、放射霧と川からの蒸気霧とで、盆地内や山間の低地では濃霧が多く発生し、特に 10 月～11 月に顕著に発生する。

水系は大阪湾に流れ込む淀川の源流域であり、近畿圏域の水源地となっている。当地域を取り巻く森林は地域の景観を形成するとともに、水源かん養、水質ろ過等の公益的機能を発揮している。特徴的な気候と良質な水が育んだ伊賀米、伊賀牛、伊賀酒などは、本市を代表する特産品である。

このような地理的・歴史的背景から、本市は京・大和文化の影響を強く受けつつも、独自の文化を醸成し、国指定伝統的工芸品の伊賀焼や伊賀組紐を有する歴史文化の薫る地域である。また、その立地から東西文化の接続点でもあり、その歴史を踏まえた独特の食文化や料理などが育まれている。伊賀流忍者や俳聖松尾芭蕉のふるさととして知られるほか、神君伊賀越えで名を残した服部半蔵、高石垣を誇る伊賀上野城を大改修した藤堂高虎、「伊賀越の仇討ち」の荒木又右衛門などが歴史に名を残している。

2016（平成 28）年には、伊賀市を中心市として、京都府笠置町、南山城村と定住自立圏を形成した。その後、2019（令和元）年に奈良県山添村が連携自治体として加わり、現在では「伊賀・山城南・東大和定住自立圏」（略称「伊賀城和定住自立圏」）という、全国的にも珍しい３府県を跨ぐ圏域をつくっている。

■ 伊賀市の位置



大和街道と伊賀街道の追分

伊賀鉄道伊賀線
「忍者市駅（上野市駅）」

伊賀城和定住自立圏

(2) 中心市街地の沿革と歴史的・文化的役割

○まちの成り立ち

1585（天正 13）年、20 万石で伊賀国に移封された筒井定次が、上野盆地のほぼ中央部に位置する丘陵に伊賀上野城を築いた。その後、1608（慶長 13）年に定次が改易され、藤堂高虎が入城すると、伊賀上野城や上野城下は大きな変貌をとげる。従来は、豊臣方の城として役目を担った伊賀上野城だが、江戸開府後は逆に西の豊臣方に対する備えを任務とすることになった。城の正面を北向きから南向きに変更したことに伴い、城下の整備は城の南を中心に進められた。外堀の南に本町筋・二之町筋・三之町筋（これら三つの筋を総称して「三筋町」という。）を東西に通し、南北に東之立町・中之立町・西之立町を配して、現在も続く上野城下の町割が形成された。鉄砲町、忍町、鍛冶町、魚町、寺町、農人町などのかつての町名が今も残っている。本町筋が奈良と伊勢を結ぶ大和街道であり、平行する二之町筋と三之町筋は魚町・鍛治町などの町家や職人町で、武家屋敷も混在する。また、寺町周辺には寺院を集中させ、東の防御線としていたことが今なお伺える。これらの江戸時代に構築された城下町は戦災に遭わずそのまま残り、現在では小京都のひとつにも数えられている。また、石垣は高虎時代のもので、日本でも有数の高さを誇っている。

○近世

明治期の廃藩置県後、中心市街地には、役場や学校、警察などの施設が整備された。この時代に建設された旧小田小学校本館や旧上野警察署庁舎、旧三重県第三中学校などの擬洋風建築からは、伊賀上野城下町が近代に至っても伊賀地域の中心性を維持し続けた様子をうかがうことができる。

さらに、戦後の高度経済成長期には、建築家坂倉準三により、上野丸之内において上野市全体計画が企画され、1959（昭和 34）年から 1966（昭和 41）年にかけて旧上野市庁舎、旧上野市立西小学校、白鳳公園レストハウスなどの公共施設が建設された。これらは、前川國男設計の東京文化会館を含む上野恩賜公園と文化施設群、丹下健三設計の国立代々木屋内総合競技場とともに、2017（平成 29）年 12 月、日本イコモス国内委員会により日本の 20 世紀遺産 20 選に選定されている。

現在では、上野城跡を中心に、藩校であった旧崇広堂、入交家住宅に代表される武家屋敷、近世初期の上野天神宮や愛宕神社などが残り、城下町のメインストリートであった本町筋には、近世後半の町家が往時の景観をとどめている。

伊賀上野城

歴史的なまちなみ

旧上野市庁舎

○地域に根ざした歴史・文化

本市は俳聖といわれる松尾芭蕉の生誕地でもあり、中心市街地には芭蕉翁生家や伊賀の芭蕉五庵の中で唯一現存している蓑虫庵、芭蕉翁の真筆や俳諧の文献を展示した芭蕉翁記念館などがあるほか、まちの多くの場所に句碑がたち、市民に今なお親しまれている。芭蕉翁の忌日である毎年 10 月 12 日には、芭蕉文学の振興と遺徳を顕彰する催しとして「芭蕉祭」を開催している。

また、毎年秋には、2016（平成 28）年にユネスコ無形文化遺産の「山・鉾・屋台行事」の一つとして登録された、約 400 年の伝統を誇る国指定重要無形民俗文化財「上野天神祭のダンジリ行事」があり、約 15 万人余りの見物客が繰り出し、まちは熱気に包まれる。上野天神宮の秋の例大祭で、百数十体に及ぶ鬼面をかぶった練物（鬼行列と呼ぶ）と９基の印と絢爛豪華な楼車が城下の三筋町をゆっくりと一日かけて練り歩く、伊賀市を代表する祭である。

このほか、藩校として全国的に稀な国の史跡旧崇広堂や、伊賀街道と大和街道の御旅所、世界一の忍術資料を誇る伊賀流忍者博物館などが点在する。

また、茶文化とともに発展した老舗和菓子店も多く存在し、「かたやき」「丁稚ようかん」「おしもん」などの伊賀銘菓や、国指定伝統的工芸品である伊賀焼や伊賀組紐があり、過去から現代、そして未来にまで紡がれる歴史と文化を継承している

俳聖殿

上野天神祭のダンジリ行事

史跡旧崇広堂

忍者に変身してまちを散策

伊賀流産品「IGAMONO」

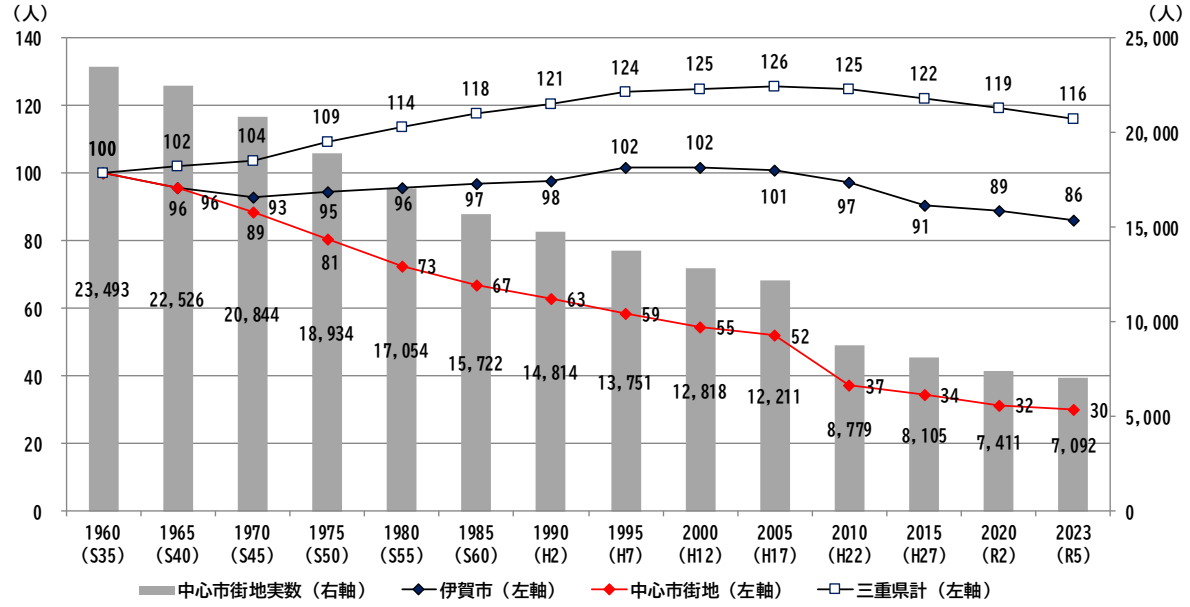
[2] 中心市街地の現状に関する統計的なデータの把握・分析

(1) 人口動態に関する状況

1) 人口の推移

中心市街地では、三重県や伊賀市全体に比べ人口減少のペースが速く、1960（昭和 35）年から 2023（令和５）年まで一貫して減少している。2023（令和５）年には、1960（昭和 35）年の人口の 30%にまで減少している。

図 14　人口の推移（1960（昭和 35）年を 100 とした場合）

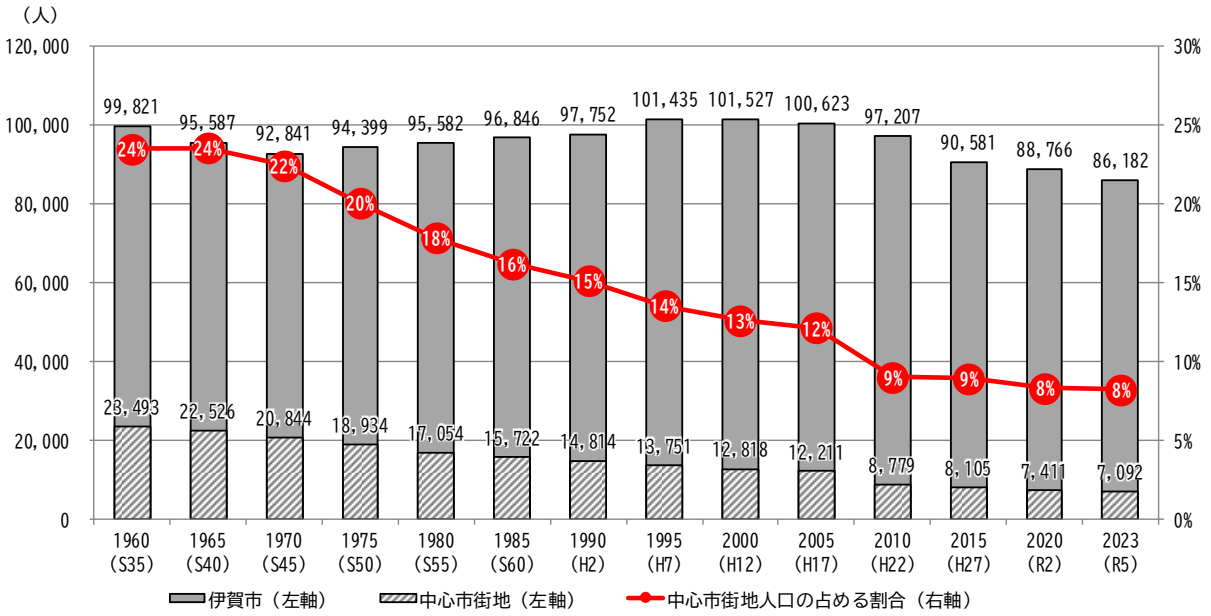


＜資料＞三重県：国勢調査、ただし 2023（R５）は、2023（R５）.10. 1　三重の統計情報
伊賀市：国勢調査、ただし 2023（R５）は、2023（R５）.９末日　住民基本台帳
中心市街地：該当する自治会の各年９月末住民基本台帳

2）中心市街地人口の割合

伊賀市全体に占める中心市街地の人口は、1960（昭和 35）年では 24%であったが、その後減少を続け、2023（令和５）年には８%にまで減少している。

図 15　中心市街地人口の市全体人口に占める割合の推移



＜資料＞　伊賀市：国勢調査、ただし 2023（R５）は、2023（R５）．９末日　住民基本台帳
中心市街地：該当する自治会の各年９月末住民基本台帳

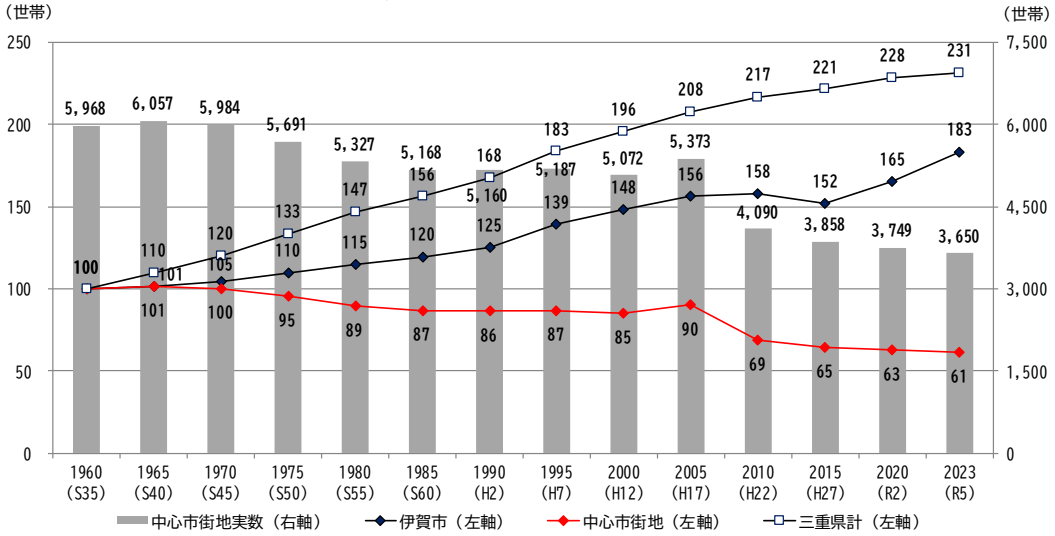
3）世帯数の推移と世帯構成

日本社会における核家族世帯の増加や、未婚化・晩婚化や高齢化の進行に伴う単独世帯の増加を反映するかたちで、三重県や伊賀市全体においても世帯数は増加し、１世帯人員は減少している。

一方、中心市街地においては、１世帯人員は 1960（昭和 35）年の 3.9 人から 2023（令和５）年には 1.9 人へと減少しているうえに、世帯数も減少している。

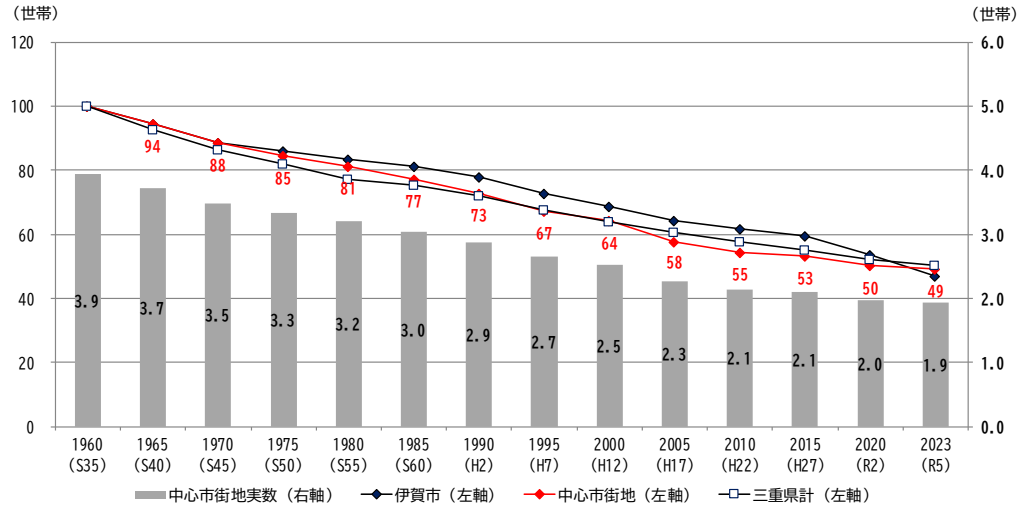
また、中心市街地の世帯構成は、伊賀市全体よりも単独世帯の割合が高く、65 歳以上の単独世帯の割合も高い。

図 16　世帯数の推移（1960（昭和 35）年を 100 とした場合）



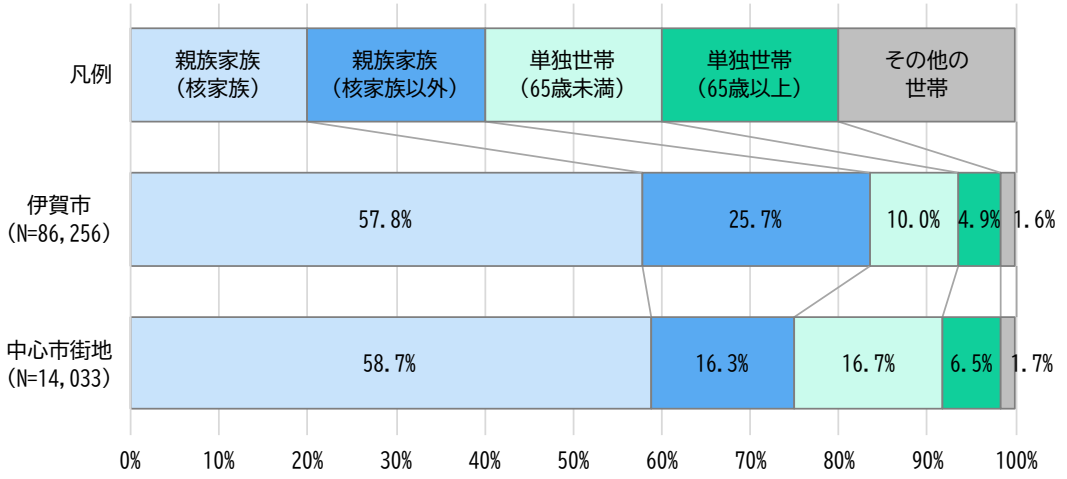
＜資料＞三重県：国勢調査、ただし 2023（R５）は、2023（R５）.10. １　三重の統計情報
伊賀市：国勢調査、ただし 2023（R５）は、2023（R５）.９末日　住民基本台帳
中心市街地：該当する自治会の各年９月末住民基本台帳

図 17　中心市街地の１世帯人員の推移（1960（昭和 35）年を 100 とした場合）



＜資料＞三重県：国勢調査、ただし 2023（R５）は、2023（R５）.10. １　三重の統計情報
伊賀市：国勢調査、ただし 2023（R５）は、2023（R５）.９末日　住民基本台帳
中心市街地：該当する自治会の各年９月末住民基

図 18　世帯構成

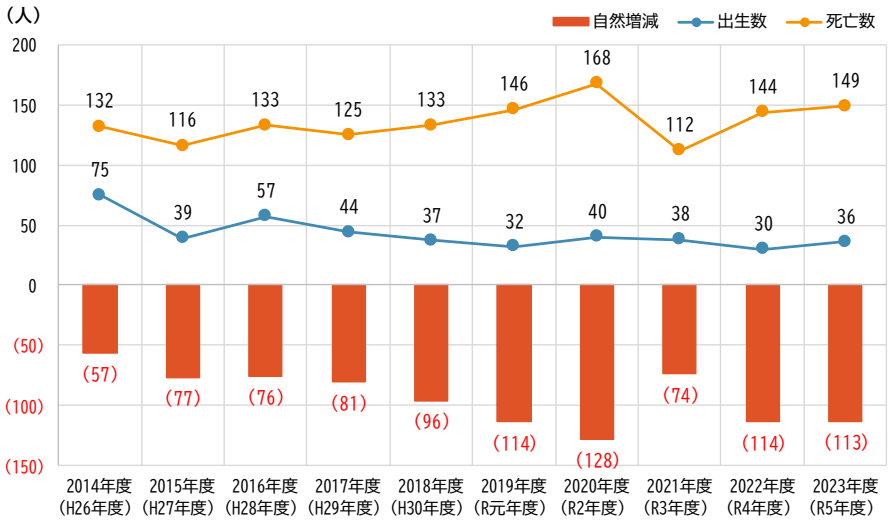


＜資料＞2020（令和２）年国勢調査

4）中心市街地の自然増減及び社会増減

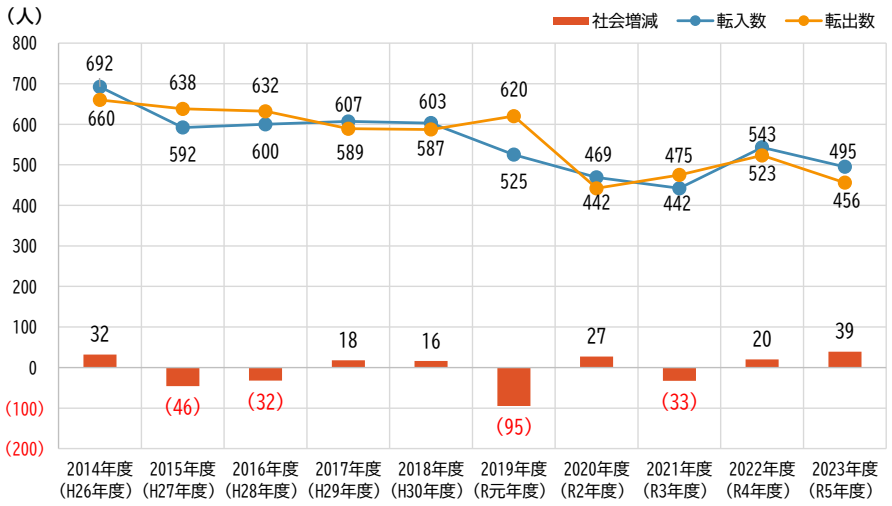
中心市街地の自然増減の状況は、終始、出生数が死亡数を下回っており、少子高齢化が顕著である。また、社会増減の状況は、転入者数が転出者数を上回る年もあるが、過去 10 年間の総数では、転出者数が転入者数を上回る転出超過となっている。

図 19　中心市街地の自然増減の推移



＜資料＞該当する自治会の住民基本台帳

図 20　中心市街地の社会増減の推移



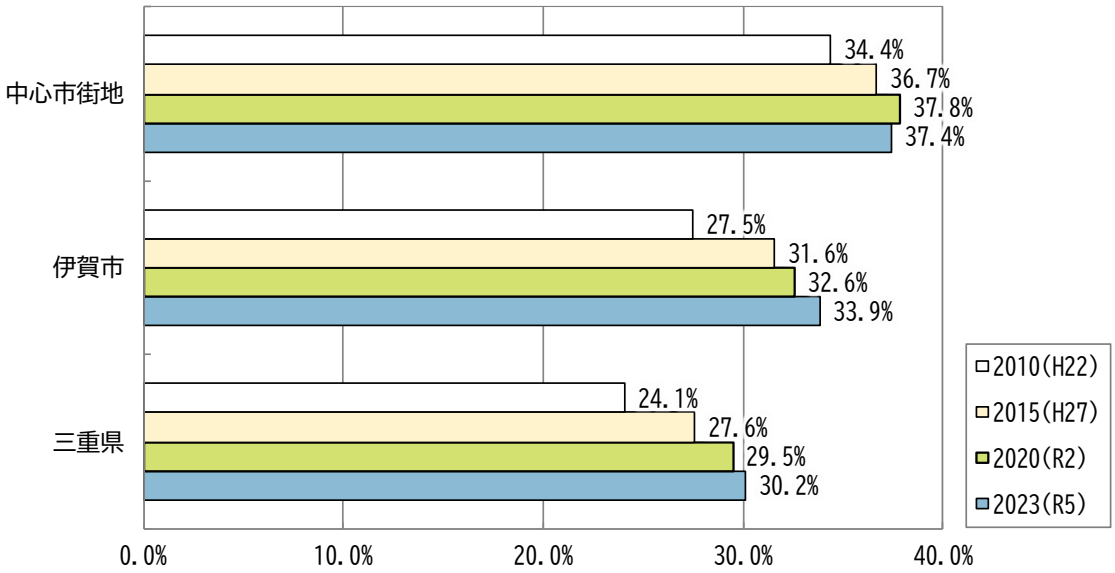
＜資料＞該当する自治会の住民基本台帳

5）高齢化率の推移

中心市街地の高齢化は、伊賀市全体に比べさらに進んでおり、2010（平成 22）年時点で高齢化率が 30%を超えている。

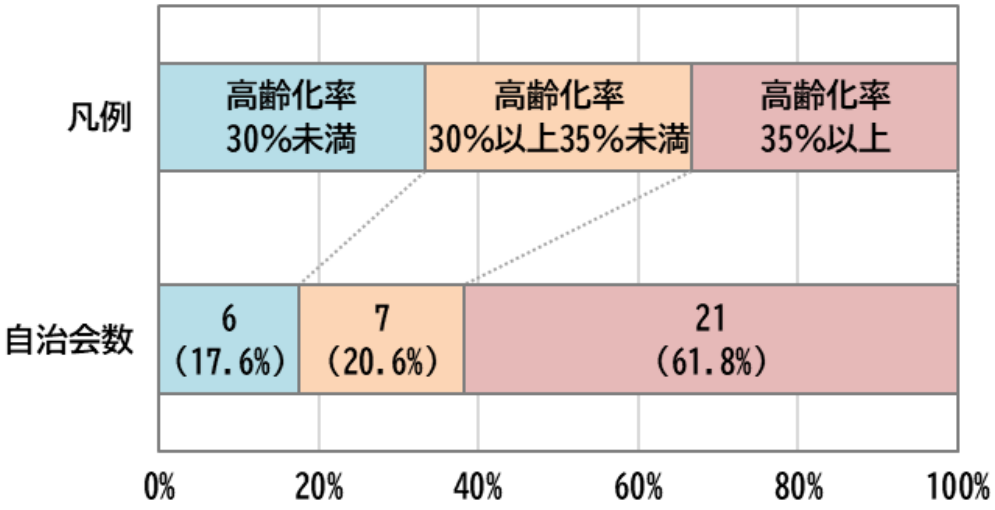
一方で、若年世代の転入が増え、高齢化率が伊賀市全体より低い 20%前後となる自治会も見られるなど、子育て世代からの居住需要は一定あることがわかる。

図 21　高齢化率の推移



＜資料＞三重県：国勢調査、ただし 2023（R５）は、2023（R５）.10. １　三重の統計情報
伊賀市：国勢調査、ただし 2023（R５）は、2023（R５）.９末日　住民基本台帳
中心市街地：該当する自治会の各年９月末住民基本台帳

図 22　中心市街地の自治会別の高齢化率



＜資料＞該当する自治会の住民基本台帳

6）中心市街地への移住状況

移住コンシェルジュを通じた移住者数をみると、本市の移住者に占める中心市街地への移住者の割合は、平均すると約７％となっている。

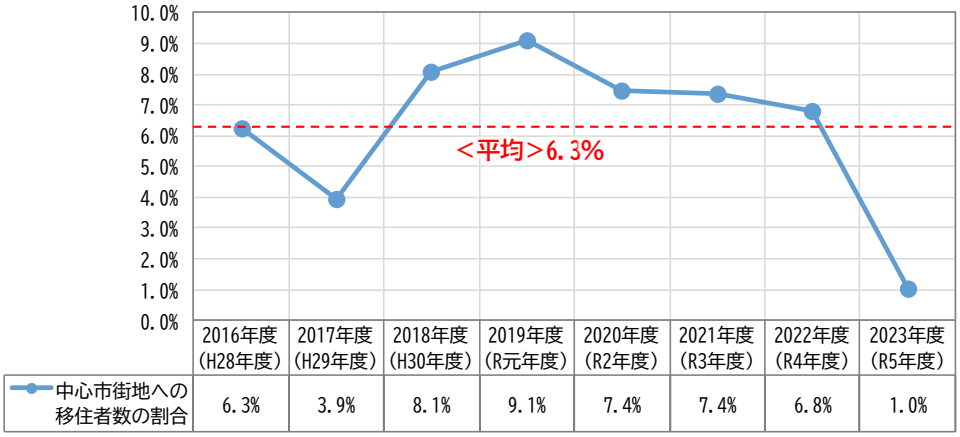
中心市街地への移住者は、20 代～40 代の子育て世代の移住者がやや多い傾向にある。

※　移住コンシェルジュとは、伊賀市内への移住検討者に対して、住まいや仕事・子育てについての情報提供や、起業に関する相談窓口の紹介、自治会との繋ぎ役などの総合的なサポートを行う主体のことである。

表 13　中心市街地への移住状況

	世帯数	人数	年代	市全域 移住者数	中心市街地への 移住者数の割合
2016年度 （H28年度）	1	2	➢ 40代･40代	32	6.3%
2017年度 （H29年度）	1	2	➢ 50代･40代	51	3.9%
2018年度 （H30年度）	3	5	➢ 40代･40代 ➢ 60代 ➢ 30代･30代	62	8.1%
2019年度 （R元年度）	4	8	➢ 40代･10代･0代 ➢ 70代･70代 ➢ 30代 ➢ 50代･10代	88	9.1%
2020年度 （R2年度）	3	7	➢ 30代･30代 ➢ 30代･30代･0代 ➢ 30代･30代	94	7.4%
2021年度 （R3年度）	4	7	➢ 40代･10代 ➢ 20代･20代 ➢ 60代･60代 ➢ 50代	95	7.4%
2022年度 （R4年度）	3	6	➢ 30代 ➢ 50代 ➢ 20代･20代･0代･0代	88	6.8%
2023年度 （R5年度）	1	1	➢ 50代	98	1.0%
計	20	38		608	6.3%

図 23　中心市街地への移住状況



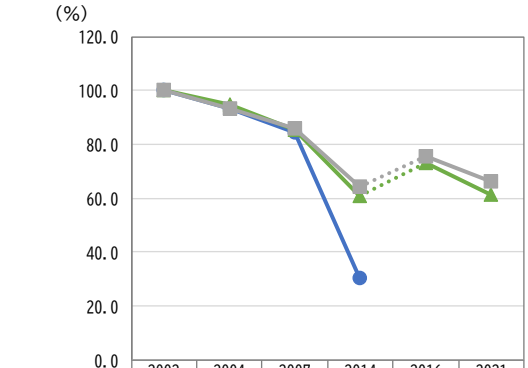
＜資料＞伊賀市調べ

(2) 商業に関する状況

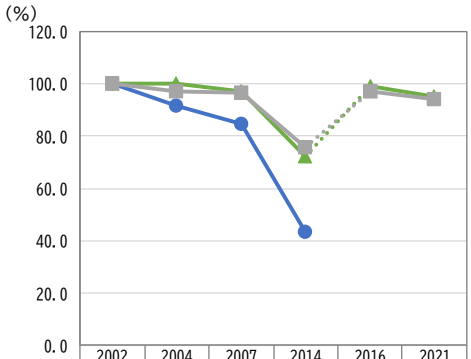
1) 小売業

中心市街地における小売業の店舗数及び従業員数は、2002（平成 14）年から 2014（平成 26）年にかけて６割以上減少している。また、年間売上高及び売り場面積は、2002（平成 14）年から 2014（平成 26）年にかけて半減している。

図 24　小売業の店舗数（左図）と従業員数（右図）の推移



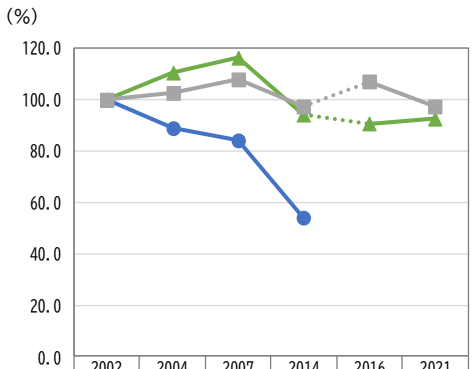
	2002 (H14)	2004 (H16)	2007 (H19)	2014 (H26)	2016 (H28)	2021 (R3)
中心市街地	100.0	93.5	84.6	30.4		
伊賀市	100.0	94.5	85.3	60.6	73.1	61.4
三重県	100.0	93.0	86.1	64.0	75.7	66.2



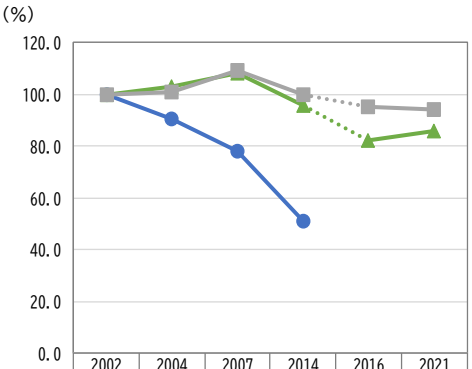
	2002 (H14)	2004 (H16)	2007 (H19)	2014 (H26)	2016 (H28)	2021 (R3)
中心市街地	100.0	91.5	84.7	43.2		
伊賀市	100.0	100.1	97.4	72.1	99.4	95.3
三重県	100.0	97.0	96.7	76.0	97.0	93.9

＜資料＞伊賀市・三重県：2002（H14）～2014（H26）「商業統計」
2016（H28）～2021（R３）「経済センサス（活動調査）」
中心市街地：2002（H14）～2014（H26）「商業統計」

図 25　小売業の年間売上高（左図）と売り場面積（右図）の推移



	2002 (H14)	2004 (H16)	2007 (H19)	2014 (H26)	2016 (H28)	2021 (R3)
中心市街地	100.0	89.0	84.3	54.3		
伊賀市	100.0	110.3	116.2	94.1	90.4	92.5
三重県	100.0	102.6	107.7	97.5	106.6	97.2



	2002 (H14)	2004 (H16)	2007 (H19)	2014 (H26)	2016 (H28)	2021 (R3)
中心市街地	100.0	90.8	78.0	50.9		
伊賀市	100.0	103.3	108.1	96.0	82.2	85.6
三重県	100.0	100.8	109.1	99.8	95.3	94.4

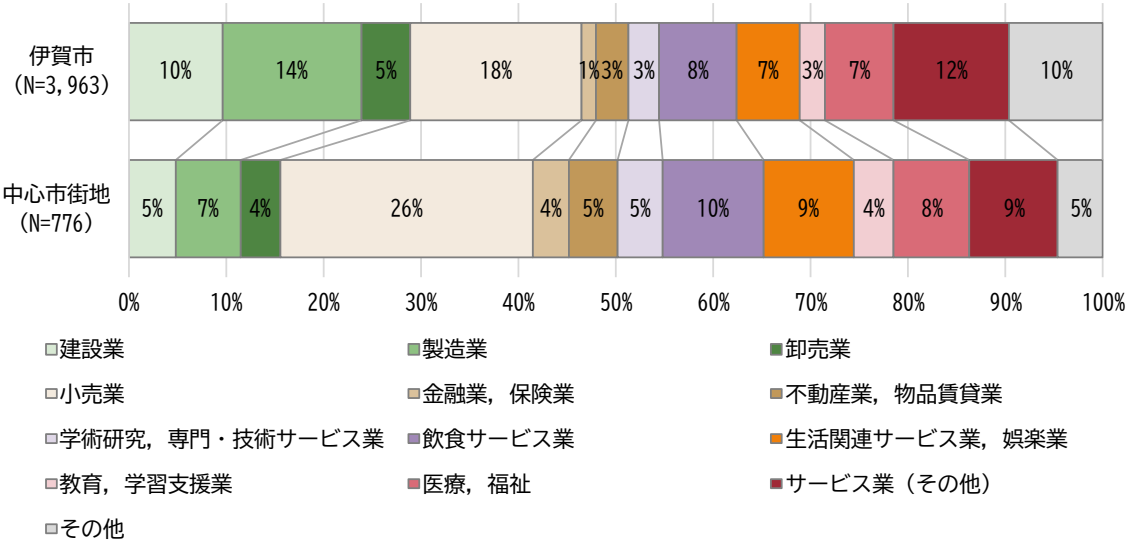
＜資料＞伊賀市・三重県：2016（H28）～2021（R３）「経済センサス（活動調査）」
中心市街地：2002（H14）～2014（H26）「商業統計」

2）業種別事業所数

中心市街地の業種別事業所数の割合は、小売業が全体の 26%と最も多くなっており、伊賀市全体の小売業の割合 18%と比べ、高くなっている。

また、中心市街地の小売店舗数は伊賀市全体の 29%を占めているが、2016（平成 28）年から 2021（令和３）年にかけて割合が減少しており、小売業は大型化・郊外化している傾向にある。

図 26　中心市街地の業種別事業所数の構成



＜資料＞2021（R３）経済センサス（活動調査）

表 14　小売業の集積状況

		中心市街地	伊賀市	中心市街地が占める割合
店舗数（事業所）	2016(H28)	263	830	**31.7%**
	2021(R3)	202	697	**29.0%**
従業者数（人）	2016(H28)	1,631	6,006	**27.2%**
	2021(R3)	1,376	5,759	**23.9%**
年間商品販売数（百万円	2002(H14)	15,191	91,034	**16.7%**
	2004(H16)	13,519	100,426	**13.5%**
	2007(H19)	12,807	105,741	**12.1%**
	2014(H26)	8,250	85,694	**9.6%**
売場面積（㎡）	2002(H14)	26,007	130,078	**20.0%**
	2004(H16)	23,612	134,334	**17.6%**
	2007(H19)	20,297	140,591	**14.4%**
	2014(H26)	13,249	124,877	**10.6%**

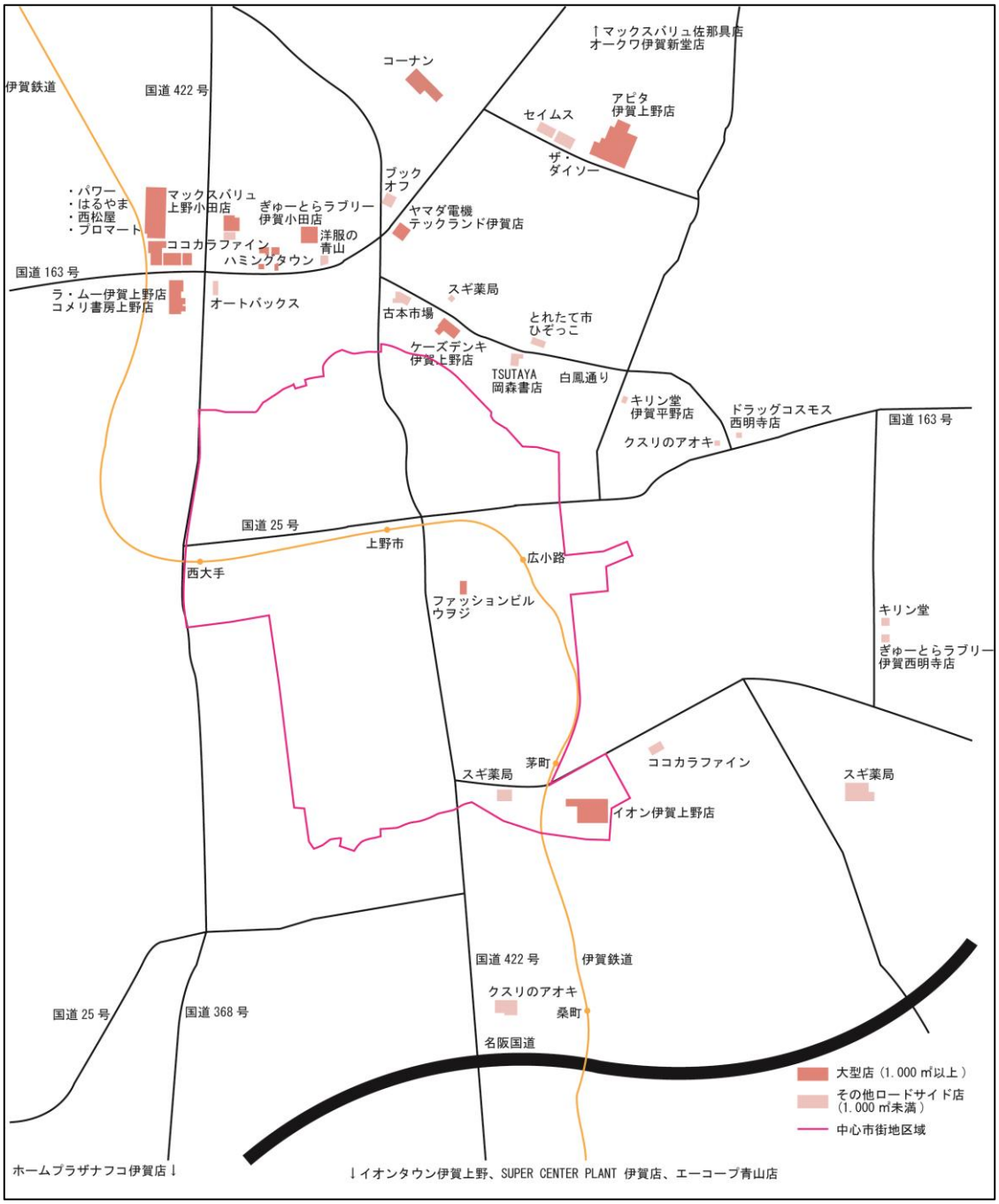
＜資料＞2002(H14)～2014(H26)：「商業センサス」
2016(H28)、2021(R３)：「経済センサス（活動調査)」

表 15　全業種の集積状況

		中心市街地	伊賀市	中心市街地が占める割合
店舗数（事業所）	2021(R3)	776	3,963	**19.6%**
従業者数（人）	2021(R3)	8,696	51,567	**16.9%**

＜資料＞2021（R３） 経済センサス（活動調査）

図 27　中心市街地周辺の大規模小売店舗等の位置図



2024（令和６）年４月時点

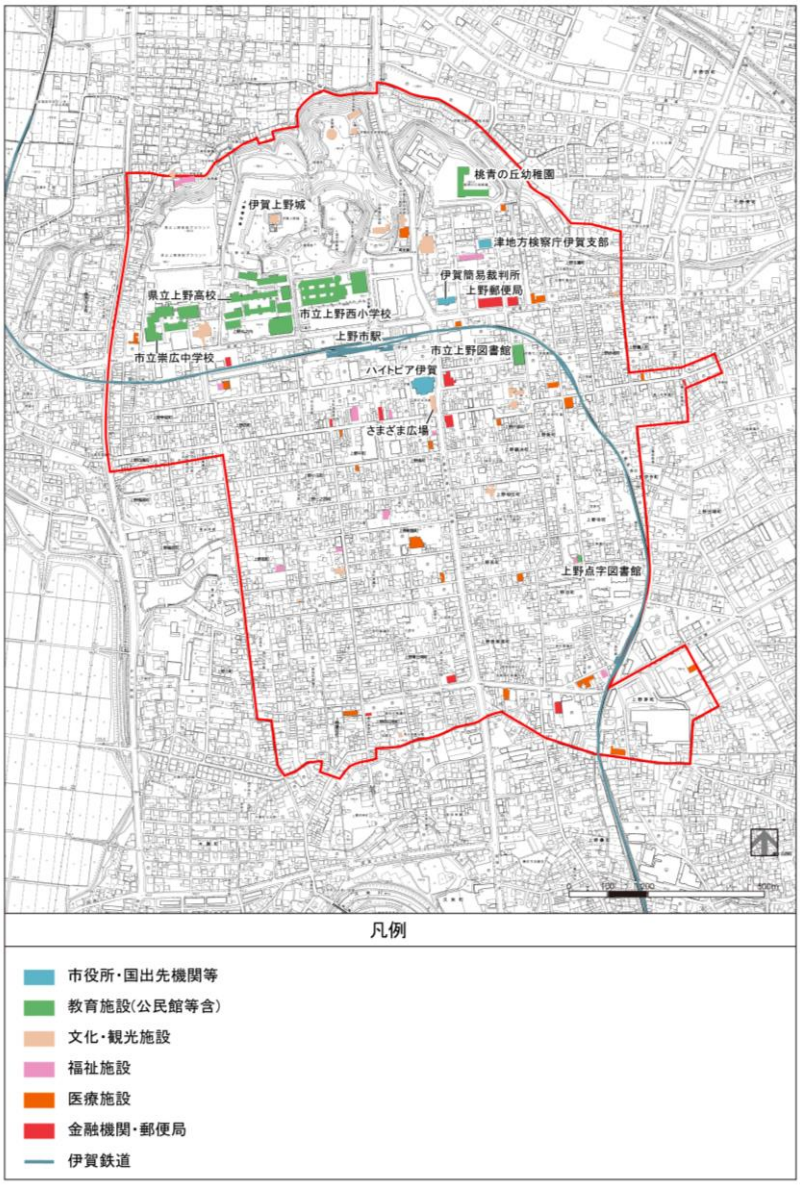
＜資料＞伊賀市調べ

(3) 土地利用の状況

1） 中心市街地の都市機能施設

中心市街地は、伊賀市立地適正化計画において都市機能誘導区域に設定されている。

図 28　都市機能施設等の位置図



分類	都市機能施設	施設数
市役所・国出先機関等	コミュニティ施設	1
	裁判所	1
	検察庁	1
教育施設	幼稚園	1
	小学校	1
	中学校	1
	高等学校	1
	図書館	2
文化観光施設	歴史（城・史跡・博物館 等）	16
福祉施設	老人福祉	7
	障がい者福祉	9
	子育て包括支援センター	1
	児童福祉	1
	保育園	1
医療施設	内科	8
	外科（整形外科を含む）	1
	小児科	3
	眼科	1
	歯科	10
	その他	1
金融機関・郵便局	銀行・信用金庫・JAバンク	7
	郵便局	4

2024（令和６）年４月時点

＜資料＞伊賀市調べ

2）地価

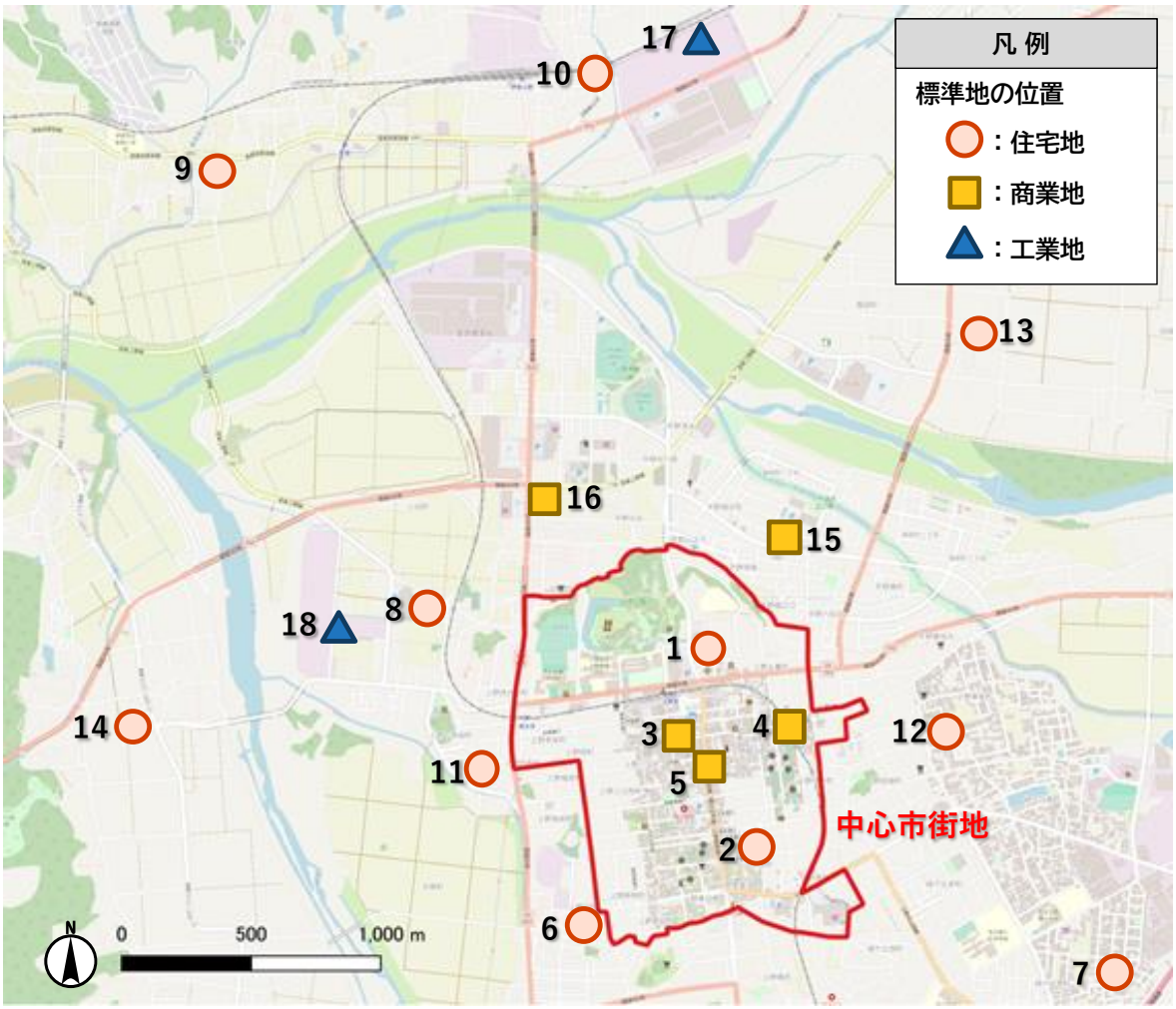
中心市街地及び中心市街地周辺の地価は、全体的に下降傾向であり、特に中心市街地における商業地の下落幅が高い傾向にある。

表 16　標準地の地価の推移

	標準地の分類			2020（R2）	2021（R3）	2022（R4）	2023（R5）	2023(R5)/2020(R2)比
1	中心市街地	住宅地	伊賀市上野丸之内 131 番 3	43,800	42,600	41,600	41,500	94.7%
2			上野池町 1282 番	36,500	35,500	34,800	34,500	94.5%
3		商業地	上野東町 2968 番	51,000	49,500	48,300	47,700	93.5%
4			上野農人町 428 番 6	36,700	35,600	34,900	34,400	93.7%
5			上野東町 2961 番	69,300	67,200	65,800	61,200	88.3%
6	中心市街地周辺周辺	住宅地	上野万町 2252 番	31,100	30,300	29,700	29,400	94.5%
7			緑ケ丘南町 3968 番 12	40,200	39,400	39,100	39,000	97.0%
8			小田町字南出 1499 番 7	32,000	31,000	30,500	30,200	94.4%
9			東高倉字田中寺 1244 番外	13,700	13,300	13,100	13,000	94.9%
10			三田字出口 1086 番外	23,700	23,100	22,800	22,600	95.4%
11			上野福居町 1263 番 6	26,700	26,200	26,000	25,900	97.0%
12			上野田端町 920 番 25	31,700	31,200	30,900	30,800	97.2%
13			服部町字中之坊 1116 番 22	28,200	27,700	27,400	27,200	96.5%
14			長田字樋口 1018 番	9,700	9,600	9,500	9,400	96.9%
15		商業地	平野西町 61 番外	72,200	71,000	69,900	69,200	95.8%
16			小田町字稲久保 238 番 1外	58,300	57,100	56,200	55,600	95.4%
17		工業地	三田字東大町 410 番 3 外	13,800	13,700	13,700	13,800	100.0%
18			小田町字西出 1657 番外	13,400	13,300	13,300	13,300	99.3%

＜資料＞国土交通省「標準地の単位面積当たりの価格等」

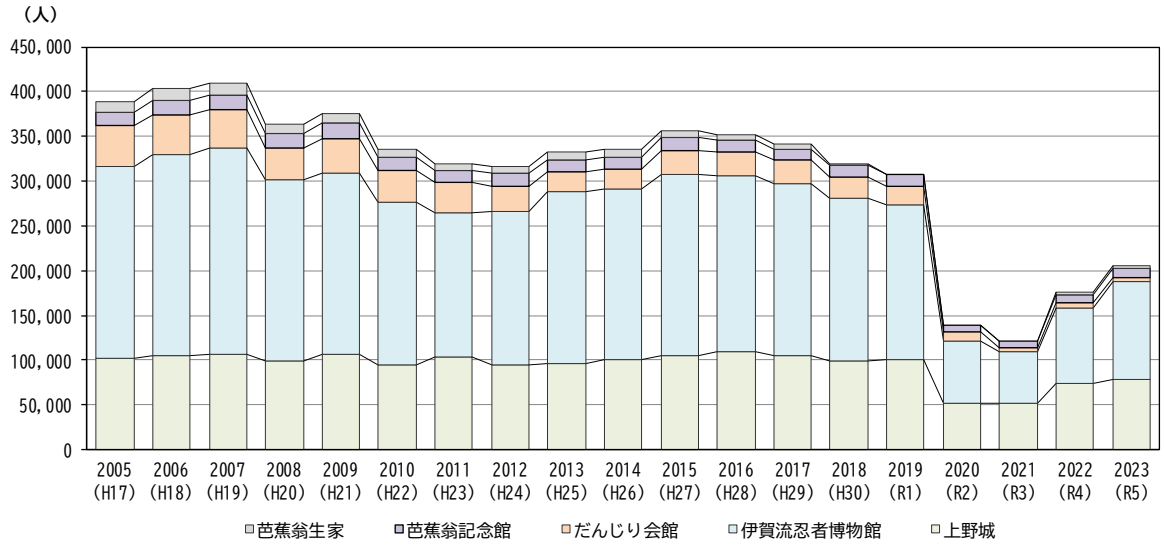
＜参考＞標準地の位置図


凡 例
標準地の位置
：住宅地
：商業地
：工業地
17
10
9
13
16
15
18
8
1
14
3
4
12
11
5
中心市街地
2
6
7
N
0
500
1,000 m

(4) 観光に関する状況

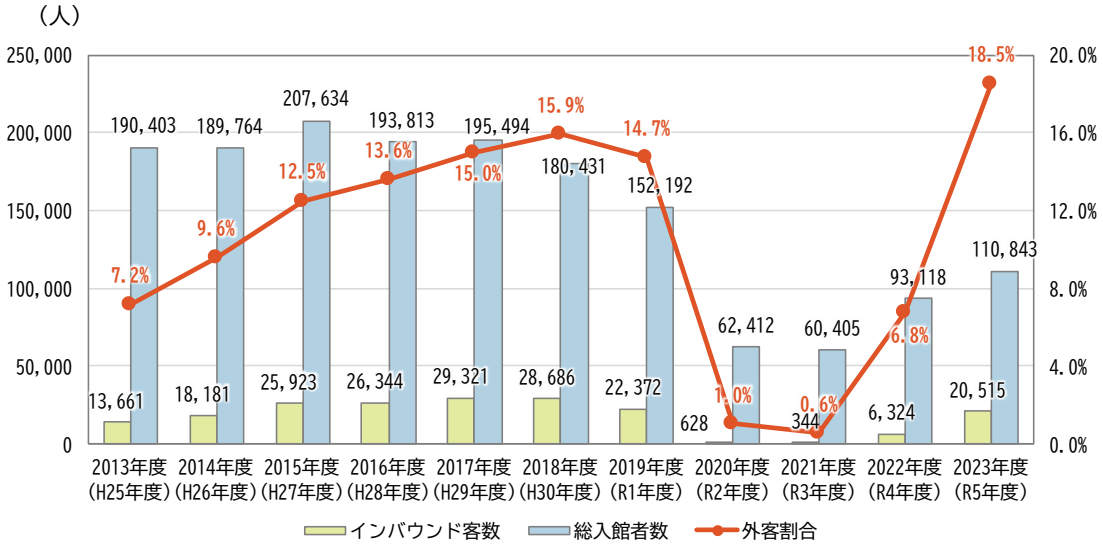
中心市街地の主要観光施設の利用者数は、長年ほぼ横ばい傾向であったが、コロナ禍の影響により 2020（令和２）年に激減している。

図 29　主要観光施設（博物館・美術館）の年間利用者数の推移



＜資料＞伊賀市調べ

図 30　伊賀流忍者博物館の利用者数の推移



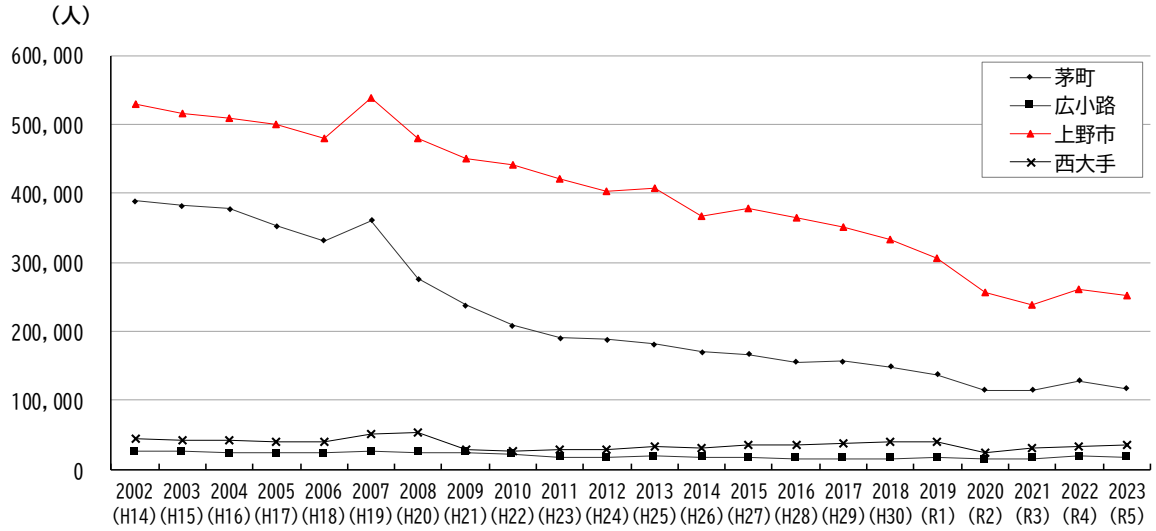
＜資料＞伊賀流忍者博物館調べ

(5) 公共交通に関する状況

1) 中心市街地内における鉄道駅の乗降客数

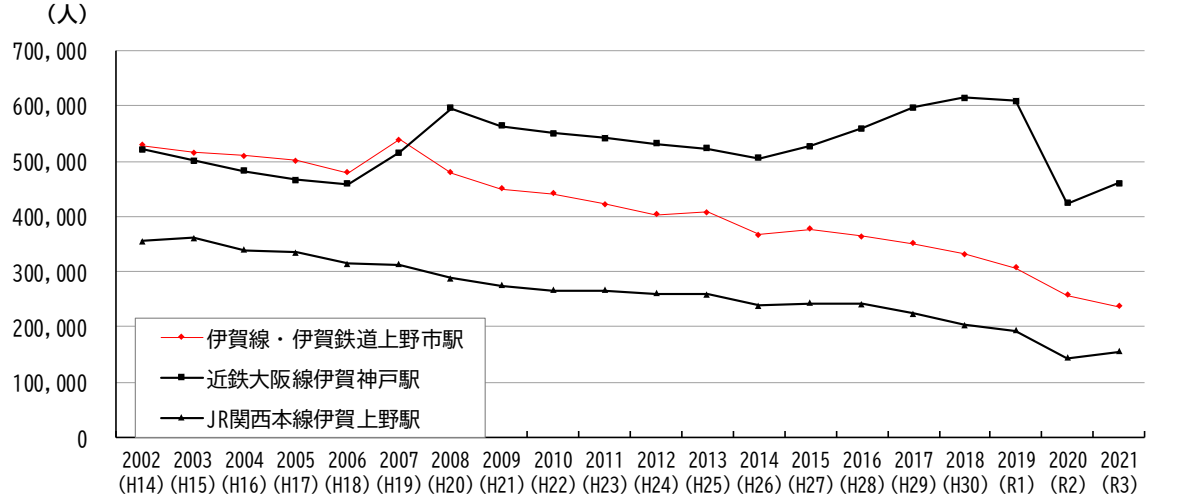
中心市街地内にある鉄道駅の乗降客数を見ると、上野市駅及び茅町駅の年間利用者数は漸減しており、コロナ禍の影響により 2020（令和２年）以降は大きく減少している。一方、広小路駅及び西大手駅の年間利用者数にはそれほど変動はなく、低い水準を維持し続けている。

図 31　中心市街地内伊賀鉄道４駅における年間乗降客数の推移



＜資料＞2002（H14）～2021（R３）「三重県統計書」
2022（R4）～2023（R５） 伊賀市調べ

図 32　伊賀市主要鉄道駅の年間乗降客数の推移



＜資料＞2002（H14）～2021（R３）「三重県統計書」

2）中心市街地におけるバス路線の運行本数・利用者数

中心市街地内を運行するバス路線の状況を見てみると、運行本数及び年間利用者数はともに減少傾向にある。また、コロナ禍の影響もあり、高速バスの減便等が発生している。

表 17　中心市街地を運行するバスの状況

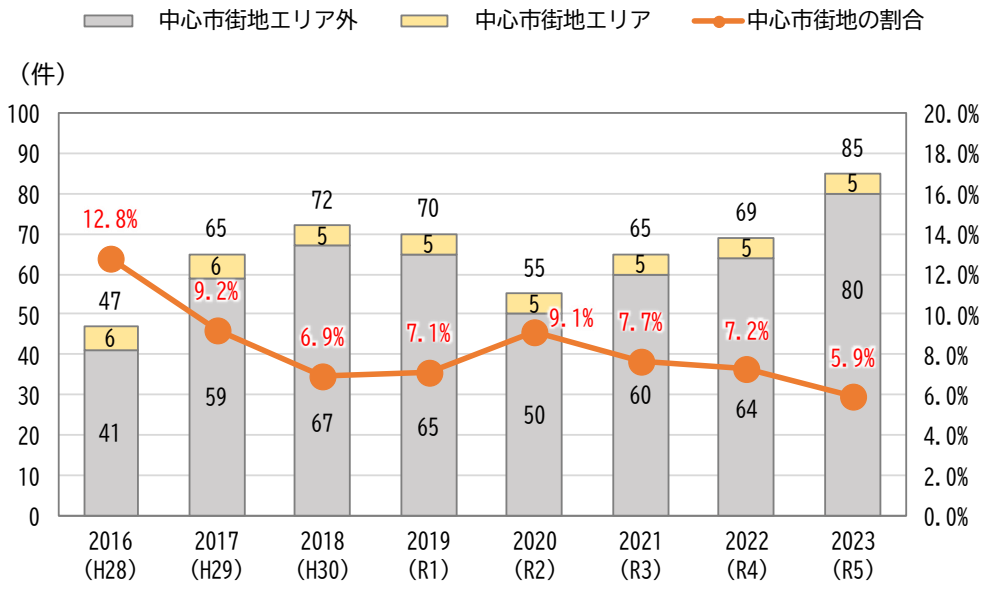
運行会社	路線名称	運行本数								年間利用者数(人)					備考
		2005 (H17)		2017 (H29)		2021 (R3)		2023 (R5)		2005 (H17)	2017 (H29)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	
		平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日						
三重交通㈱	高速伊賀大宮線	2	2	2	2	2	2	（休止）							（利用者数不明）
	名古屋上野高速線	18	18	16	16	12	12	12	12	110,886	85,606				〃
	高速伊賀大阪線	12	12	0	8	（休止）		（休止）			23,651	（休止）	（休止）	（休止）	
	上野名張線	28	26	31	21	31	22	36	22		125,921	82,823	87,918	99,518	
	阿波線	23	19	18	14	18	14	14	10		66,661	39,197	39,639	40,554	
	玉滝線	18	16	16	8	17	8	15			29,502	14,574	13,456	10,359	
三重交通㈱・奈良交通㈱	上野･山添(天理)線	13	13	10	8	10	8	10			49,565	24,121	25,502	16,394	
伊賀市から三重交通㈱へ運行委託	諏訪・予野線	15	12	11	8	9		9		30,225	16,796	4,092	4,168	3,975	R2から路線統合
		8	8	8	8					17,966	8,625				
	柘植線	14	10	12	10	12	10	12	10	35,650	16,760	14,244	16,728	16,701	
	西山・島ヶ原線	23	20	23	19	16		16		60,016	35,943	13,622	13,488	12,452	R2から路線統合
		10	10	10	10					33,632	18,041				
	友生線	12	11	12	11	10	10	10		27,746	17,014	14,016	14,551	16,704	
	月瀬線	9	9	9	7	11	7	11	7	17,693	29,486	12,542	13,778	13,080	
	コミュニティバスにんまる	22	19	19	19	19	19	19	19	58,048	25,855	19,582	26,643	27,733	

＜資料＞伊賀市調べ

(6) 空き家の状況

中心市街地の空き家情報バンクの登録申請数は、年間５～６件であり、全体の登録申請の８％前後となっている。

図 33　空き家バンクへの登録申請数の推移

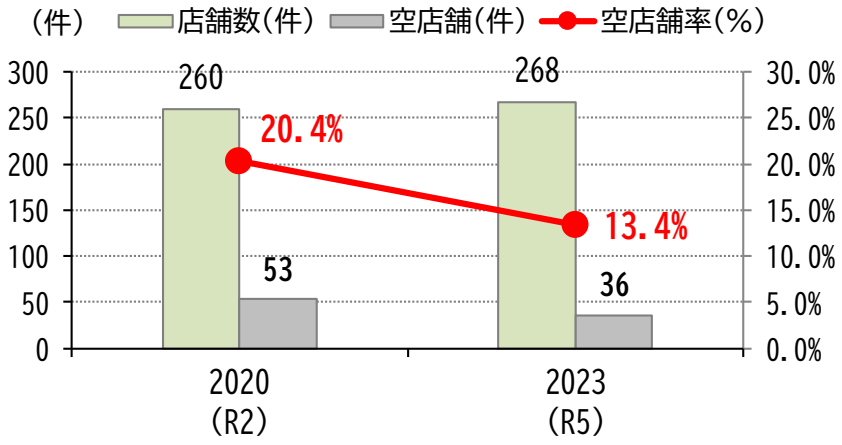


＜資料＞伊賀市調べ

(7) 空き店舗の状況

2023（令和５）年の調査では、中心市街地の店舗数 268 件に対して、空き店舗は 36 件となっており、全体の 13.4%が空き店舗となっている。

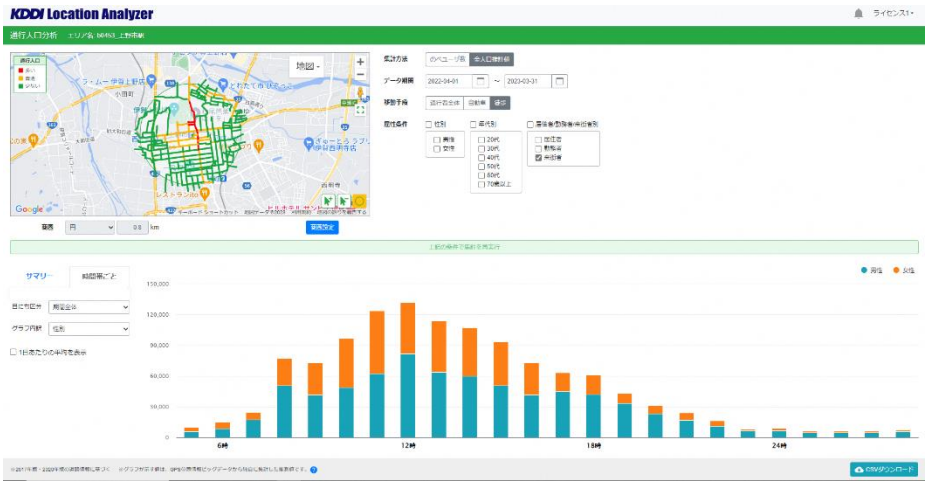
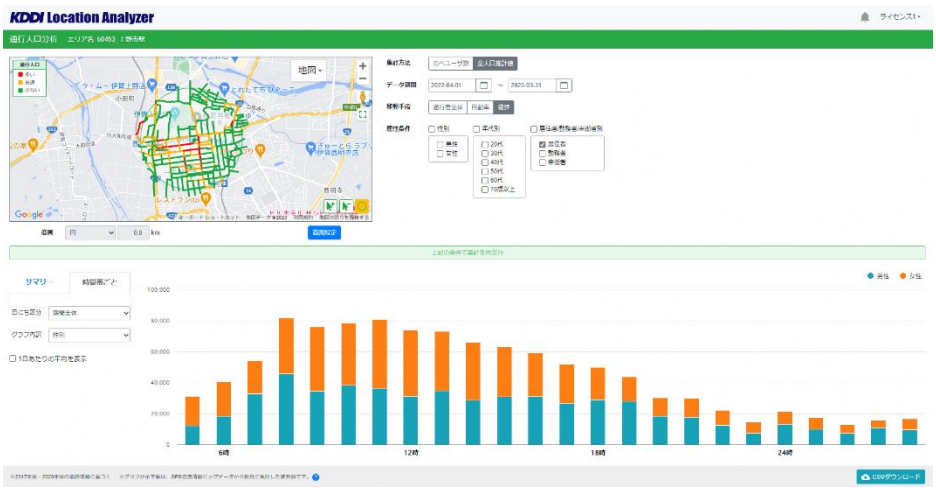
図 34　空き店舗の状況



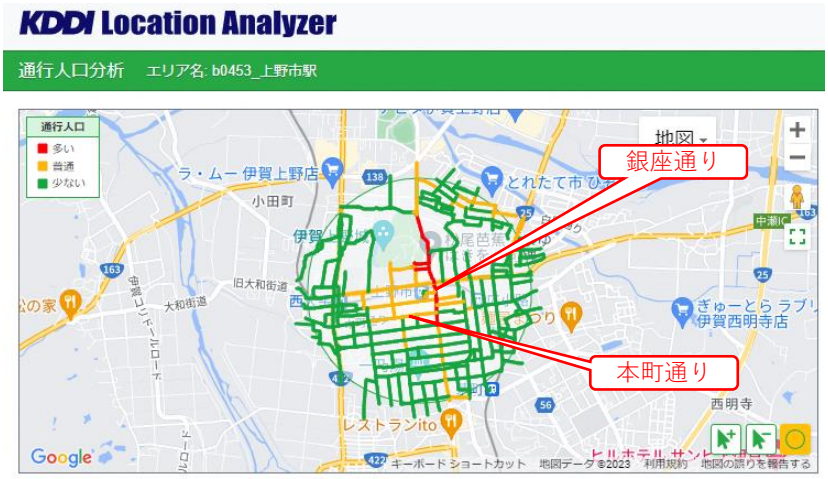
＜資料＞空店舗等情報システム整備及びコンサルタント事業の実態調査結果

(8) 居住者・来街者等の移動実態

●通行人口分析

通行人口分析	
分析内容	上野市駅を中心とした半径 0.8km の園内のエリアの全道路を対象に2022（R4）/4/1-2023（R5）/3/31 の１年間の通行人口（徒歩）を集計
分析結果	国道163号を挟んで南北に通る銀座通り及びその北側に通行が集中しており、本町通りより南では東西の通行が少ないことがうかがえる。 特に、来街者は通行人口が多い通りが銀座通り及びその北側の県道丸之内伊賀上野橋線に限られており、居住者では、銀座通りに加えて本町通りの西側等が通行の多い通りとなっている。  通行人口マップ（来街者）  通行人口マップ（居住者）

＜注＞技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計

分析結果	＜拡大図＞  通行人口マップ（来街者） 通行人口マップ（居住者）

[3] 地域住民のニーズ等の把握・分析

(1) 市民アンケート・高校生アンケート

1) 市民アンケート・高校生アンケートの実施概要

① 調査の目的

一般市民及び高校生を対象に、中心市街地活性化に対するニーズや感じている課題等を把握する。

② 調査概要

●市民アンケート

調査方法	郵送調査 （調査票は郵送、回答は郵送または WEB 回答のいずれか）
調査対象	市内居住者 2,000 人 ・18 歳以上 80 歳未満 2,000 人を無作為抽出
調査時期	2023（令和５）年 10 月３日～20 日
回収数	配布数 2,000 通　回収 808 通（回収率 40.4%）

●高校生アンケート

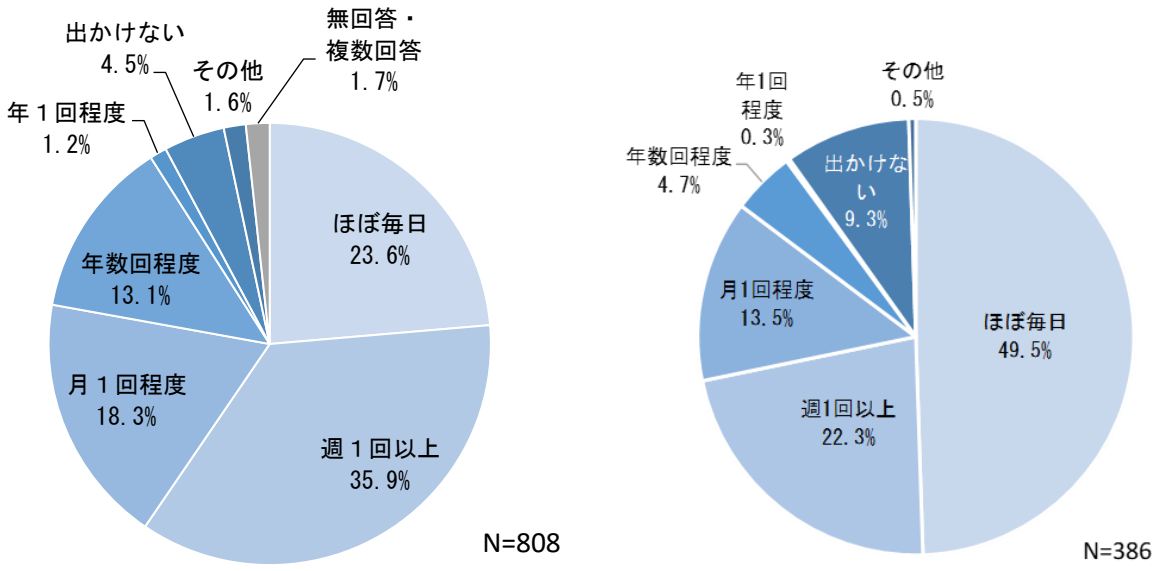
調査方法	アンケート回答用の WEB アドレスを以下の市内県立高校へ配布し、WEB での回答を依頼した
調査対象	市内県立高校３校 ・三重県立上野高等学校 ・三重県立伊賀白鳳高等学校 ・三重県立あけぼの学園高等学校
調査時期	2023（令和５）年 10 月１日～31 日
回収数	回収 386 通

2）調査結果

● 利用頻度

中心市街地の利用頻度については、市民は「週１回以上」が 35.9%、高校生は「ほぼ毎日訪れる」が 49.5%で最も多く、日常利用が多い傾向がある。

図 35　中心市街地への来街頻度（左図：市民、右図：高校生）



● 来街目的

中心市街地へ訪れる目的については、市民、高校生ともに「買い物」がそれぞれ 66.5%、58.0%で最も多く、次いで市民は「金融機関・郵便局の利用」「医療機関の利用」が、高校生は「飲食・喫茶」「中心市街地内にある学校への通学」が多い。

年代別にみると、特に 20 歳代における「飲食」「買い物」のニーズが大きい傾向がある。

図 36　中心市街地へ訪れる目的（市民）

選択肢	件数	
買い物	537	66.5%
飲食・喫茶（アルコール無し）	181	22.4%
飲食（アルコールあり）	70	8.7%
ウィンドウショッピング・散歩	87	10.8%
教育文化施設の利用（ハイトピア伊賀、図書館、公民館等）	149	18.4%
文化・観光施設の利用（上野城、文化財等）	45	5.6%
福祉施設の利用	14	1.7%
金融機関・郵便局の利用	290	35.9%
医療機関の利用	252	31.2%
子育て支援施設の利用	19	2.4%
娯楽施設の利用	18	2.2%
サービス施設の利用	28	3.5%
イベントへの参加（朝市、いがぶら等）	64	7.9%
中心市街地内にある職場・学校への通勤・通学	78	9.7%
塾・習い事	45	5.6%
その他	64	7.9%
無回答	30	3.7%
計	1971	回答者数・・・808人　N=808

注）%数値は、回答者数に対する割合である。

図 37　中心市街地へ訪れる目的（高校生）

選択肢	件数	
買い物	224	58.0%
飲食・喫茶	148	38.3%
ウィンドウショッピング・散歩	35	9.1%
教育文化施設の利用（ハイトピア伊賀、図書館、公民館等）	40	10.4%
文化・観光施設の利用（上野城、文化財等）	12	3.1%
金融機関・郵便局の利用	20	5.2%
医療機関の利用	32	8.3%
娯楽施設の利用	40	10.4%
サービス施設の利用	16	4.1%
イベントへの参加（朝市、いがぶら等）	37	9.6%
中心市街地内にある学校への通学	129	33.4%
塾・習い事	59	15.3%
その他	13	3.4%
計	805	回答者数・・・386人　N=386

注）%数値は、回答者数に対する割合である。

図 38　地域別　中心市街地への来街目的

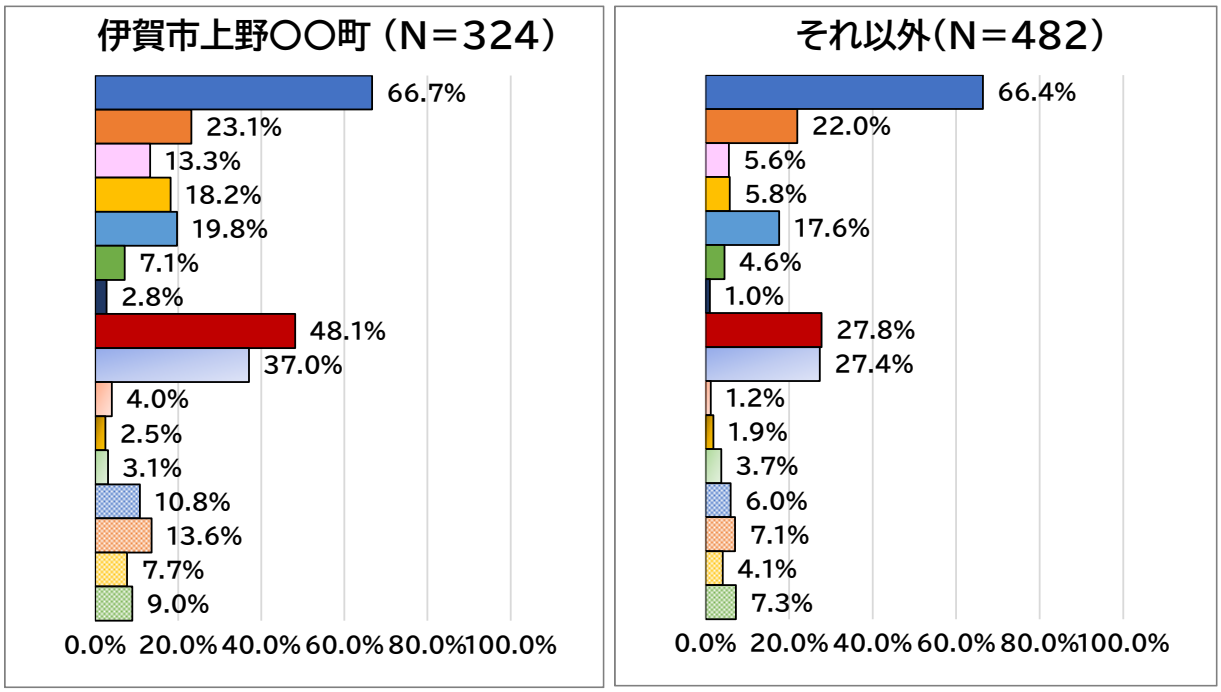
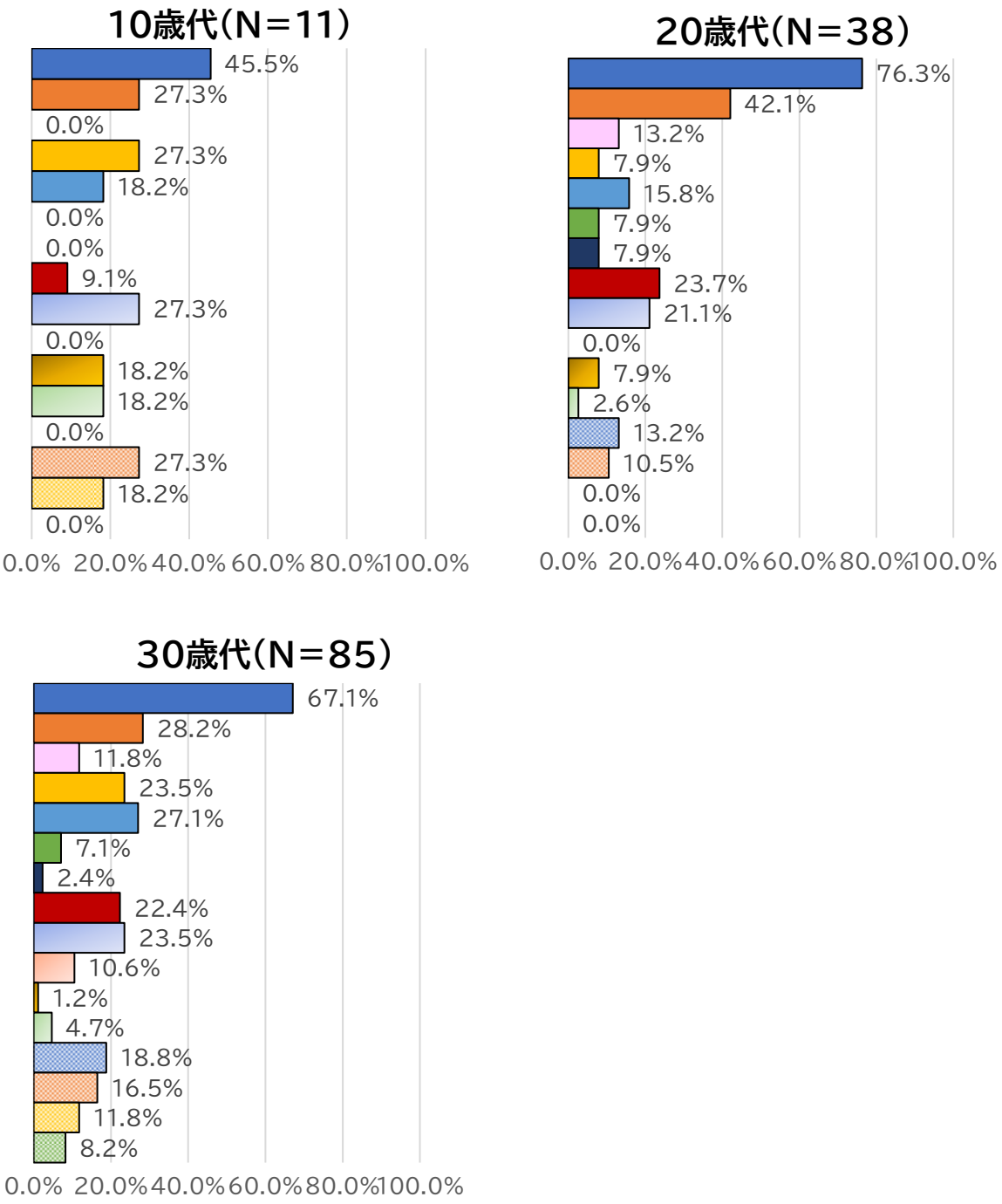
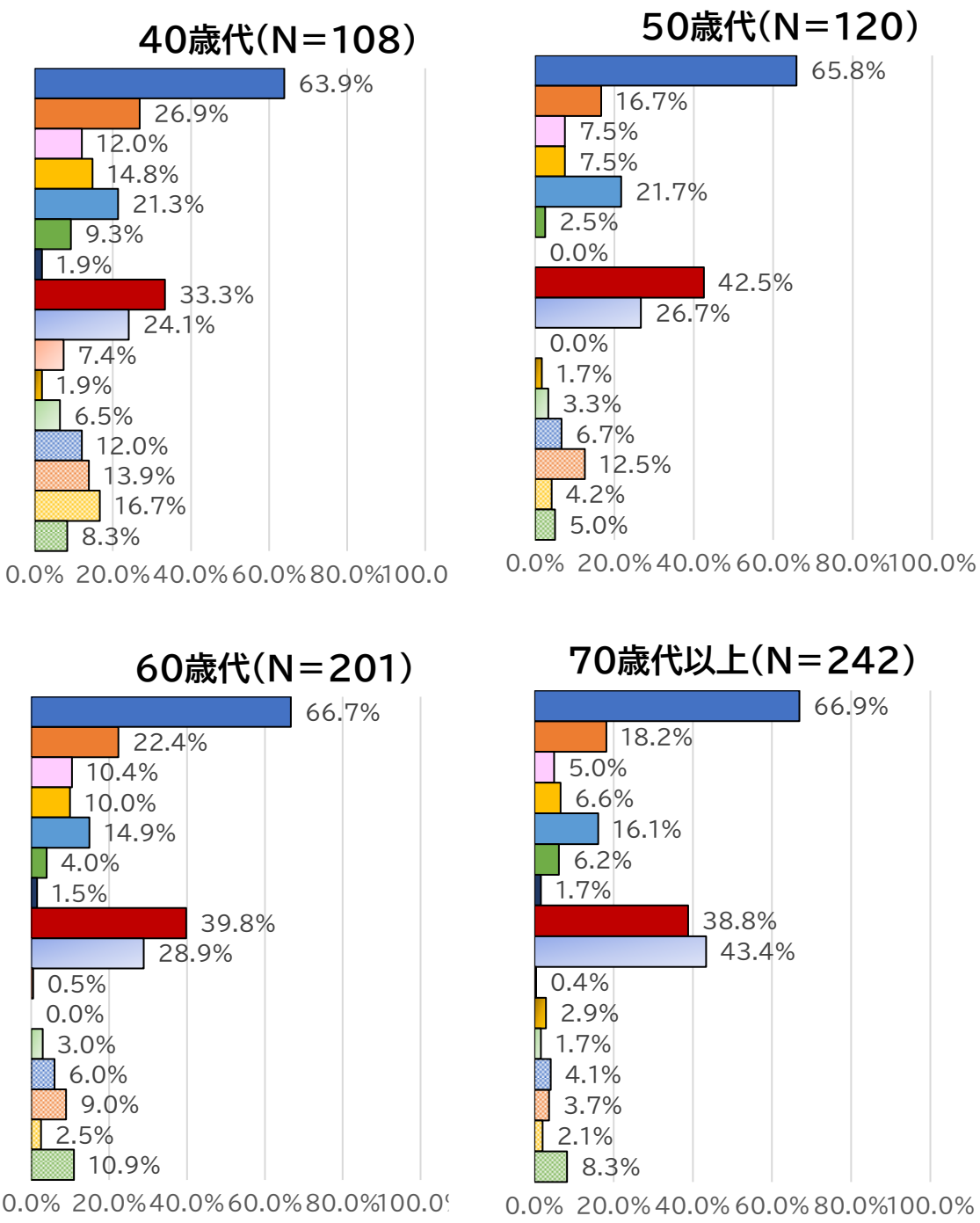


図 39　年代別　中心市街地へ訪れる目的（市民）




40歳代(N=108)
63.9%
26.9%
12.0%
14.8%
21.3%
9.3%
1.9%
33.3%
24.1%
7.4%
1.9%
6.5%
12.0%
13.9%
16.7%
8.3%
0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0
50歳代(N=120)
65.8%
16.7%
7.5%
7.5%
21.7%
2.5%
0.0%
42.5%
26.7%
0.0%
1.7%
3.3%
6.7%
12.5%
4.2%
5.0%
0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%
60歳代(N=201)
66.7%
22.4%
10.4%
10.0%
14.9%
4.0%
1.5%
39.8%
28.9%
0.5%
0.0%
3.0%
6.0%
9.0%
2.5%
10.9%
0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0
70歳代以上(N=242)
66.9%
18.2%
5.0%
6.6%
16.1%
6.2%
1.7%
38.8%
43.4%
0.4%
2.9%
1.7%
4.1%
3.7%
2.1%
8.3%
0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%
買い物
飲食・喫茶(アルコール無し)
飲食(アルコールあり)
ウィンドウショッピング・散歩
教育文化施設の利用(ハイトピア伊賀、図書館、公民館等)
文化・観光施設の利用(上野城、文化財等)
福祉施設の利用
金融機関・郵便局の利用
医療機関の利用
子育て支援施設の利用
娯楽施設の利用
サービス施設の利用
イベントへの参加(朝市、いがぶら等)
中心市街地内にある職場・学校への通勤・通学
塾・習い事
その他

● 就職意向

高校生が希望する将来の就職場所については、「わからない」が 38.9%と最も多く、将来の就職先を決めかねている傾向がある。次いで「県外・海外」が 33.9%と多く、伊賀地域外への就職意向が若干高い傾向がある。

伊賀地域で就職を希望する理由としては、「住み慣れた地域に居たい」が 75.3%と最も多く、伊賀地域外で就職を希望する理由としては、「都会で働きたい」が 52.8%と最も多い。

図 40　希望する将来の就職場所

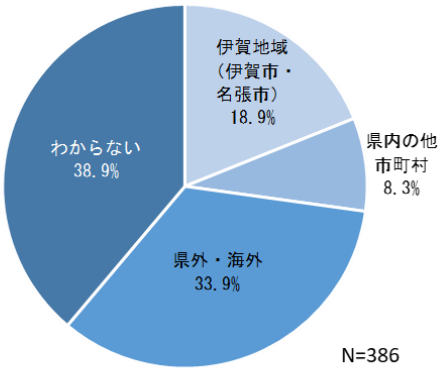


図 41　伊賀地域で就職を希望する理由

選択肢	件数	
住み慣れた地域に居たい	55	75.3%
住んでいる地域が好き	22	30.1%
住んでいる地域に貢献したい	10	13.7%
希望する就職先がある又は近い	17	23.3%
市外で生活するには費用が掛かる	11	15.1%
家族と同居又は近くで暮らしたい	21	28.8%
友人・知人がいる	14	19.2%
食品・日用品の買い物に便利である	3	4.1%
治安がよい	7	9.6%
家族の意向	4	5.5%
その他	1	1.4%
計	165	回答者数・・・73人

注）%数値は、回答者数に対する割合である。

図 42　伊賀地域外で就職を希望する理由

選択肢	件数	
都会で働きたい	86	52.8%
生活環境・文化が好き	31	19.0%
給料や待遇などの労働条件が良い	53	32.5%
希望する就職先がある	57	35.0%
友人・知人がいる	11	6.7%
親から独立したい	46	28.2%
自分の専門性を活かせる	42	25.8%
その他	7	4.3%
計	333	回答者数・・・163人

注）%数値は、回答者数に対する割合である。

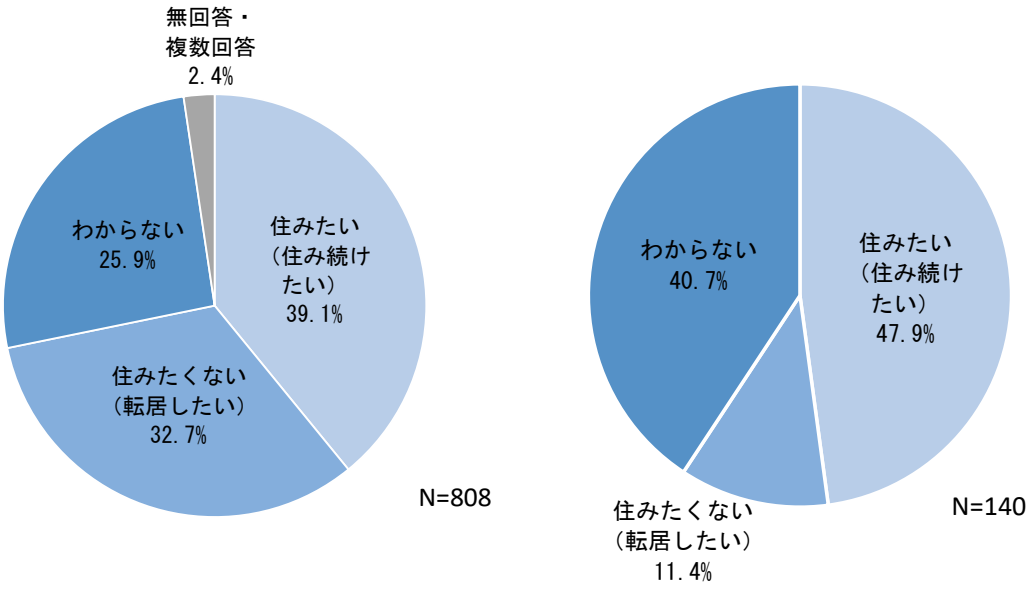
● 居住意向

中心市街地への居住意向については、市民、伊賀地域への居住意向がある高校生ともに「住みたい（住み続けたい）」がそれぞれ 39.1%、47.9%と最も多く、居住意向が一定程度確認できる。一方で、高校生は「分からない」の回答が 40.7%と、居住を決めかねている傾向もみられる。

中心市街地に居住したい理由については、市民は「食品・日用品の買い物に便利である」「車を使わず歩いて生活できる」が多く、車以外での移動や日常生活における利便性のニーズが高い。また、高校生は「家族・友人等との交流がある」「まちの雰囲気や風景が気に入っている」が多く、現在のまちの雰囲気を継承していくことの重要性が伺える。

一方、中心市街地に居住したくない理由については、市民は「現在の居住地が気に入っている」が 58.0%と最も多く、次いで渋滞・公共交通の不便さなどの交通環境や買い物の不便さが主要因となっている傾向がある。一方で、高校生は「風水害や地震津波が心配である」が 50.0%と最も多く、次いで日常生活における利便性や地価や家賃などの費用が主要因となっている傾向がある。

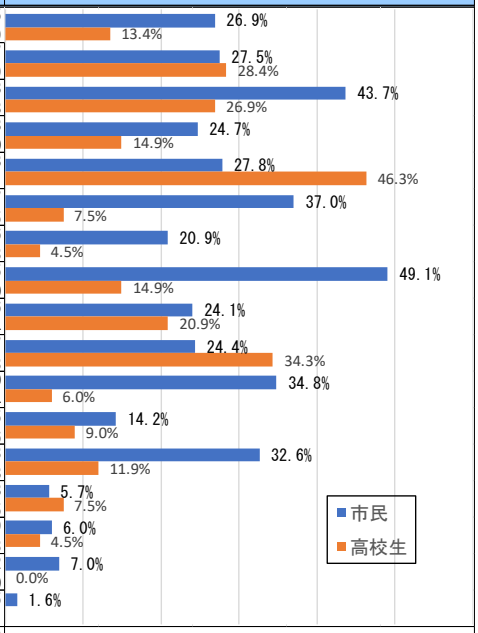
図 43　中心市街地への居住意向（左図：市民、右図：高校生）



注）高校生の回答対象は、現段階での希望する将来の就職場所が「伊賀地域（伊賀市・名張市）」または、「県内の他市町村」、「県外・海外」だが、いずれは伊賀地域（伊賀市・名張市）に戻りたいと考えている人。

図 44　中心市街地へ居住したい（中心市街地に居住し続けたい）理由

選択肢	件数
公共施設が多い	85 9
職場や学校が近い	87 19
車を使わず歩いて生活できる	138 18
公共交通が利用しやすい	78 10
家族・友人等との交流がある	88 31
医療・福祉施設が近い	117 5
図書館やホールなど文化施設が近い	66 3
食品・日用品の買い物に便利である	155 10
治安がよい	76 14
まちの雰囲気や風景が気に入っている	77 23
買い回りに便利である	110 4
飲食店が多い	45 6
風水害や地震津波に強い	103 8
教育環境が整っている	18 5
気軽に参加できる社会活動がある	19 3
その他	22 0
無回答・無効回答	5
計	1289 168

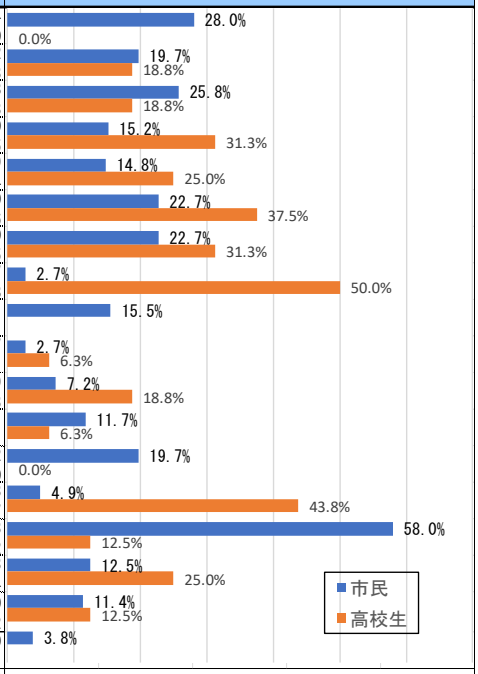


回答者数・・・316人（市民）、67人（高校生）

注）高校生の回答対象は、現段階での希望する将来の就職場所が「伊賀地域（伊賀市・名張市）」または、「県内の他市町村」、「県外・海外」だが、いずれは伊賀地域（伊賀市・名張市）に戻りたいと考えている人のうち、将来は伊賀市の中心市街地に住みたい（住み続けたい）と考えている人。

図 45　中心市街地へ居住したくない（中心市街地から転居したい）理由

選択肢	件数
食品・日用品の買い物に不便である	74 0
飲食店が魅力的でない	52 3
渋滞が起こりやすい	68 3
地価や家賃が高い	40 5
騒音がある	39 4
買い回りに不便である	60 6
公共交通が不便である	60 5
風水害や地震が心配である	7 8
生活インフラ（下水道等）が整っていない	41
教育環境が整っていない	7 1
まちのイメージや風景が嫌いである	19 3
歩いて生活できない	31 1
人混みが嫌いである	52 0
職場や学校が遠い	13 7
現在の居住地が気に入っている	153 2
医療施設が遠い	33 4
その他	30 2
無回答・複数回答	10
計	789 54



回答者数・・・264人（市民）、16人（高校生）

注）高校生の回答対象は、現段階での希望する将来の就職場所が「伊賀地域（伊賀市・名張市）」または、「県内の他市町村」、「県外・海外」だが、いずれは伊賀地域（伊賀市・名張市）に戻りたいと考えている人のうち、将来は伊賀市の中心市街地に住みたくない（転居したい）と考えている人。合計16人のため、参考値。

● 中心市街地の魅力

中心市街地の魅力については、市民、高校生ともに「歴史や文化を感じるまちなみだと思う」に対して「そう思う」「ややそう思う」の合計がそれぞれ 67.6%、76.2%と最も多い。

一方、市民ではそれ以外の項目全てで「そう思う」「ややそう思う」の合計が「そう思わない」「あまりそう思わない」の合計を下回るなど、魅力を感じていない傾向がある。

図 46　中心市街地の魅力（市民）

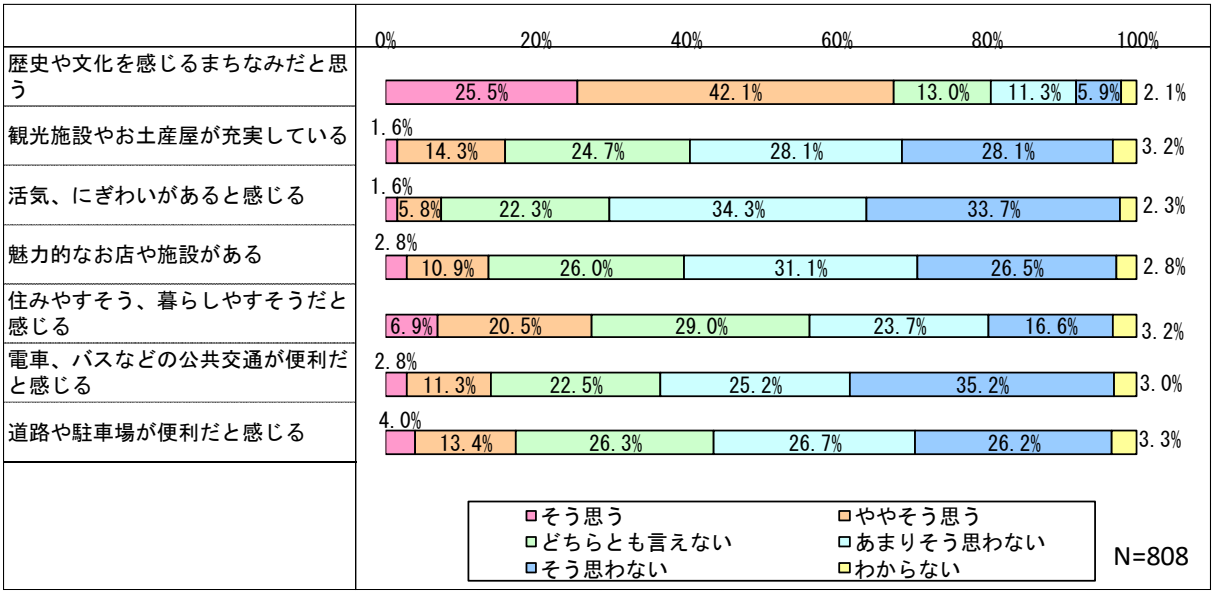
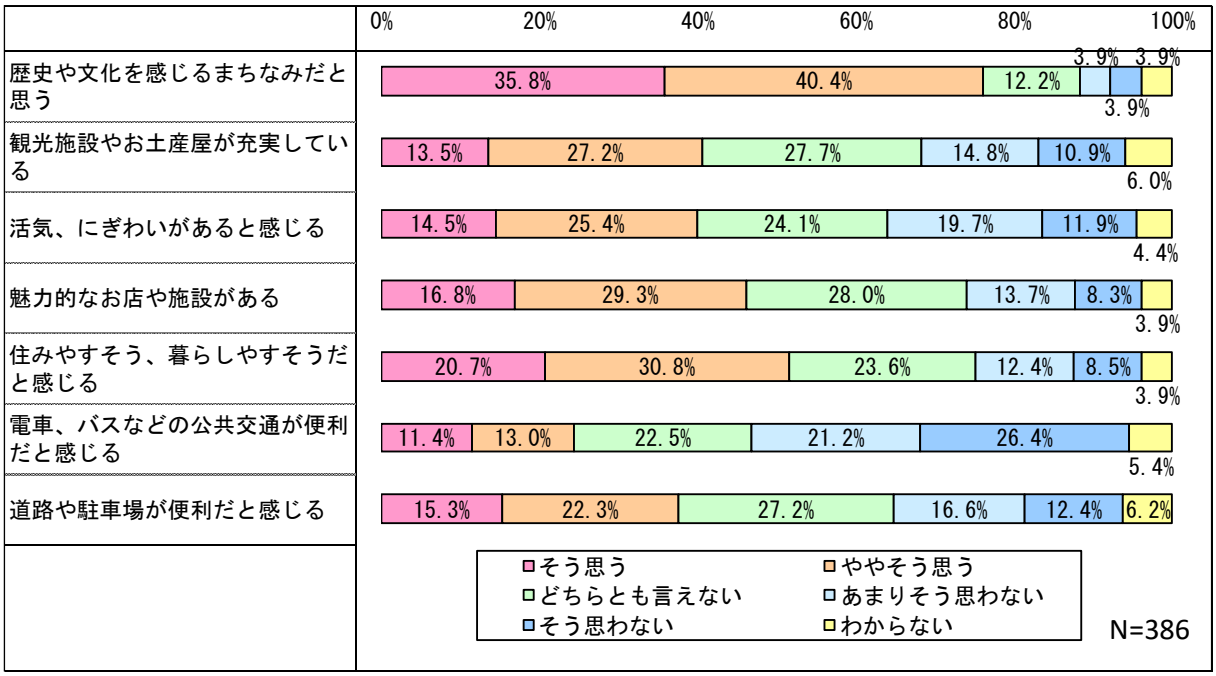


図 47　中心市街地の魅力（高校生）



● 中心市街地の課題

中心市街地の課題については、市民は「空き店舗や空き家が多く活気がない」に対して「そう思う」「ややそう思う」の合計が 78.4%と最も多く、高校生は「行きたい店や施設がない」が 61.1%、「公共交通手段が不便」が 59.8%と多い。

年代別にみると、50 歳代以降は「空き店舗や空き家が多く活気がない」「気軽に入れる飲食店がない」、10 歳代～30 歳代では、「行きたい店や施設がない」に対して課題と感じている傾向が強い。

図 48　中心市街地の課題（市民）

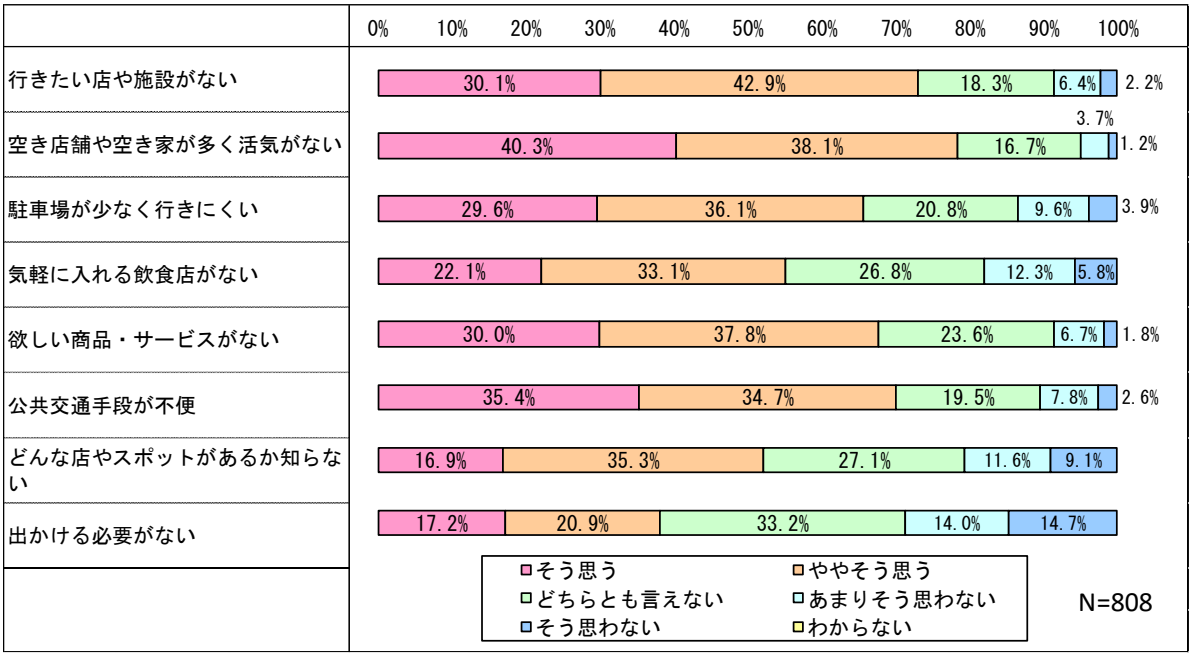


図 49　中心市街地の課題（高校生）

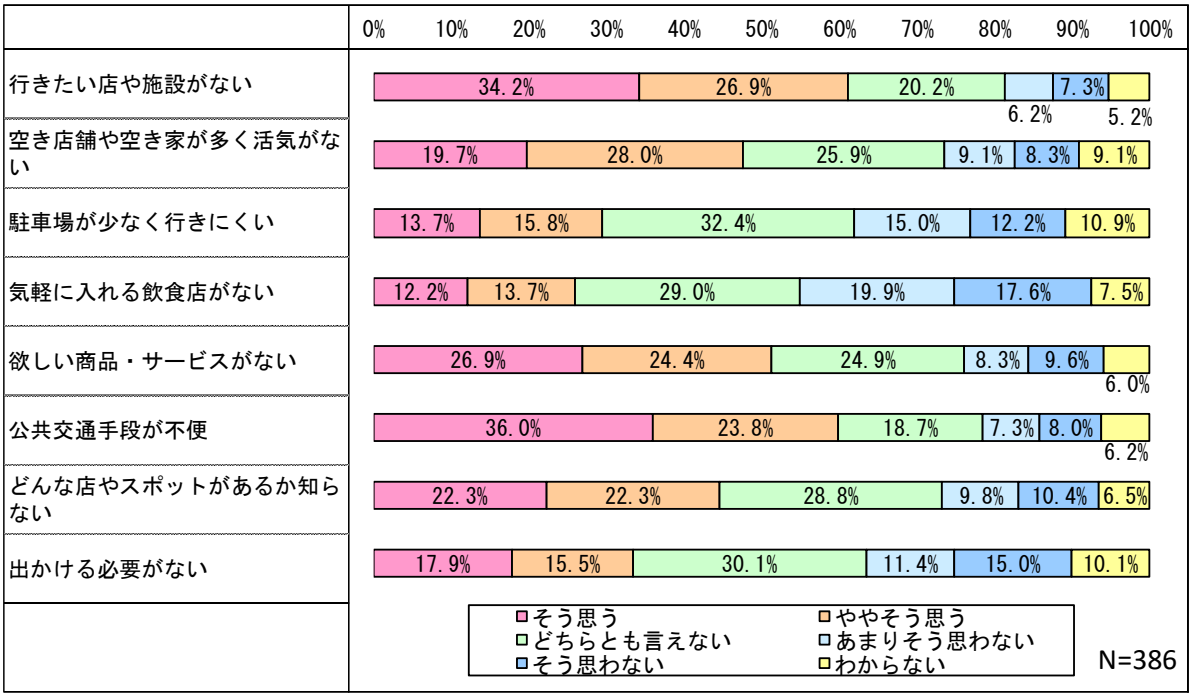
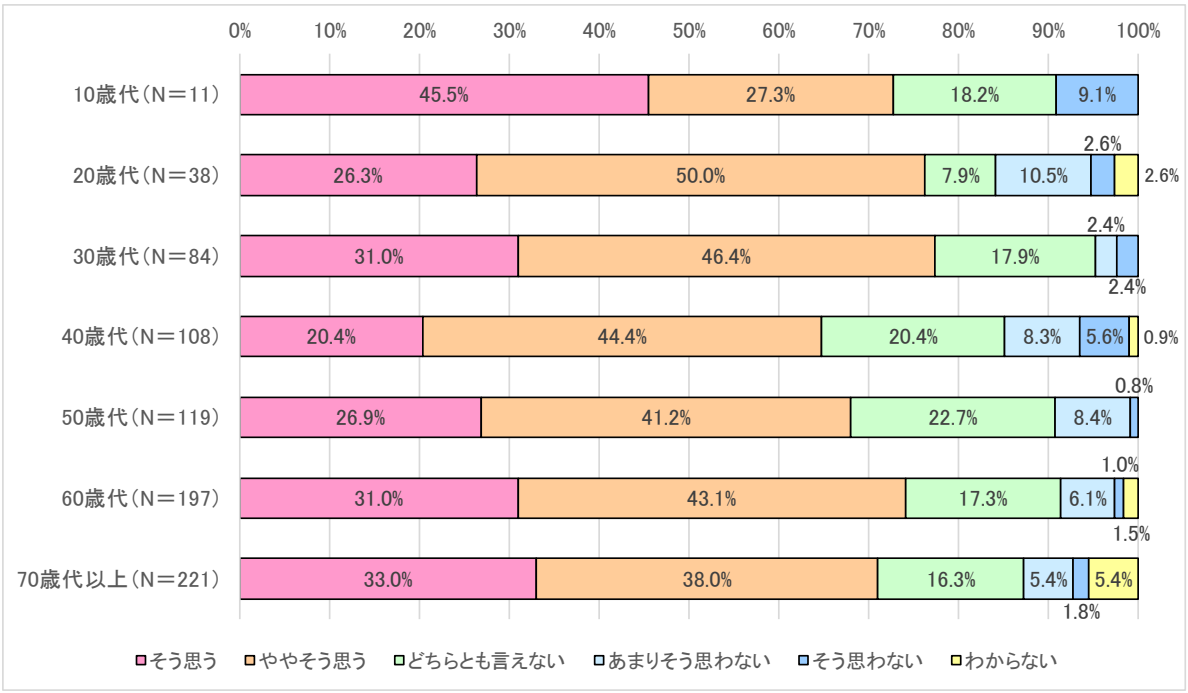


図 50　年代別　中心市街地の課題（市民）

（上図：行きたい店や施設がない、下図：空き店舗や空き家が多く活気がない）



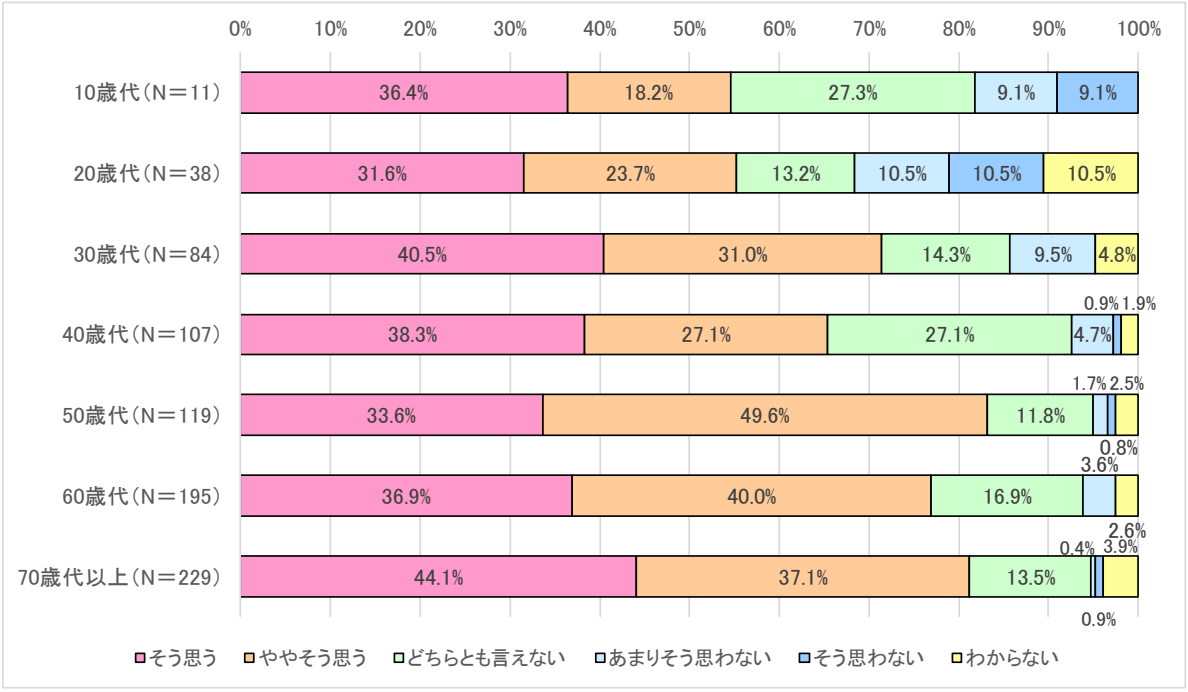
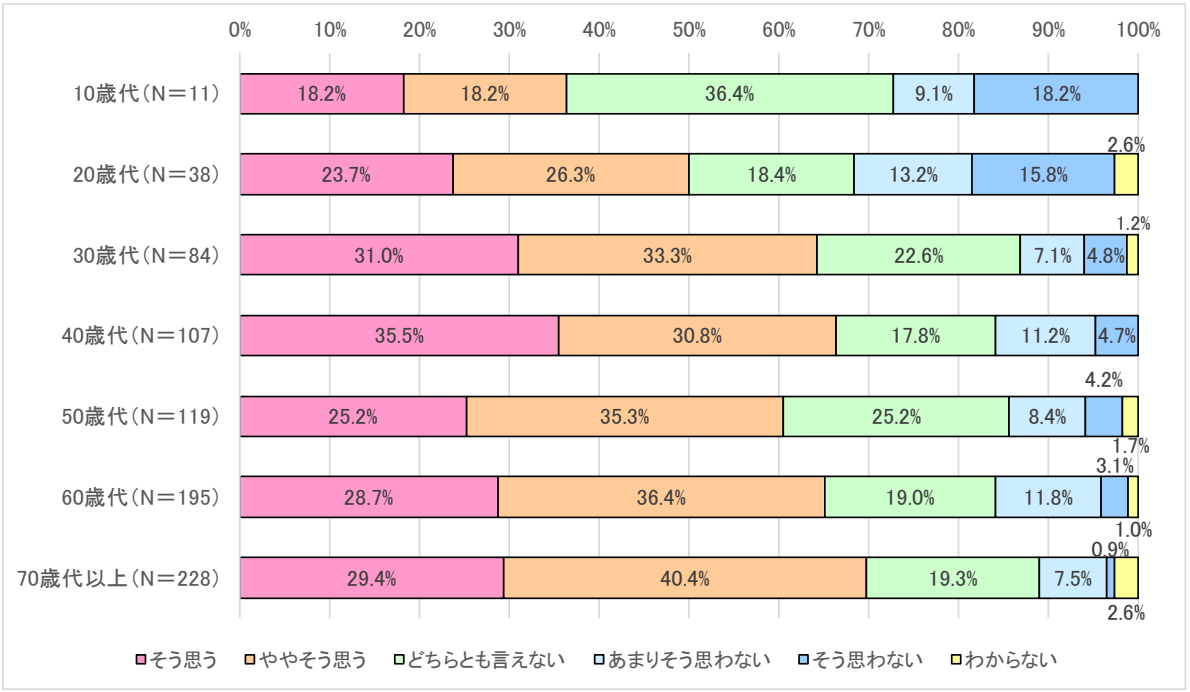


図 51　年代別　中心市街地の課題（市民）

（上図：駐車場が少なく行きにくい、下図：気軽に入れる飲食店がない）



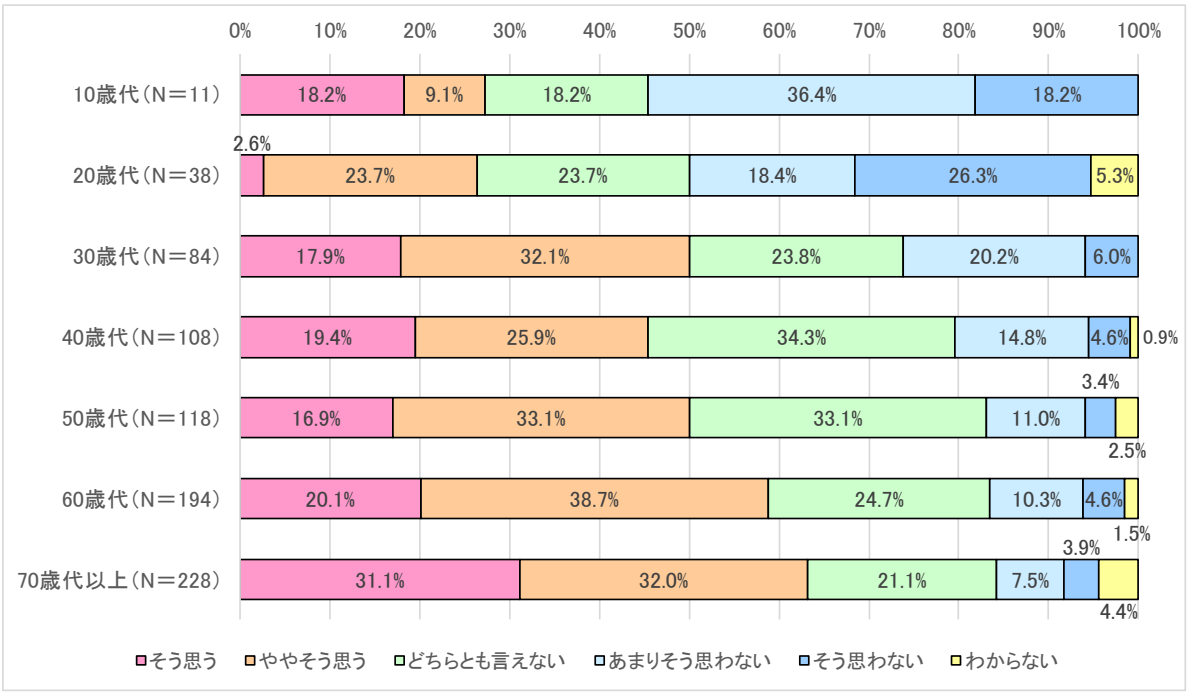
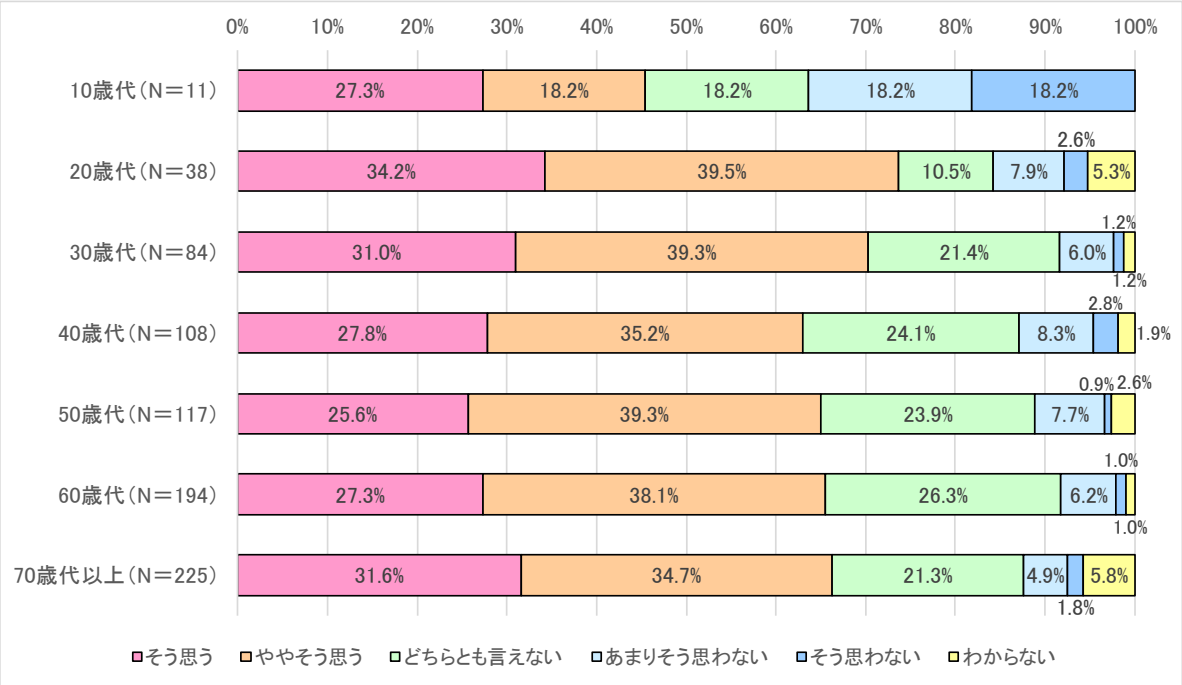


図 52　年代別　中心市街地の課題（市民）

（上図：欲しい商品・サービスがない、下図：公共交通手段が不便）



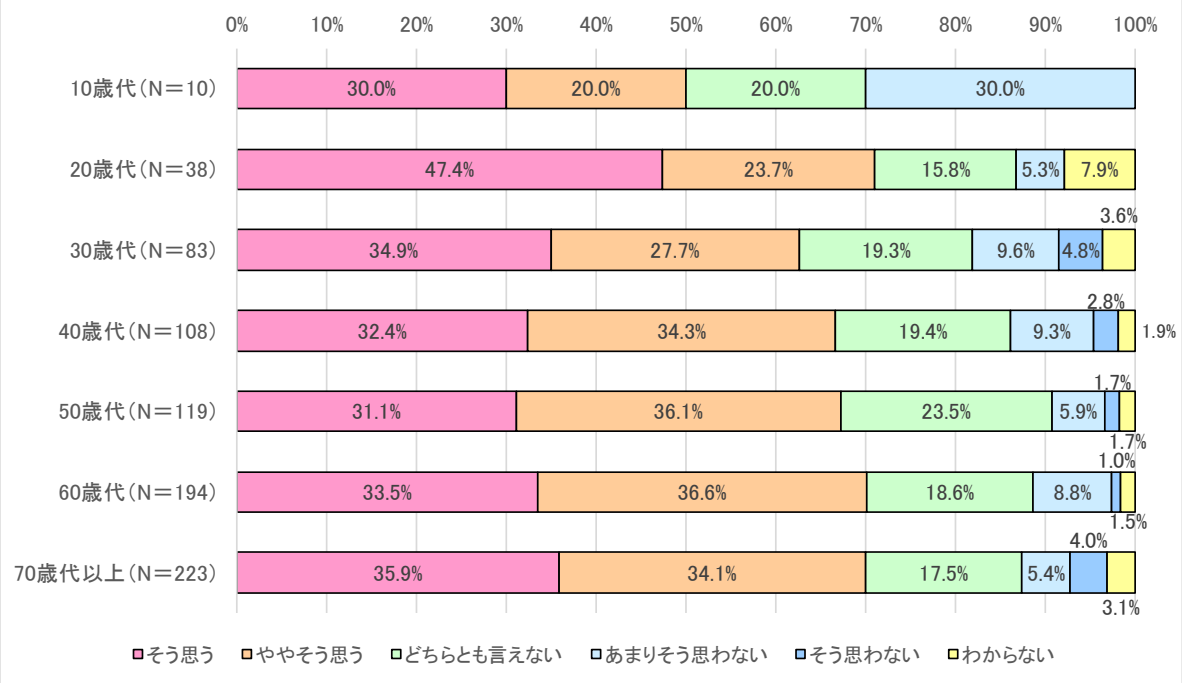
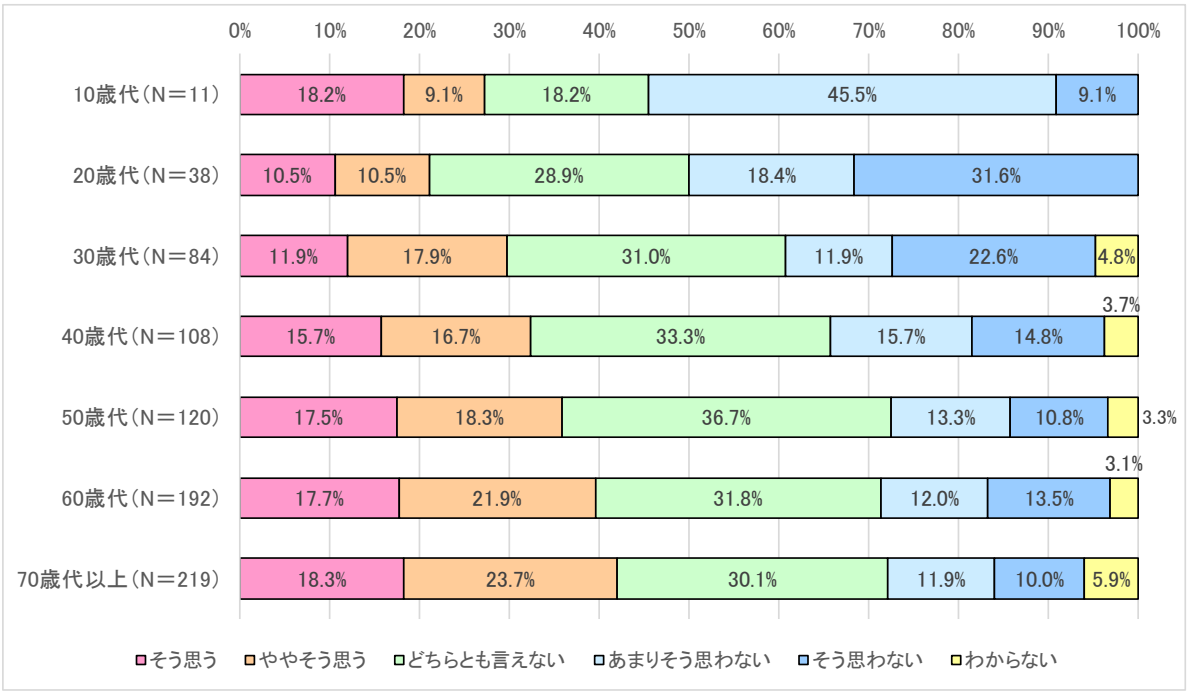
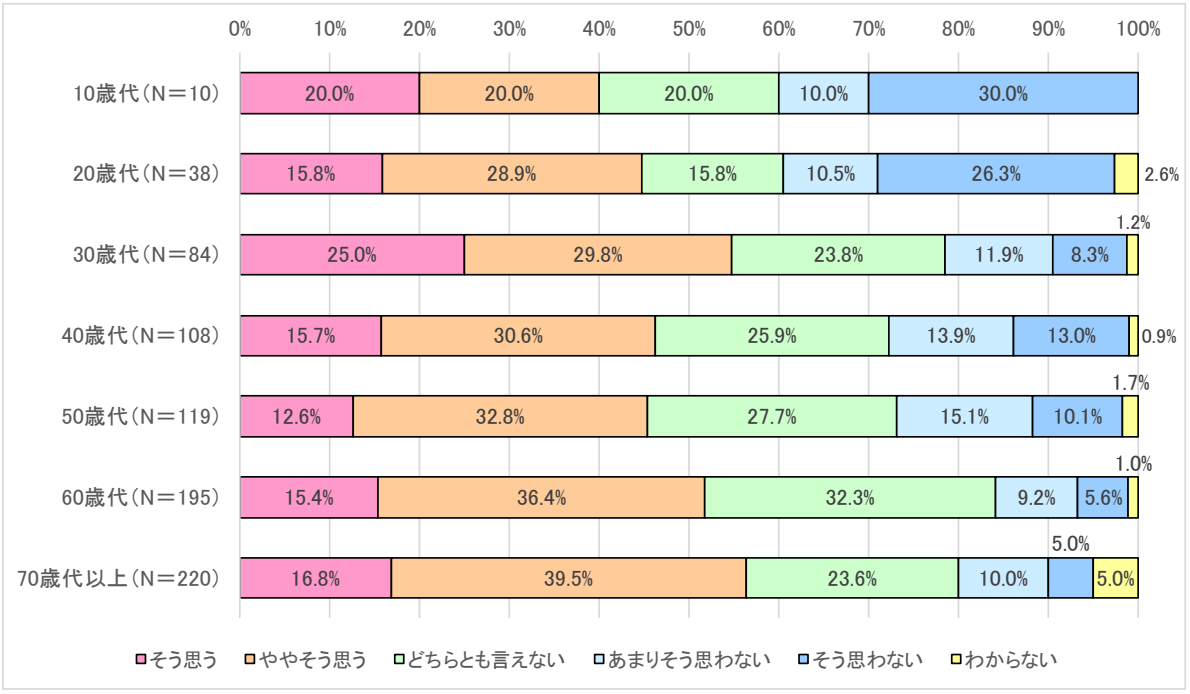


図 53　年代別　中心市街地の課題（市民）
（上図：どんな店やスポットがあるか知らない、下図：出かける必要がない）





● 中心市街地のこれまでの変化

５年前と比較した市民の中心市街地への訪問頻度は、「変わらない」が 52.0%と最も多い。

年代別にみると、若年層ほど訪問頻度の増加傾向が相対的に強めで、年齢層が高くなるほど、訪問頻度の減少傾向が強い。

また、訪問頻度の増加・減少理由として、「中心市街地や周辺での用事」「気に入った店・施設」に関する項目が多く、訪問頻度の増減において、中心市街地やその周辺に立ち寄る用事、気に入った店舗等の有無が大きな要因になっていることが伺える。

図 54　５年前と比較した中心市街地への訪問頻度（市民）

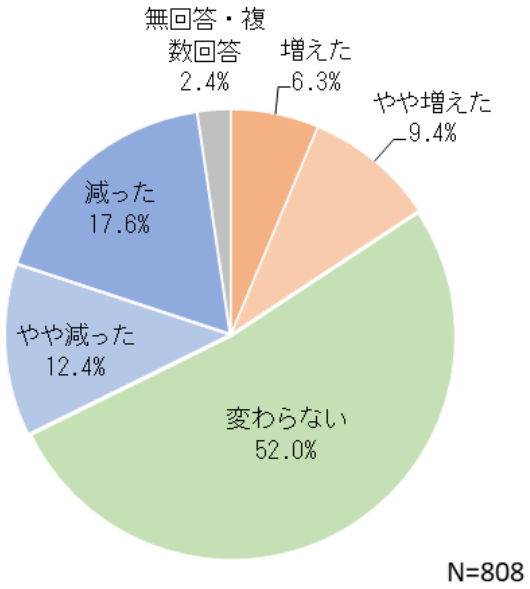


図 55　年代別　５年前と比較した中心市街地への訪問頻度（市民）

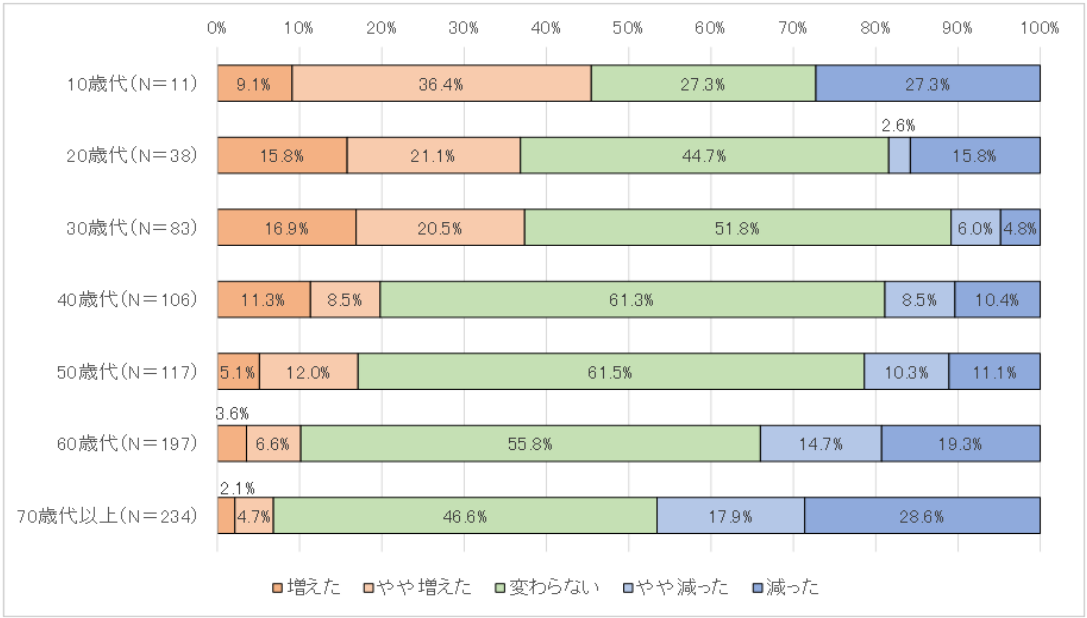


図 56　訪問頻度の増加理由（市民）

選択肢	件数	
気に入った店・施設ができた	41	32.3%
中心市街地にしかない商品・サービスができた	13	10.2%
小売店の価格が安くなった	1	0.8%
小売店の品揃えが良くなった	1	0.8%
買い物が一度で済むようになった	14	11.0%
家や職場・学校の場所が近くなった	25	19.7%
中心市街地や周辺で用事ができた	51	40.2%
交通手段ができた	8	6.3%
その他	14	11.0%
無回答	0	0.0%
計	168	回答者数・・・127人

注）%数値は、回答者数に対する割合である。

図 57　訪問頻度の減少理由（市民）

選択肢	件数	
気に入った店・施設がなくなった	114	47.1%
中心市街地にしかない商品・サービスがなくなった	54	22.3%
小売店の価格が高くなった	28	11.6%
小売店の品揃えが悪くなった	31	12.8%
買い物が一度で済まない	66	27.3%
家や職場・学校の場所が遠くなった	15	6.2%
中心市街地や周辺で用事がなくなった	143	59.1%
交通手段がなくなった	35	14.5%
その他	29	12.0%
無回答	2	0.8%
計	517	回答者数・・・242人

注）%数値は、回答者数に対する割合である。

● 中心市街地の活性化についての考え

様々な事業を進めてきた 2020（令和２）年度以降の３年間において、中心市街地が活性化したと思うかについては、市民は「どちらとも言えない」が 34.5%と最も多かった。また、「活性化していない」「あまり活性化していない」の合計が 39.4%と多く、中心市街地の活性化について実感が低い傾向があった。ただし、「活性化していると思う」「やや活性化していると思う」の合計も 24.0%見られた。

年代別にみると、60 歳代では、他の年代と比べて「活性化していない」「あまり活性化していない」の合計が 49.0%と特に多く、中心市街地の活性化に関する実感が低い傾向にあった。

図 58　中心市街地の活性化の印象（市民）

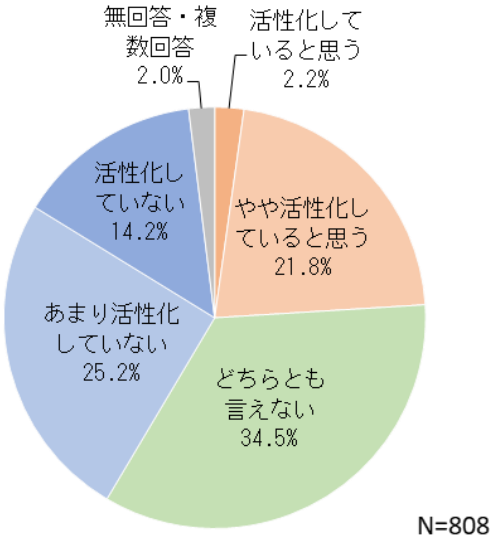
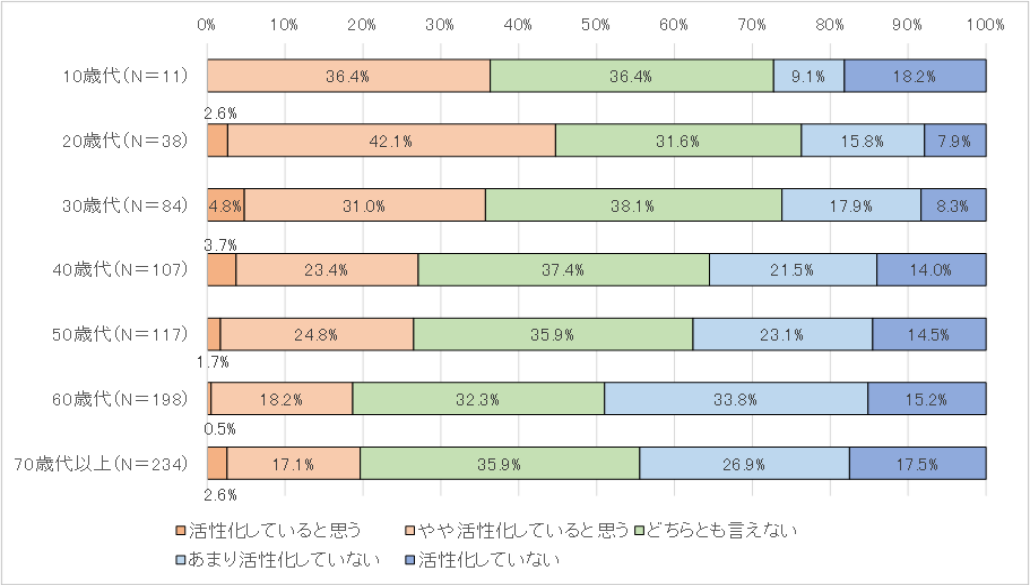


図 59　年代別　中心市街地の活性化の印象（市民）



● 中心市街地に期待するまちの機能

中心市街地に期待するまちの機能については、市民は「買い物に行きたくなるような施設、サービス、環境が整っている」が 63.6%と最も多く、次いで飲食、高齢者の暮らしやすさ、友人との集い、趣味に関する機能が多く求められている。

高校生は「飲食が楽しめる施設、サービス、環境が整っている」が 73.8%と最も多く、次いで友人との集い、買い物に関する機能が求められる傾向が見受けられた。

年代別でみると、10 歳代では「友人知人と集うことができる施設・サービス・環境」、10 歳代、20 歳代、40 歳代では「飲食が楽しめる施設・サービス・環境」、30 歳代では、「子育てに関する施設・サービス・環境」、70 歳以上では「高齢者が暮らしやすい施設・サービス・環境」が、他の年代と比較して求められている傾向がみられる。

図 60　中心市街地に期待する機能（市民）

選択肢	件数	
子育てに関する施設、サービス、環境が整っている	175	21.7%
高齢者が暮らしやすい施設、サービス、環境が整っている	267	33.0%
働きやすい施設、サービス、環境が整っている	116	14.4%
飲食が楽しめる施設、サービス、環境が整っている	445	55.1%
友人知人と集うことができる施設、サービス、環境が整っている	245	30.3%
買い物に行きたくなるような施設、サービス、環境が整っている	514	63.6%
音楽・芸術・スポーツ等趣味を楽しめるような施設、サービス、環境が整っている	253	31.3%
その他	35	4.3%
無回答・複数回答	48	5.9%
計	2098	回答者数・・・808人

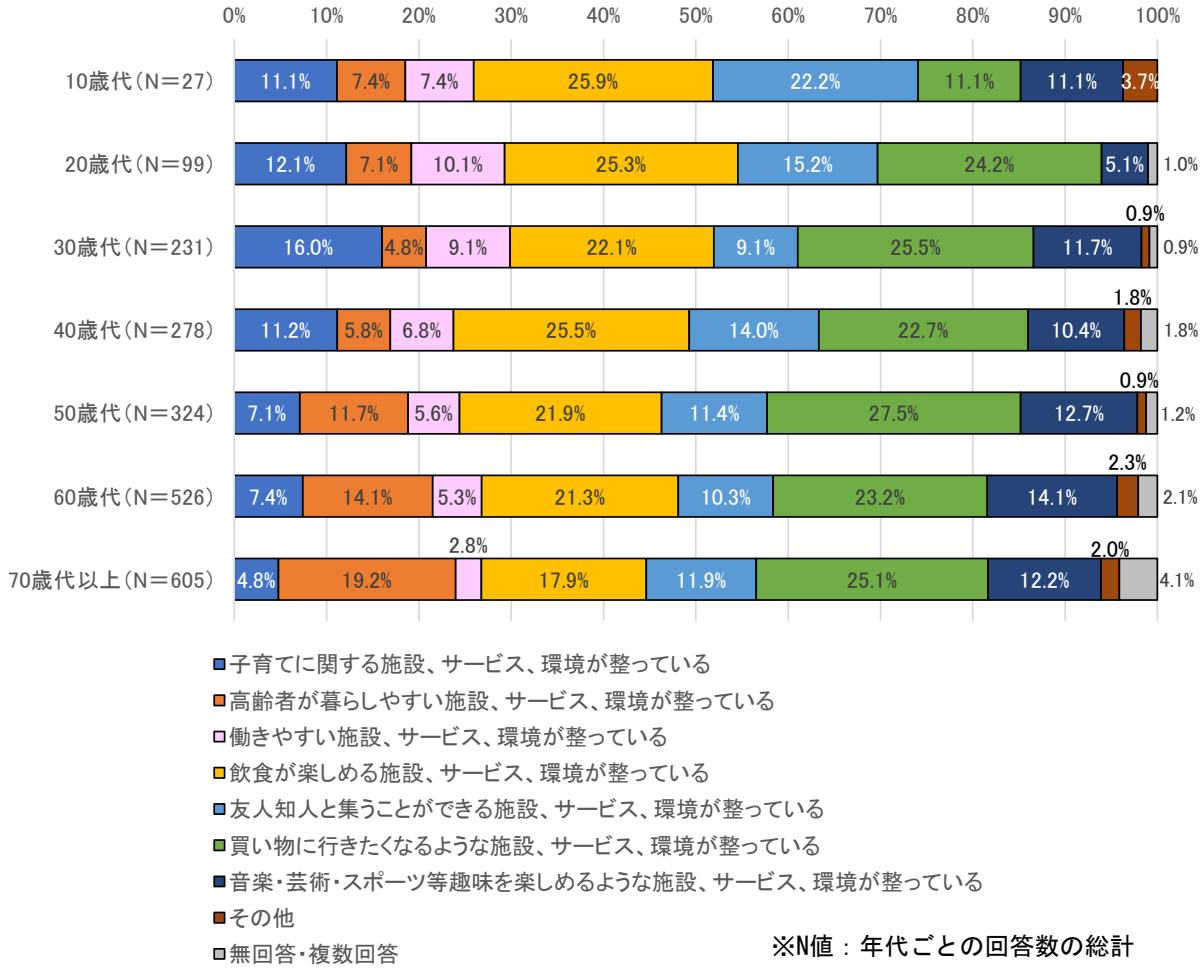
注）%数値は、回答者数に対する割合である。

図 61　中心市街地に期待する機能（高校生）

選択肢	件数	
飲食が楽しめる施設、サービス、環境が整っている	285	73.8%
友人等と集うことができる施設、サービス、環境が整っている	268	69.4%
買い物に行きたくなるような施設、サービス、環境が整っている	244	63.2%
音楽・芸術・スポーツ等趣味を楽しめるような施設、サービス、環境が整っている	94	24.4%
その他	20	5.2%
計	911	回答者数・・・386人

注）%数値は、回答者数に対する割合である。

図 62　年代別　中心市街地に期待する機能（市民）



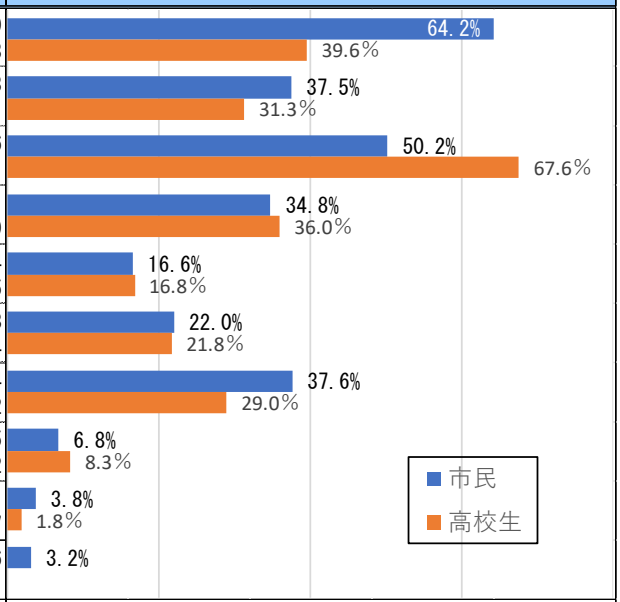
※N値：年代ごとの回答数の総計

● 中心市街地の魅力向上・活性化に必要な取組

中心市街地の魅力向上・活性化に必要な取組については、市民は「空き家・空き店舗や空き地などの対策の推進」が 64.2%と最も多く、次いで、「公共交通（バスや鉄道等）の利便性の向上」が多い。高校生は「公共交通（バスや鉄道等）の利便性の向上」が 67.6%と最も多い。地域別にみると、中心市街地以外の居住者ほど公共交通の利便性向上を求めている傾向がみられる。

図 63　中心市街地の魅力向上・活性化に必要な取組

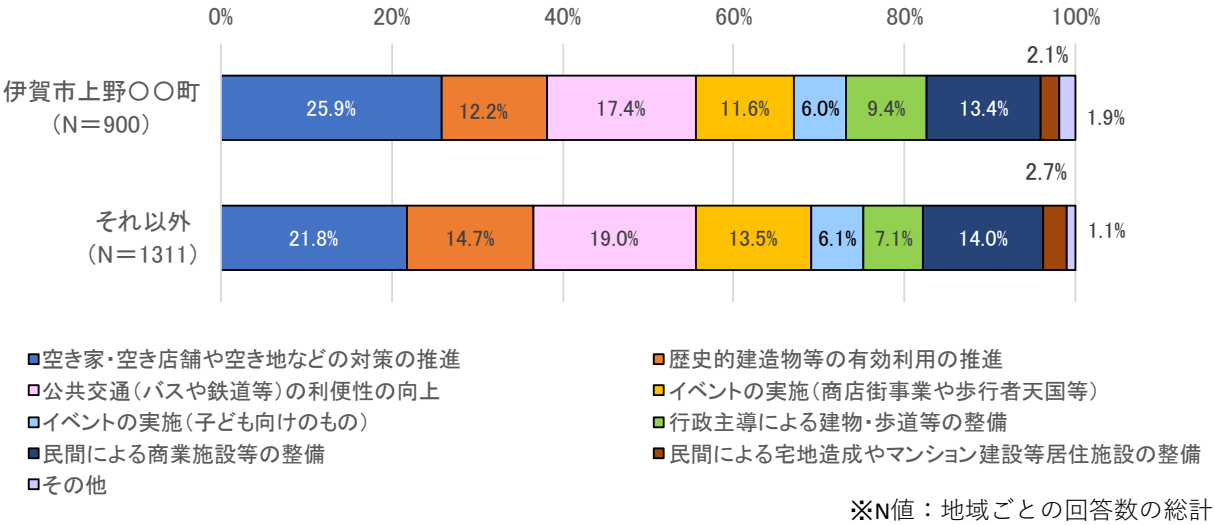
選択肢	件数
空き家・空き店舗や空き地などの対策の推進	519 153
歴史的建造物等の有効利用の推進	303 121
公共交通（バスや鉄道等）の利便性の向上	406 261
イベントの実施（商店街事業や歩行者天国等）	281 139
イベントの実施（子ども向けのもの）	134 65
行政主導による建物・歩道等の整備	178 84
民間による商業施設等の整備	304 112
民間による宅地造成やマンション建設等居住施設の整備	55 32
その他	31 7
無回答・複数回答	26
計	2237 974



回答者数・・・808人（市民）、386人（高校生）

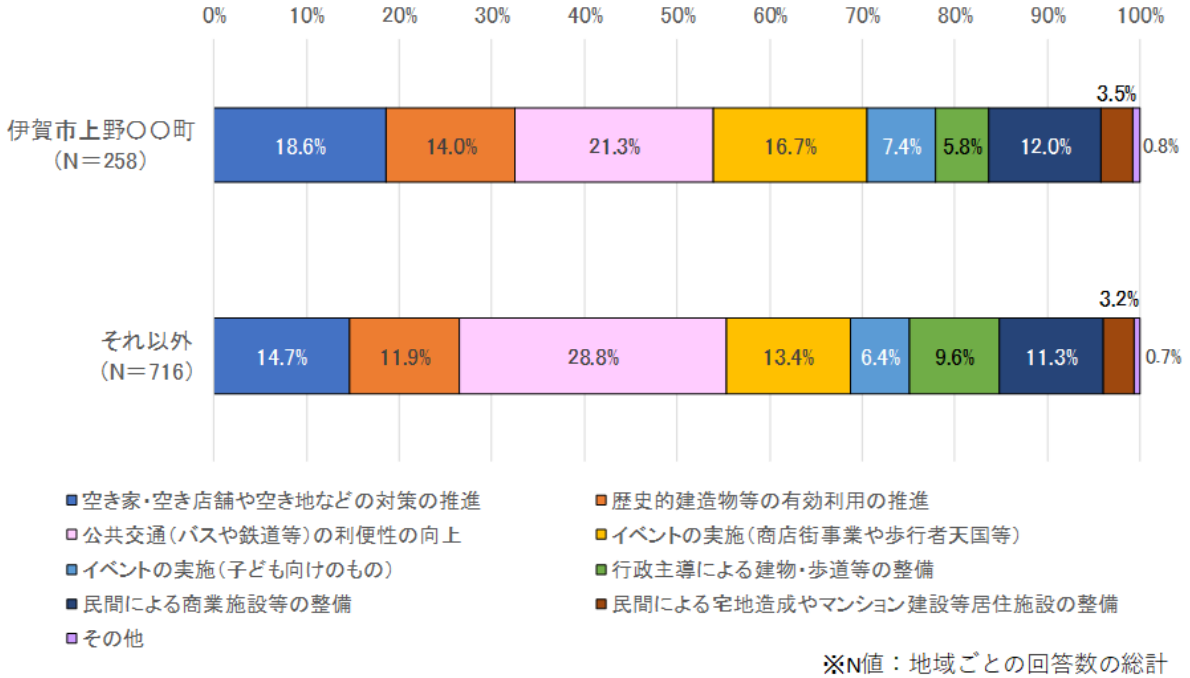
注）%数値は、回答者数に対する割合である。

図 64　地域別　中心市街地の魅力向上・活性化に必要な取組（市民）



※N値：地域ごとの回答数の総計

図 65　地域別　中心市街地の魅力向上・活性化に必要な取組（高校生）



※N値：地域ごとの回答数の総計

● 中心市街地の回遊性向上に有効なもの

中心市街地の回遊性向上に有効なものについては、市民、高校生ともに「魅力的な店舗・施設の整備」が 70.9%、62.2%と最も多かった。次いで市民は「オープンスペースや道路空間の活用」、「駐車場の整備」、「中心市街地内の公共交通の充実」が、高校生は「中心市街地内の公共交通の充実」が多く、魅力的な目的地と公共交通の利便性に対して有効性があると感じている傾向がある。

図 66　中心市街地の回遊性向上に有効なもの

選択肢	件数	
中心市街地内の公共交通の充実	296 181	36.6% 46.9%
レンタサイクル・シェアサイクルの充実	101 80	12.5% 20.7%
魅力的な店舗・施設の整備	573 240	70.9% 62.2%
まちなかの情報発信	207 62	25.6% 16.1%
スタンプラリー等のまちを回遊してもらうための仕掛けの充実	82 53	10.1% 13.7%
歩道の整備（歩道の木陰、ベンチ等の整備）	226 106	28.0% 27.5%
おすすめルートの案内看板整備	96 52	11.9% 13.5%
駐車場の整備	313 83	38.7% 21.5%
まちなかのオープンスペースや道路空間の活用（例：オープンカフェ、キッチンカー、憩い空間等）	329 93	40.7% 24.1%
その他	22 8	2.7% 2.1%
無回答・複数回答	29	3.6%
計	2274 958	回答者数・・・808人（市民）、386人（高校生）

注）%数値は、回答者数に対する割合である。

(2) 来訪者アンケート

1） 来訪者アンケート実施概要

① 調査の目的

中心市街地での交流促進に向けて、来訪者の伊賀市及び中心市街地での行動特性や、観光面でのニーズ等を把握する。

② 調査概要

調査方法	WEB アンケート
調査対象	伊賀市を訪れたことのある市外居住者
調査時期	2023（令和５）年 10 月
回収数	513 通

2）調査結果

● 伊賀市への来訪回数

伊賀市への来訪回数については、「１回」が 32.9%と最も多い。年代別にみると、他の年代と比べて 40 歳代以降のリピート回数が多く、10 歳代以下の再来訪が相対的に少ない傾向がある。また、居住地別にみると、三重県からのリピート回数が多く、関東地方からの再来訪が相対的に少ない傾向があるが、関東地方でも６割弱の方には２回以上の来訪経験がある。

図 67　伊賀市への来訪回数

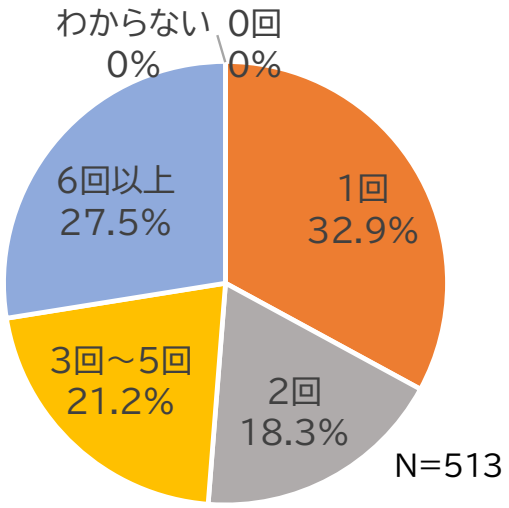
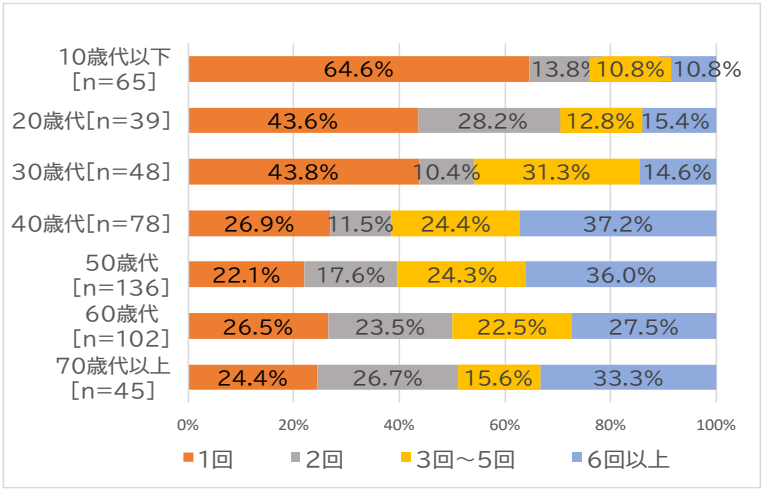
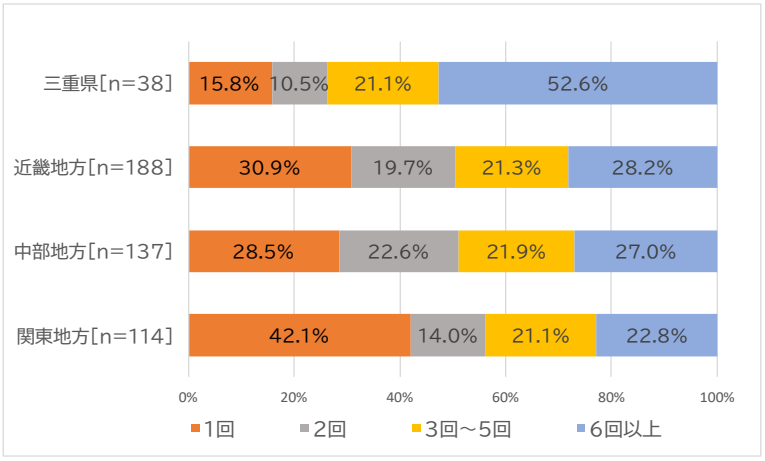


図 68　伊賀市への来訪回数（上図：年代別、下図：居住地別）

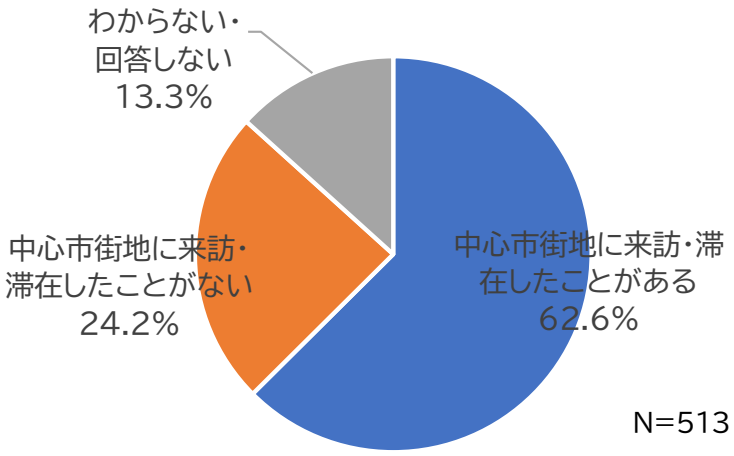




● 中心市街地への来訪・滞在状況

中心市街地への来訪・滞在状況については、62.6%の方に中心市街地への来訪・滞在経験がある。

図 69　中心市街地への来訪・滞在状況



● 中心市街地への来訪・滞在目的

中心市街地への来訪・滞在目的については、「観光」の回答が 80.7%と最も多く、次いで「飲食」、「業務・ビジネス」が多い。年代別でみると、20 歳代～40 歳代における「飲食」「買い物」のニーズが大きい傾向があり、特に 20 歳代の「飲食」のニーズが大きい傾向がある。また、居住地別にみると、三重県からの来訪者は「観光」「飲食」目的の来訪者が多く、中部地方、関東地方は「業務・ビジネス」目的の来訪者が他地域と比較して多い傾向がある。

図 70　中心市街地への来訪・滞在目的

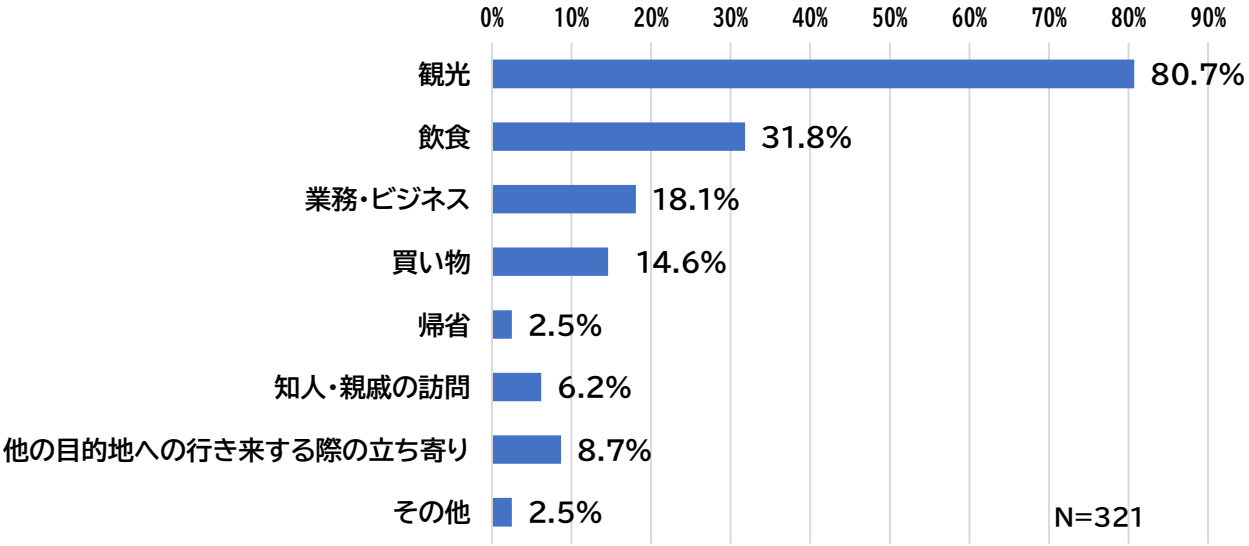


図 71　年代別　中心市街地への来訪・滞在目的

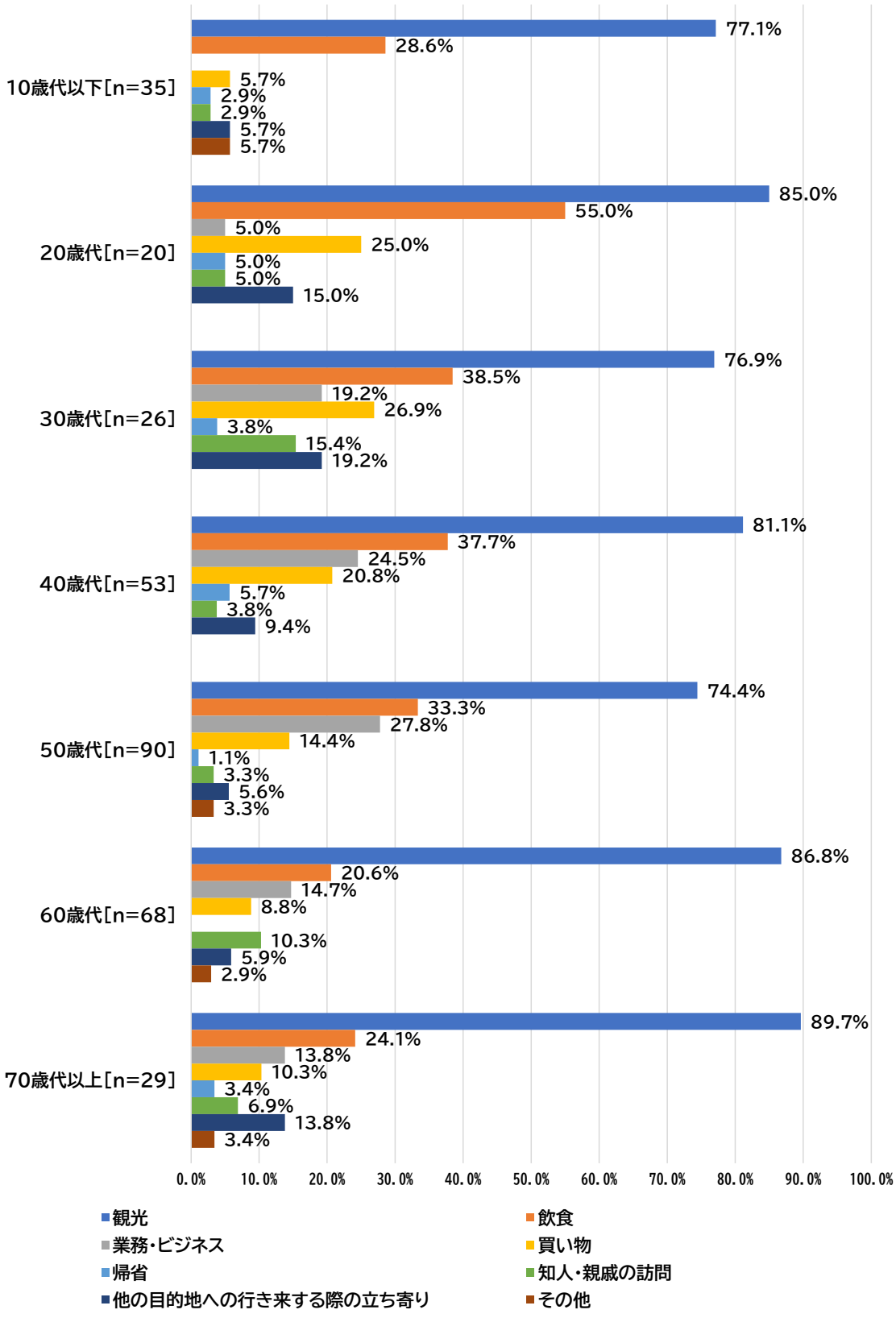
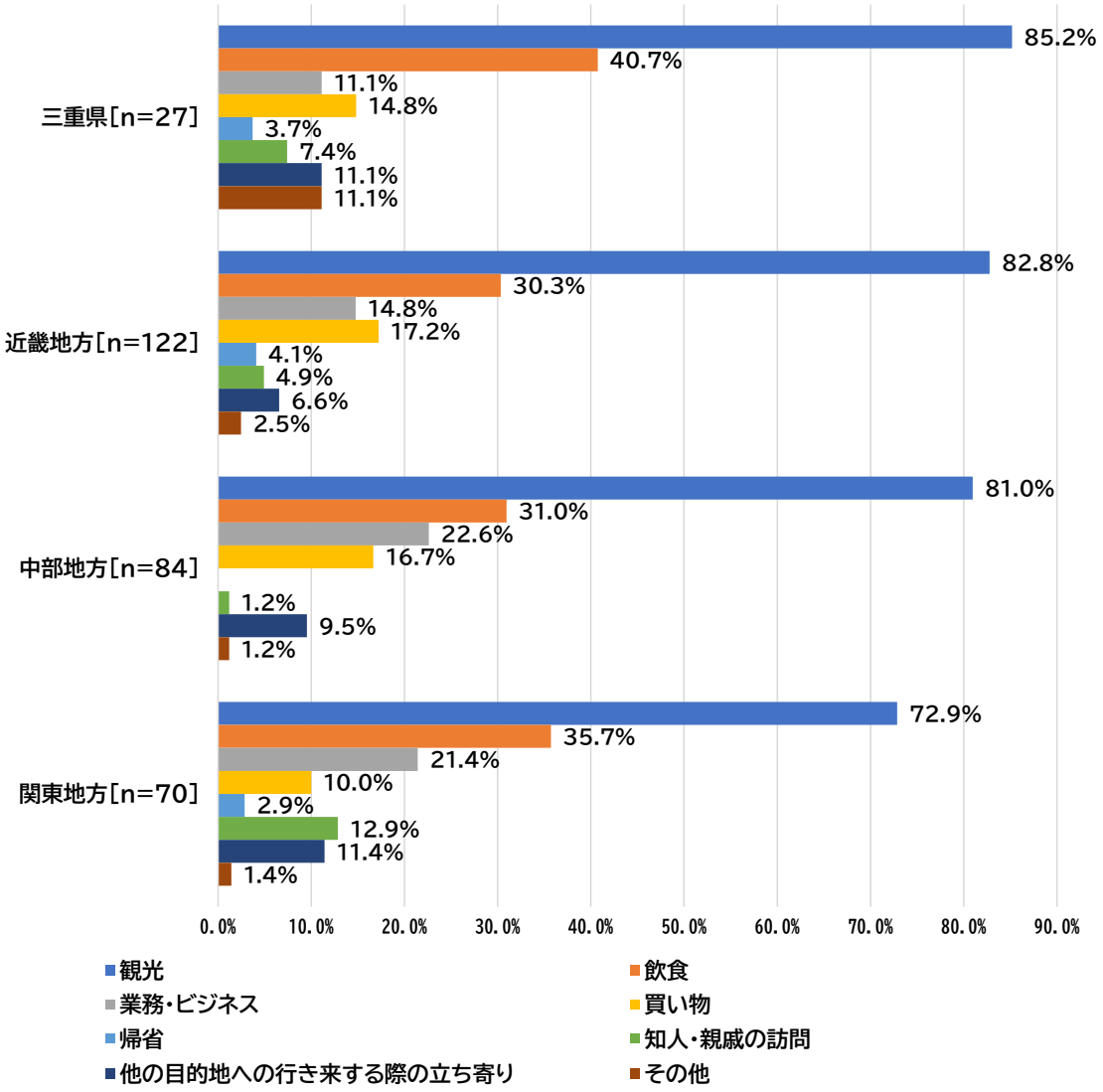


図 72　居住地別　中心市街地への来訪・滞在目的



● 中心市街地へ訪問しなかった理由

中心市街地へ来訪・滞在しなかった理由については、「訪問する目的がなかった」の回答が最も多い。

その他の回答では、年代別にみると、10 歳代以下、40 歳代では「交通の便が悪かった、場所が遠かった」、70 歳代以上では「中心市街地に関する情報不足」を多く挙げている傾向がある。また、居住地別にみると、近畿地方では「交通の便が悪かった、場所が遠かった」、関東地方では、「時間がなかった」を多く挙げている傾向がある。

図 73　年代別　中心市街地への来訪・滞在しなかった理由

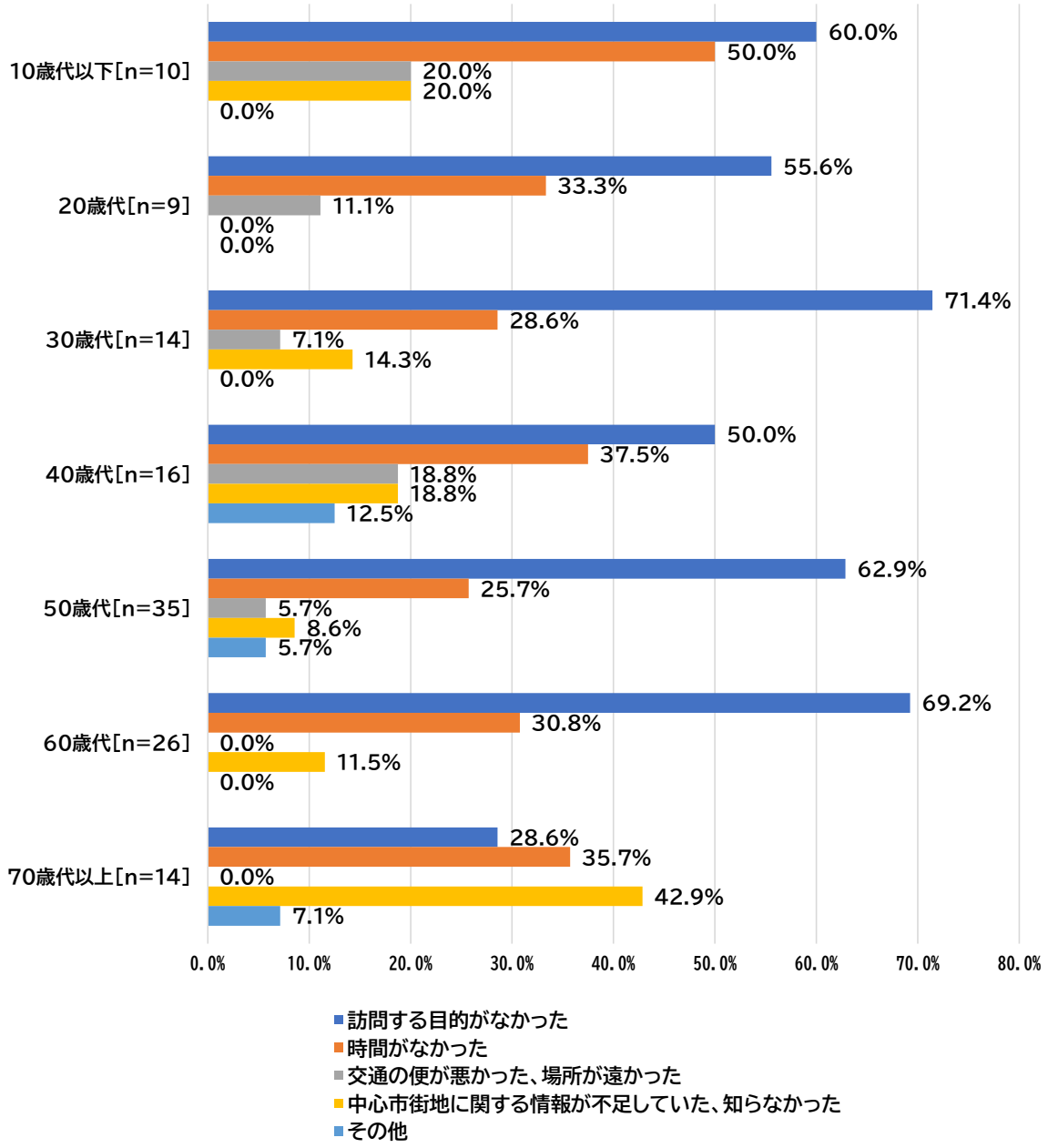
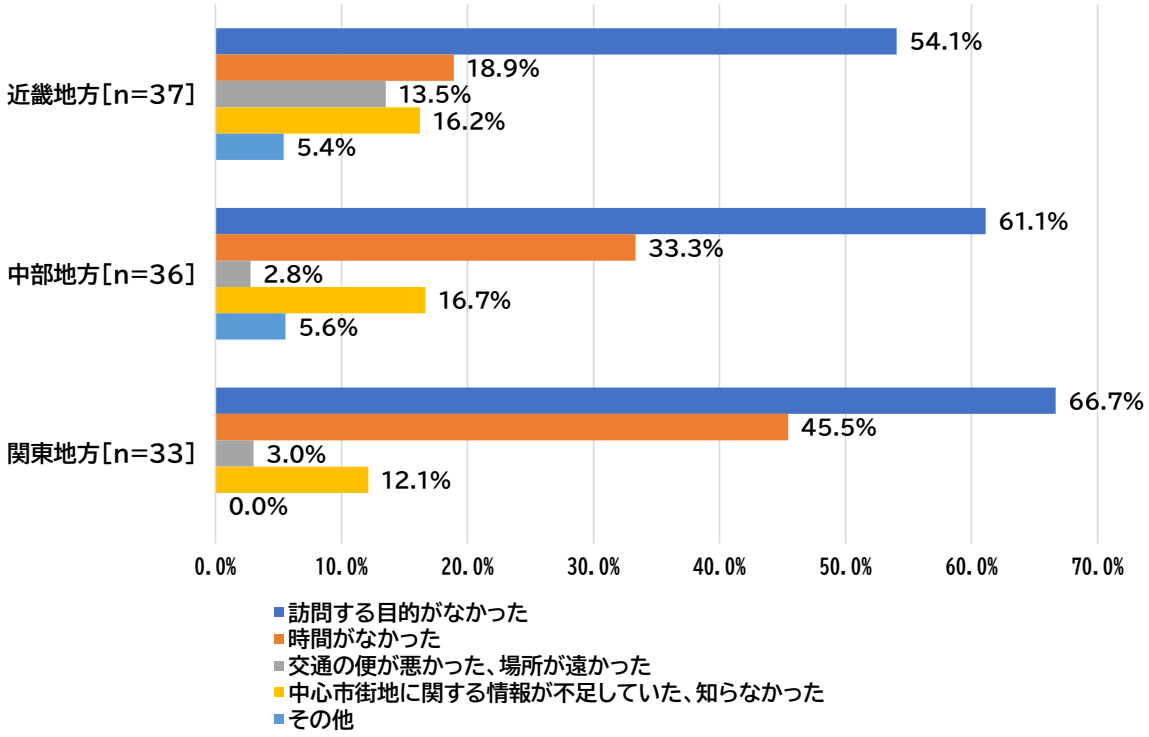


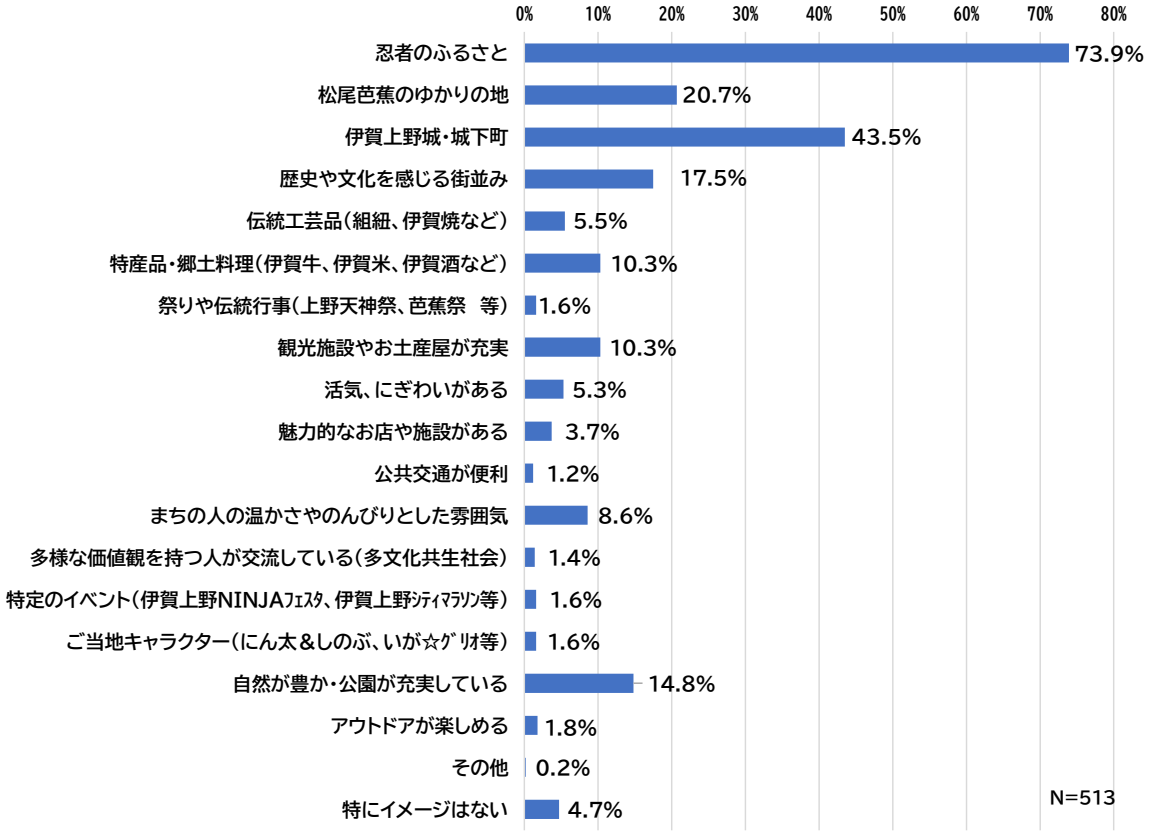
図 74　居住地別　中心市街地への来訪・滞在しなかった理由



● 伊賀市・中心市街地のイメージ

伊賀市・中心市街地のイメージについては、「忍者のふるさと」が 73.9%で最も多く、次いで「伊賀上野城・城下町」が 43.5%、「松尾芭蕉ゆかりの地」が 20.7%と、伊賀の歴史に対するイメージを強く抱いている傾向がある。

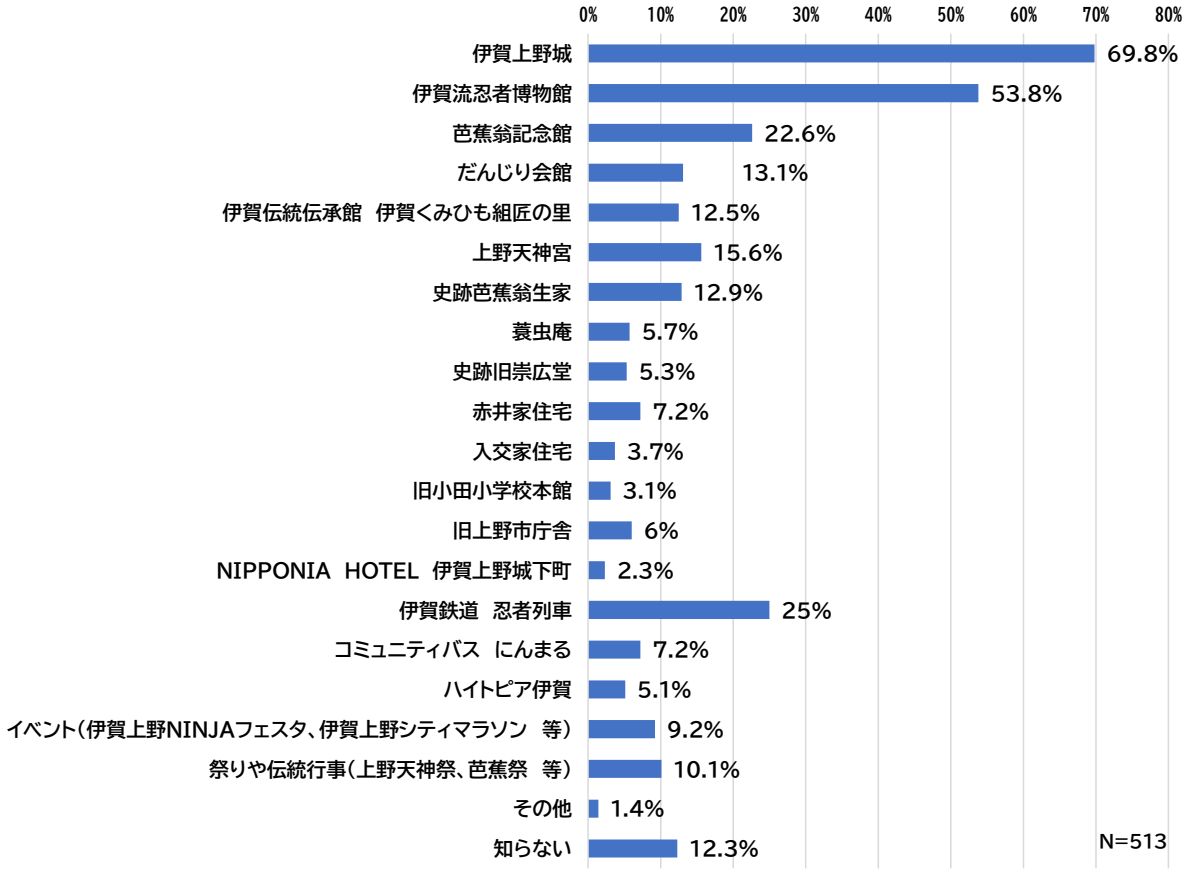
図 75　伊賀市・伊賀市中心市街地のイメージ



● 中心市街地の地域資源認知度

認知している中心市街地の地域資源については、「伊賀上野城」が 69.8%と最も多く、次いで「伊賀流忍者博物館」が 53.8%、「伊賀鉄道忍者列車」が 25.0%と、主要な歴史的資源、忍者に関する資源に対する認知度が高い傾向がある。

図 76　中心市街地の地域資源認知度



● 中心市街地の魅力

中心市街地の魅力については、「歴史や文化を感じるまちなみ」に対して「そう思う」「ややそう思う」の合計が 86.6%と最も多く、次いで、「人の温かさやのんびりとした雰囲気」、「観光施設やお土産屋の充実」が多い。居住地別にみると、関東地方では、他の居住地と比べて伊賀市の魅力について肯定的な意見の割合が相対的に高い。

図 77　中心市街地の魅力

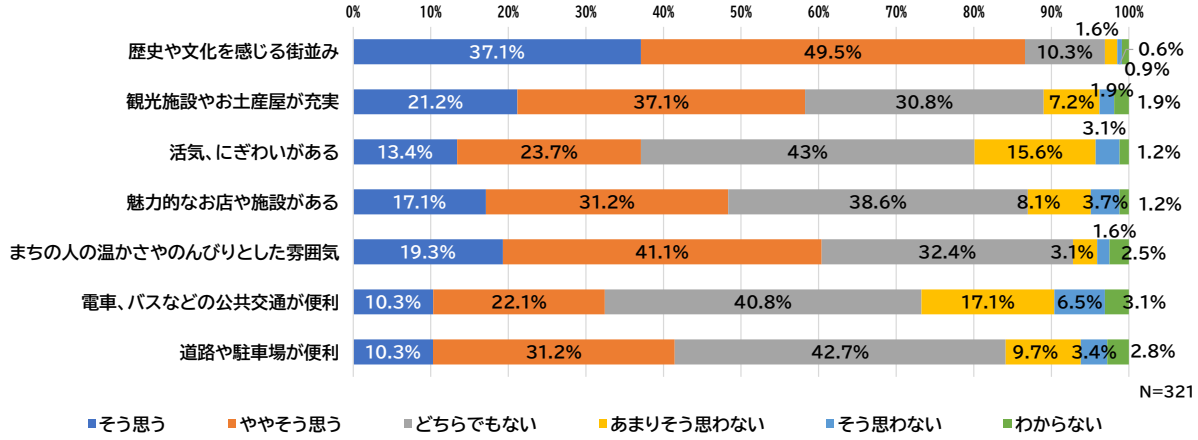
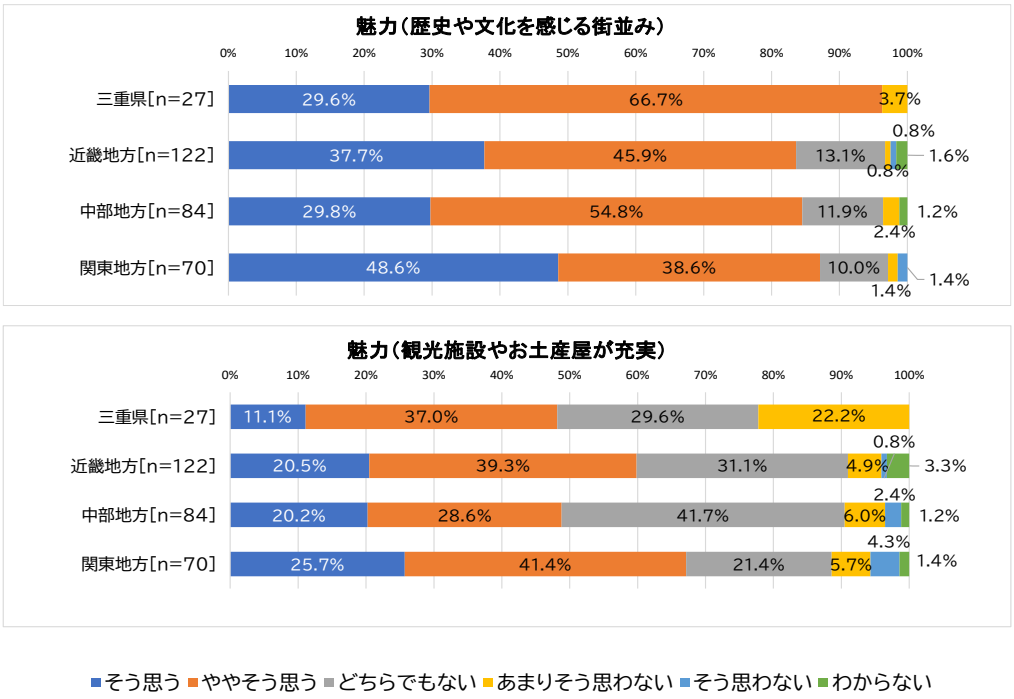
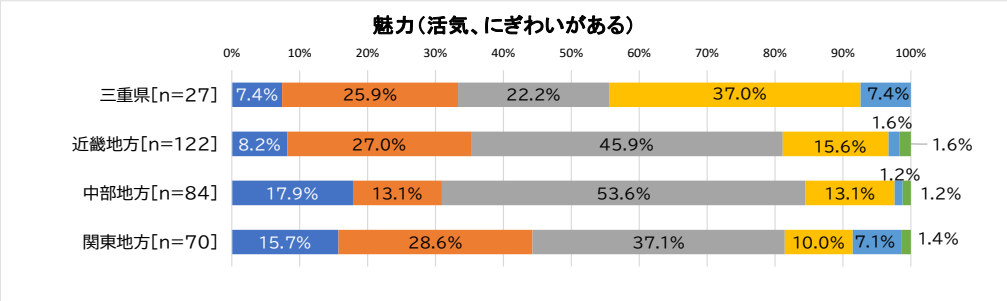
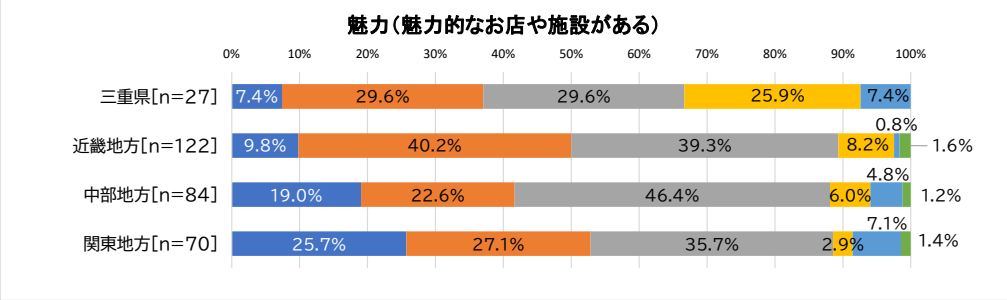
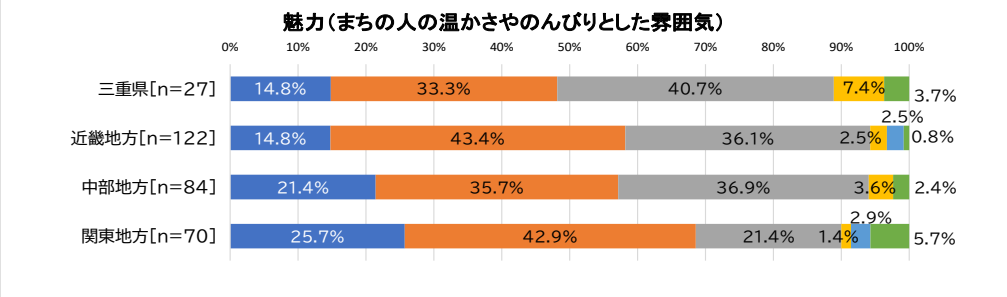


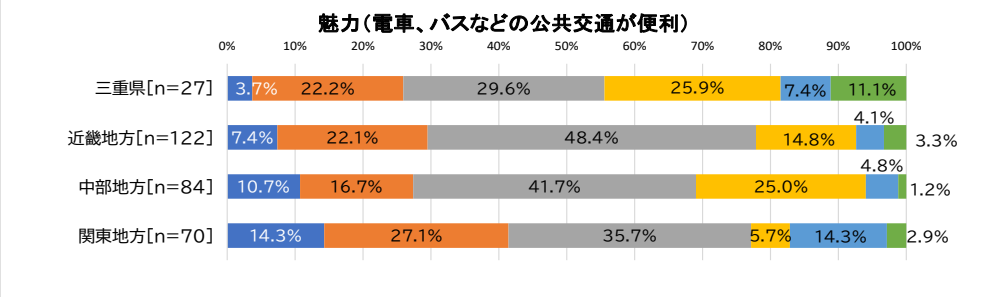
図 78　居住地別　中心市街地の魅力

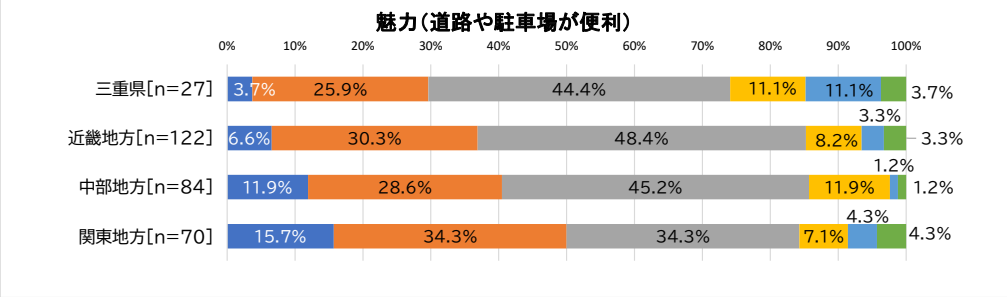












■そう思う ■ややそう思う ■どちらでもない ■あまりそう思わない ■そう思わない ■わからない

● 中心市街地の課題

中心市街地の課題については、「公共交通手段が不便」に対して「そう思う」「ややそう思う」の合計が 39.9%と最も多く、多くの来訪者が公共交通の不便さを課題として感じていることが伺えた。居住地別にみると、中部地方、関東地方では行きたいお店やスポットの無さに対して、三重県では活気やにぎわい、駐車場、飲食店、観光情報の不足に対して課題と感じている傾向が強い。

図 79　中心市街地の課題

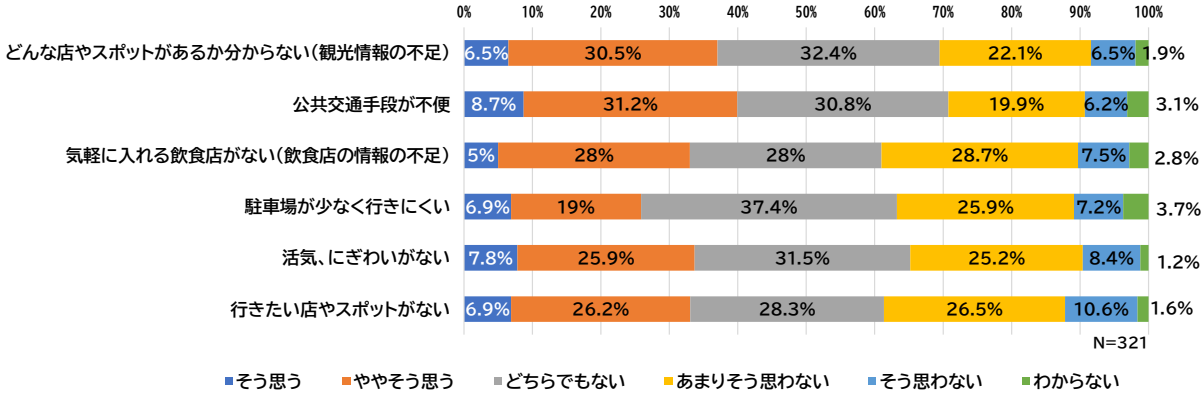
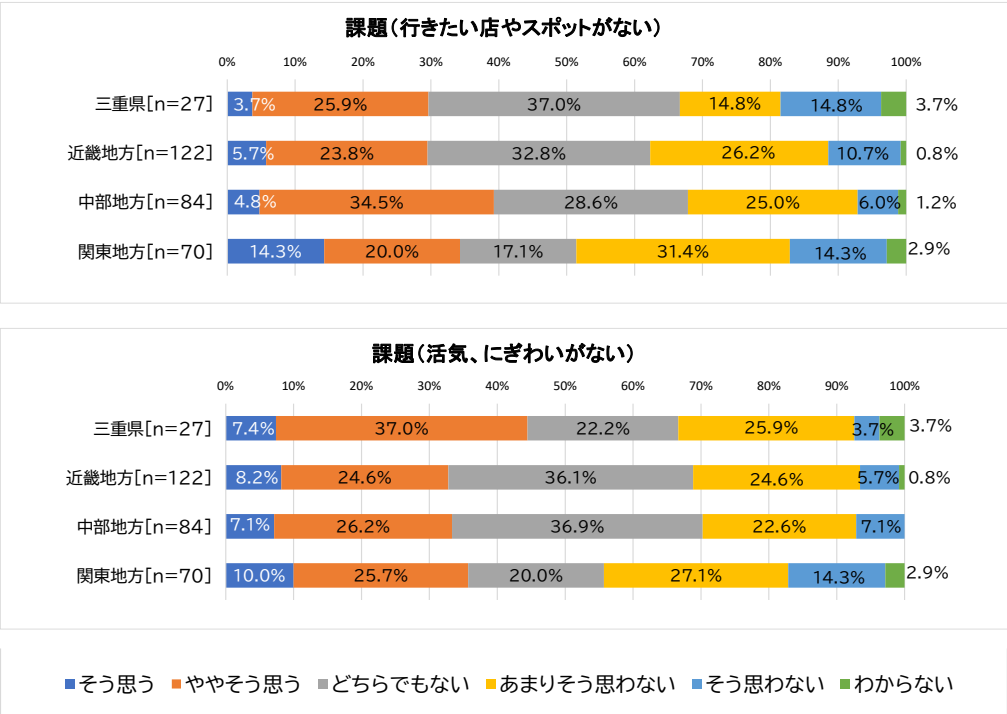
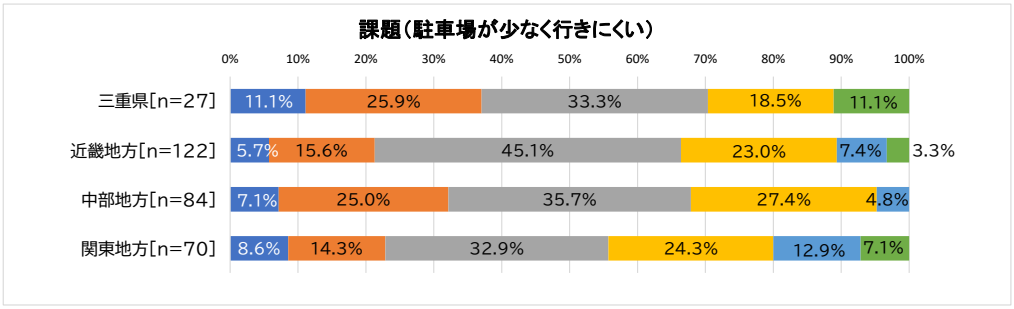
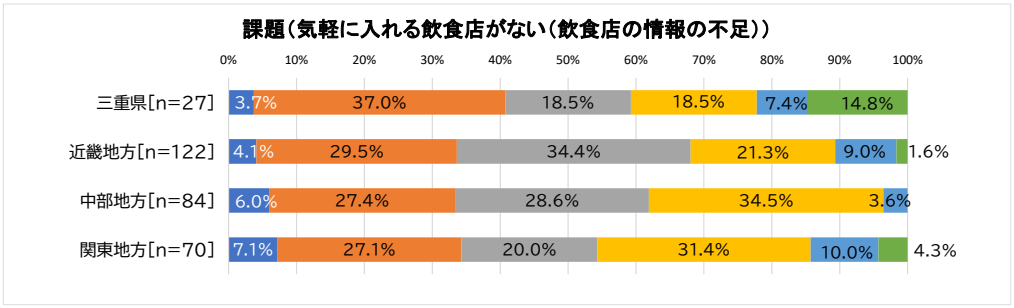
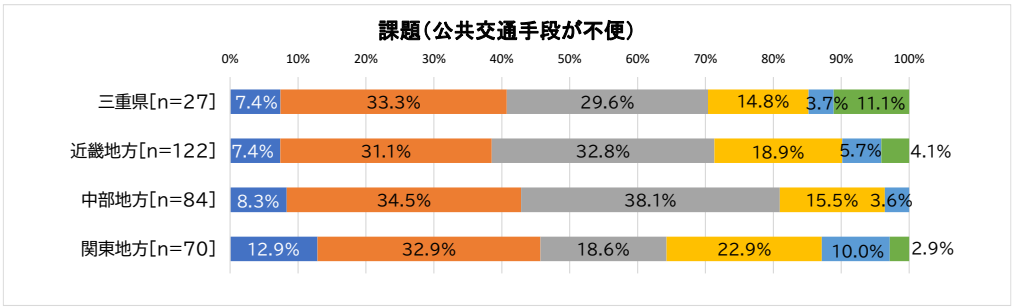


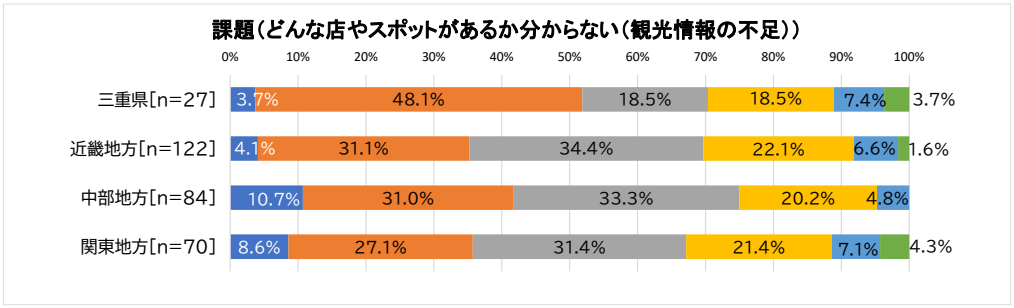
図 80　居住地別　中心市街地の課題




課題（駐車場が少なく行きにくい）
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
三重県[n=27] 11.1% 25.9% 33.3% 18.5% 11.1%
近畿地方[n=122] 5.7% 15.6% 45.1% 23.0% 7.4% 3.3%
中部地方[n=84] 7.1% 25.0% 35.7% 27.4% 4.8%
関東地方[n=70] 8.6% 14.3% 32.9% 24.3% 12.9% 7.1%


課題（気軽に入れる飲食店がない（飲食店の情報の不足））
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
三重県[n=27] 3.7% 37.0% 18.5% 18.5% 7.4% 14.8%
近畿地方[n=122] 4.1% 29.5% 34.4% 21.3% 9.0% 1.6%
中部地方[n=84] 6.0% 27.4% 28.6% 34.5% 3.6%
関東地方[n=70] 7.1% 27.1% 20.0% 31.4% 10.0% 4.3%


課題（公共交通手段が不便）
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
三重県[n=27] 7.4% 33.3% 29.6% 14.8% 3.7% 11.1%
近畿地方[n=122] 7.4% 31.1% 32.8% 18.9% 5.7% 4.1%
中部地方[n=84] 8.3% 34.5% 38.1% 15.5% 3.6%
関東地方[n=70] 12.9% 32.9% 18.6% 22.9% 10.0% 2.9%


課題（どんな店やスポットがあるか分からない（観光情報の不足））
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
三重県[n=27] 3.7% 48.1% 18.5% 18.5% 7.4% 3.7%
近畿地方[n=122] 4.1% 31.1% 34.4% 22.1% 6.6% 1.6%
中部地方[n=84] 10.7% 31.0% 33.3% 20.2% 4.8%
関東地方[n=70] 8.6% 27.1% 31.4% 21.4% 7.1% 4.3%

そう思う
ややそう思う
どちらでもない
あまりそう思わない
そう思わない
わからない

● 中心市街地の将来像

中心市街地がどのようになっていればより行ってみたいと思うかについては、「忍者や歴史などに関する観光資源が充実している」が 40.2%と最も多く、次いで「ランチやディナーを楽しめるレストランなどの飲食店が充実している」、「カフェや食事を楽しめる飲食店が充実している」など、飲食店の充実に対するニーズが大きい傾向がある。

年代別でみると、20 歳代以下ではカフェやレストラン等の飲食店に対するニーズが高く、観光資源に対するニーズが低い傾向がある。

居住地別にみると、三重県ではカフェやレストラン等の飲食店に対して、関東地方では観光資源に対してニーズが高い傾向がある。

図 81　中心市街地がどのようになればより行ってみたいと思うか

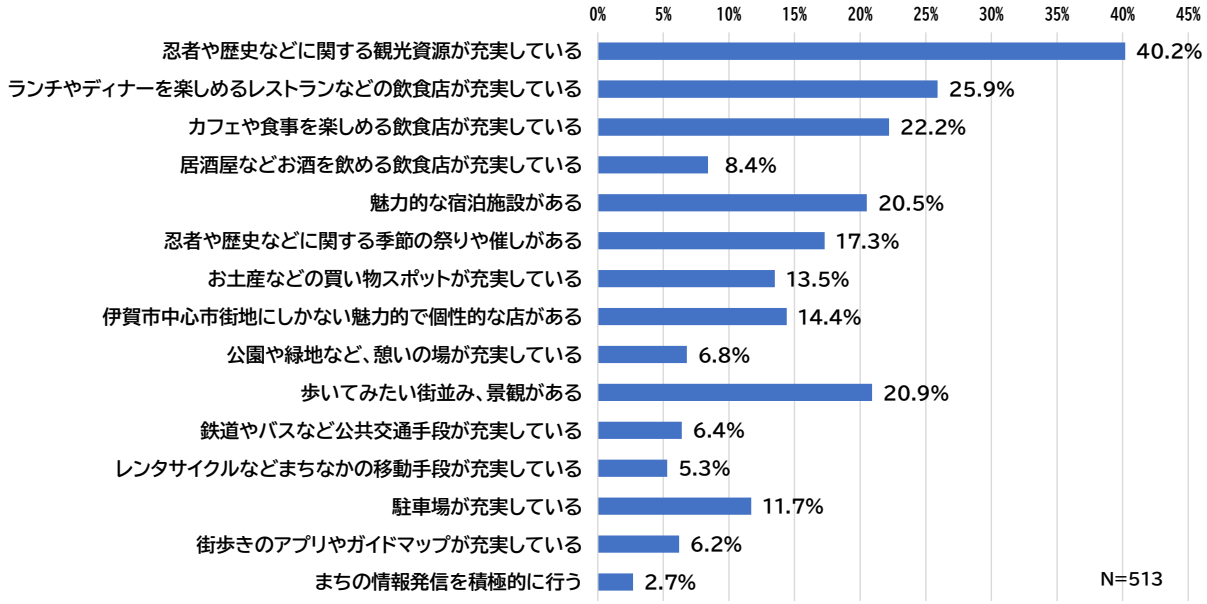
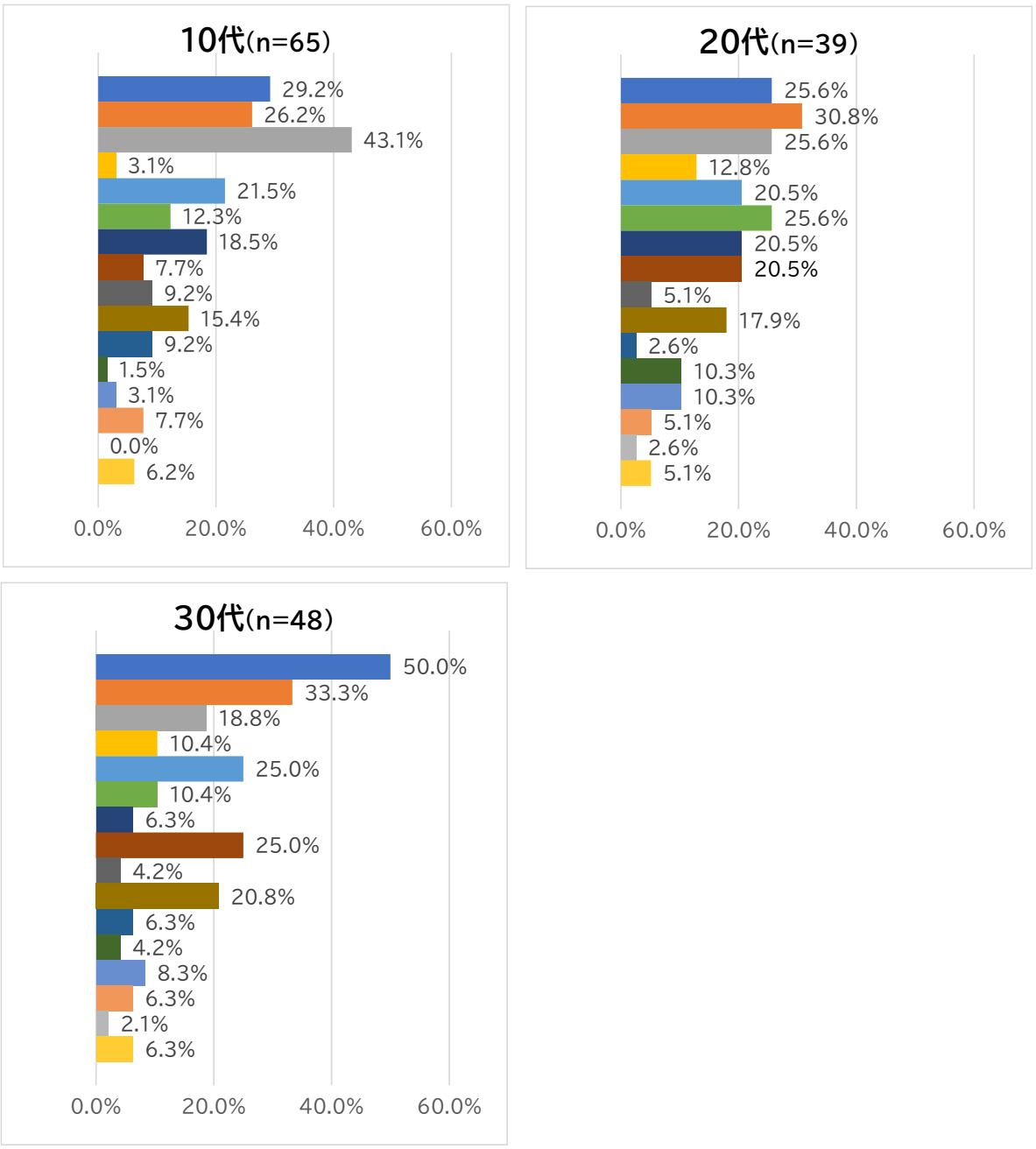
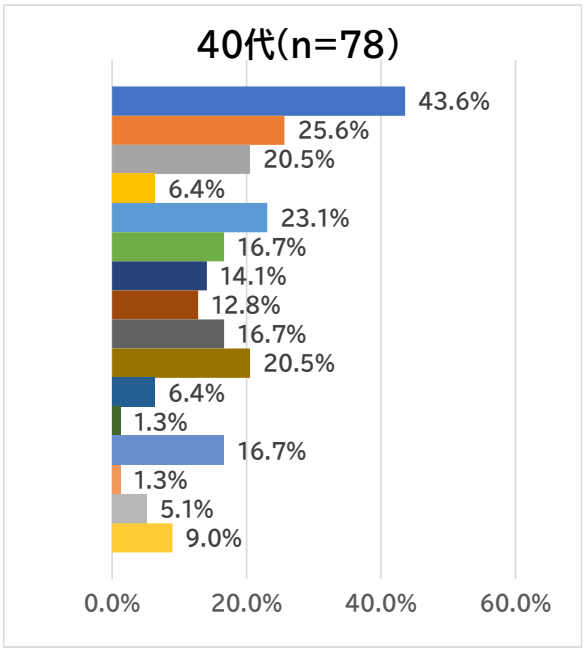
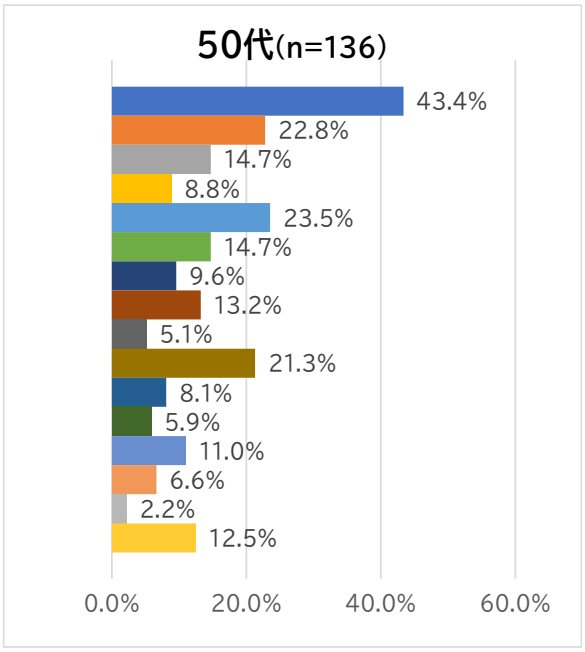
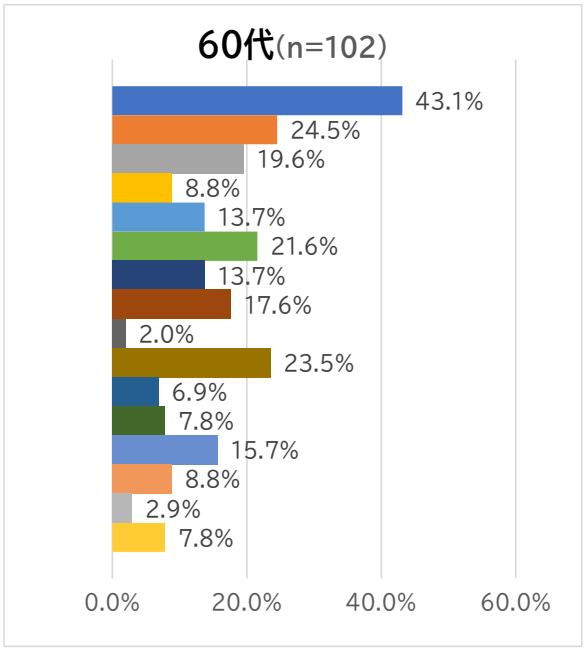


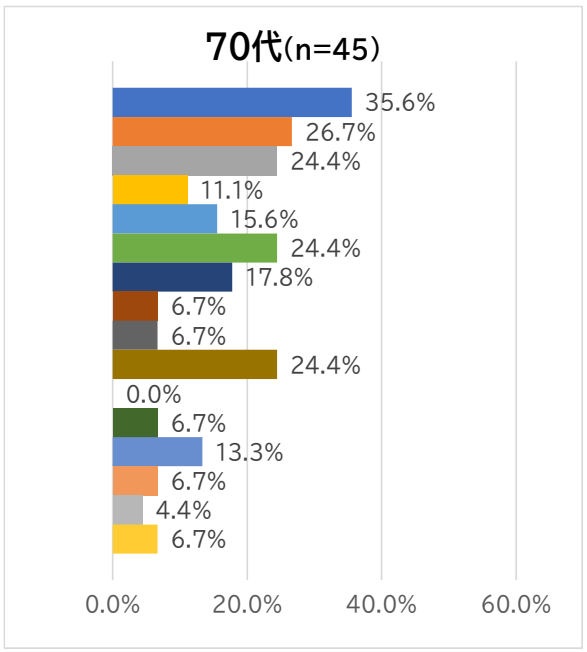
図 82　年代別　中心市街地がどのようになればより行ってみたいと思うか




40代(n=78)
43.6%
25.6%
20.5%
6.4%
23.1%
16.7%
14.1%
12.8%
16.7%
20.5%
6.4%
1.3%
16.7%
1.3%
5.1%
9.0%
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%


50代(n=136)
43.4%
22.8%
14.7%
8.8%
23.5%
14.7%
9.6%
13.2%
5.1%
21.3%
8.1%
5.9%
11.0%
6.6%
2.2%
12.5%
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%


60代(n=102)
43.1%
24.5%
19.6%
8.8%
13.7%
21.6%
13.7%
17.6%
2.0%
23.5%
6.9%
7.8%
15.7%
8.8%
2.9%
7.8%
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%


70代(n=45)
35.6%
26.7%
24.4%
11.1%
15.6%
24.4%
17.8%
6.7%
6.7%
24.4%
0.0%
6.7%
13.3%
6.7%
4.4%
6.7%
0.0%
20.0%
40.0%
60.0%

忍者や歴史などに関する観光資源が充実している
ランチやディナーを楽しめるレストランなどの飲食店が充実している
カフェや食事を楽しめる飲食店が充実している
居酒屋などお酒を飲める飲食店が充実している
魅力的な宿泊施設がある
忍者や歴史などに関する季節の祭りや催しがある
お土産などの買い物スポットが充実している
伊賀市中心市街地にしかない魅力的で個性的な店がある
公園や緑地など、憩いの場が充実している
歩いてみたい街並み、景観がある
鉄道やバスなど公共交通手段が充実している
レンタサイクルなどまちなかの移動手段が充実している
駐車場が充実している
街歩きのアプリやガイドマップが充実している
まちの情報発信を積極的に行う
その他

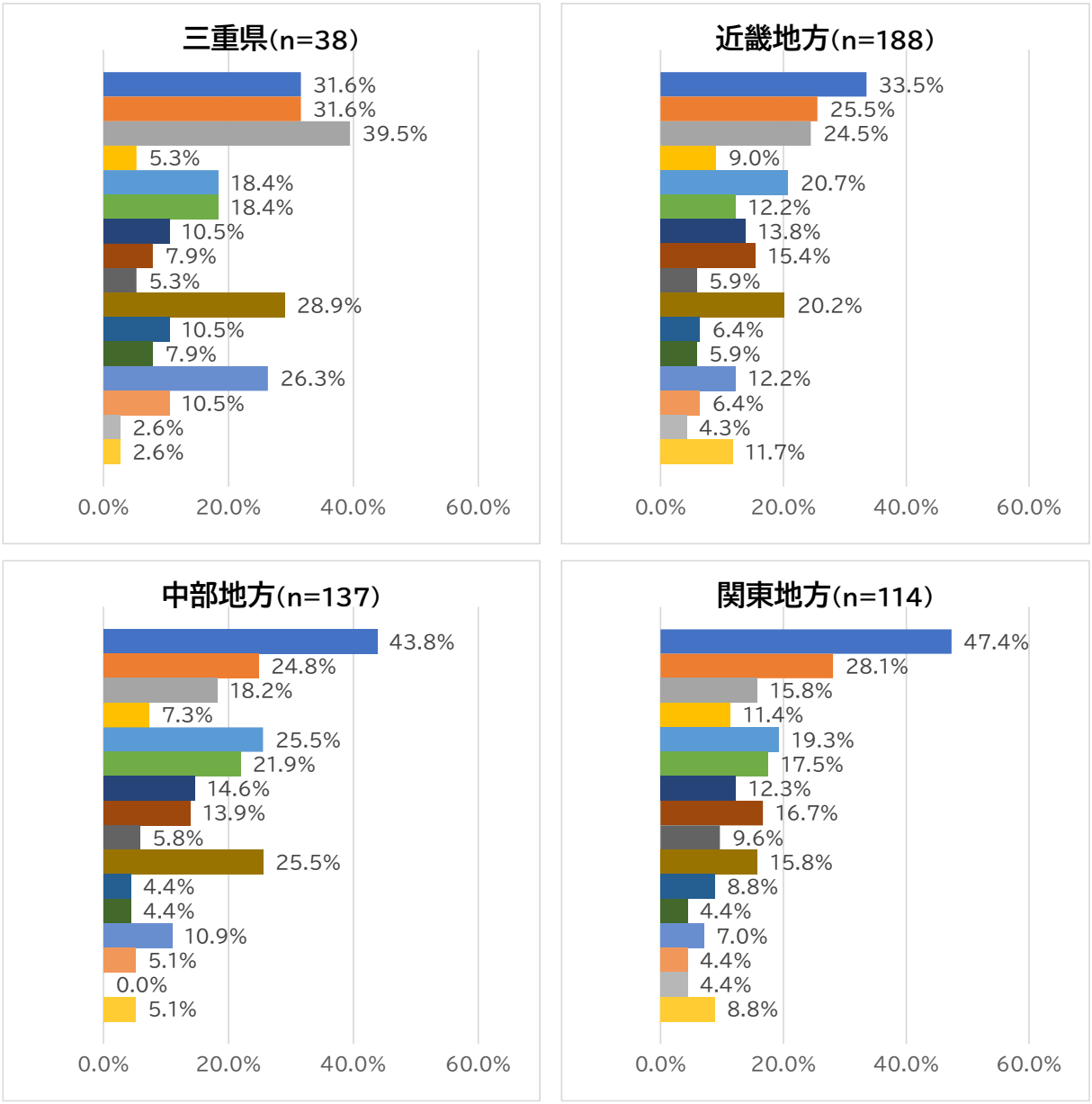



図 83　居住地別　中心市街地がどのようになればより行ってみたいと思うか